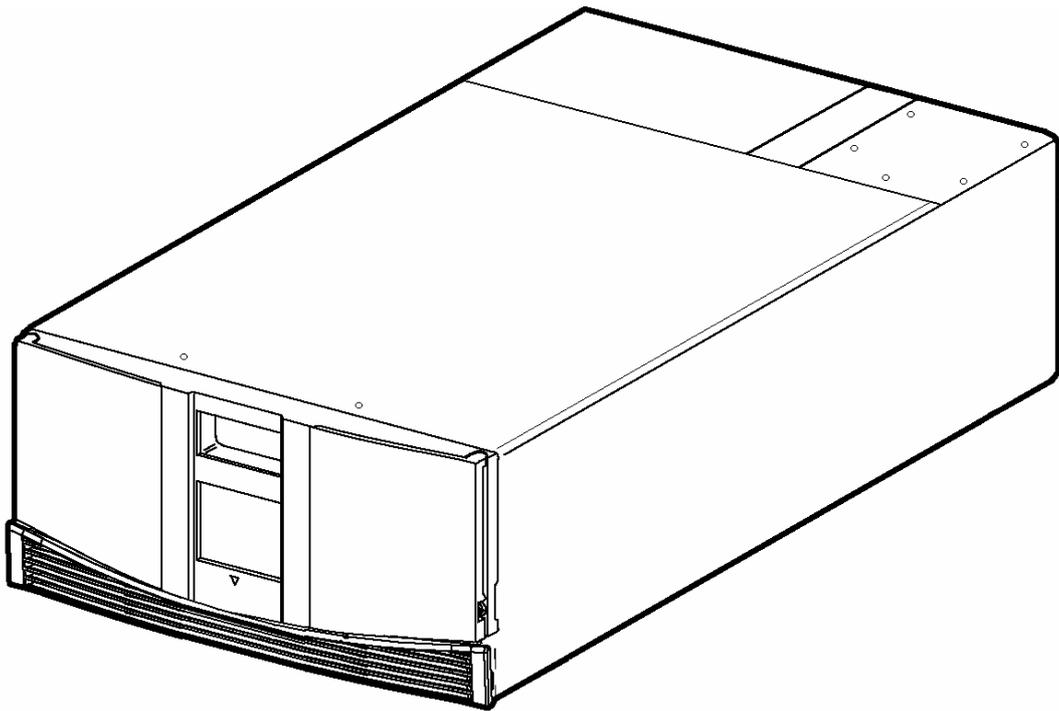


本書は製品とともに大切に保管してください

N8160-50
Upgrade 型 LTO ライブラリ
(ラックマウント用)
取扱説明書



856-850338-B

このユーザーズガイドは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。
「安全上のご注意」および「使用上のご注意」を必ずお読みください。

安全上のご注意 ~ 必ずお読みください ~

本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。

 警告	指示を守らないと人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示しています。
 注意	指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示しています。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (分解禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

(本書での表示例)

注意を促す記号 危険に対する注意の内容 危険の程度を表す用語

		 警告
	<p>人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しないで下さい。</p> <p>本装置は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。</p>	

本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	特定しない一般的な注意・警告を示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	感電のおそれがあることを示します。		

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		分解・修理しないでください。感電や火災のおそれがあります。
---	-------------------	---	-------------------------------

行為の強制

	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。		電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。
---	--	---	--------------------------------------

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

 警告	
	<p>人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない</p> <p>本装置は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。</p>
 	<p>煙や異臭、異音が生じたまま使用しない</p> <p>万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに POWER スイッチを OFF にして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p>
	<p>針金や金属片を差し込まない</p> <p>通気孔やカートリッジ投入排出口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。</p>
	<p>指定以外の場所で使用しない</p> <p>本装置は EIA 規格に適合した Express サーバ用の 19 インチラックに取り付けて使用します。本装置を取り付けるラックを設置環境に適していない場所には設置しないでください。本装置やラックに取り付けているその他のシステムに悪影響をおよぼすばかりでなく、火災やラックの転倒によるけがなどをするおそれがあります。設置場所に関する詳細な説明や耐震工事についてはラックに添付のマニュアルを参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。</p>
	<p>規格以外のラックで使用しない</p> <p>本装置は EIA 規格に適合した Express サーバ用のラックに取り付けて使用します。EIA 規格に適合していないラックに取り付けて使用したり、ラックに取り付けずに使用したりしないでください。本装置が正常に動作しなくなるばかりか、けがや周囲の破損の原因となることがあります。Express サーバで使用できるラックについては保守サービス会社にお問い合わせください。</p>

 注意	
 	<p>海外で使用しない</p> <p>本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。</p>
 	<p>装置内に水や異物を入れない</p> <p>装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、ただちに POWER スイッチを OFF にして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p>

電源・電源コードに関する注意事項

 注意	
	<p>電源がON のまま取り付け・取り外しをしない</p> <p>基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをAC コンセントから抜いてください。電源コードがAC コンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。</p>
	<p>中途半端に差し込まない</p> <p>AC ケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。</p>
 	<p>指定以外の接続をしない</p> <p>AC ケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。</p>
	<p>破損したケーブルを使用しない</p> <p>ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。</p>
	<p>指定以外のケーブルを使用しない</p> <p>基本処理装置と接続するケーブルは当社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。</p>
	<p>電源コードをたこ足配線にしない</p> <p>コンセントに定格以上の電流が流れるので、コンセントが過熱して火災の原因となることがあります。</p>
	<p>コードを持って引き抜かない</p> <p>電源プラグを抜くときは必ずプラグ部分を持って行ってください。コード部分を引っ張るとコードが破損し、火災や感電の原因となります。</p>
	<p>電源コードを折り曲げない</p> <p>電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、束ねたり、ものをのせたり、はさみ込んだりしないでください。またステーブラ等で固定することもおやめください。コードが破損し、火災や感電の原因となります。</p>
	<p>電源コードに薬品類をかけない</p> <p>電源コードに殺虫剤などの薬品類をかけないでください。コードの被覆が劣化し、感電や火災の原因となることがあります。</p>

ラックの設置・取り扱いに関する注意事項

 注意	
	<p>一人で搬送・設置をしない</p> <p>ラックの搬送・設置は2人以上で行ってください。ラックが倒れてけがや周囲の破損の原因となります。特に高さのあるラック(44Uラックなど)はスタビライザなどによって固定されていないときは不安定な状態にあります。かならず2人以上でラックを支えながら搬送・設置をしてください。</p>
	<p>荷重が集中してしまうような設置はしない</p> <p>ラックおよび取り付けたデバイスの重量が一点に集中しないようスタビライザを取り付けるか、複数台のラックを連結して荷重を分散してください。ラックが倒れてけがをするおそれがあります。</p>
	<p>一人で部品の取り付けをしない</p> <p>ラック用のドアやトレイなどの部品は2人以上で取り付けてください。部品を落として破損させるばかりでなく、けがをするおそれがあります。</p>
	<p>ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない</p> <p>ラックから装置を引き出す際は、必ずラックを安定させた状態(スタビライザの設置や耐震工事など)で引き出してください。</p>
	<p>複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない</p> <p>複数台のデバイスをラックから引き出すとラックが倒れるおそれがあります。装置は一度に1台ずつ引き出してください。</p>
	<p>定格電源を超える配線をしない</p> <p>やけどや火災、装置の損傷を防止するためにラックに電源を供給する電源分岐回路の定格負荷を超えないようにしてください。電気設備の配線とインストール用件に関しては、電気工事を行った業者または、管轄の電力会社にお問い合わせください。</p>

設置・移動・保管・接続に関する注意事項

 注意	
	<p>通気孔をふさがない</p> <p>本装置の前面および背面にある通気孔（ファン）をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。</p>
	<p>プラグを抜かずに手入れをしない</p> <p>お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、ぬれた手で抜き差しをしないでください。感電することがあります。</p>
	<p>指定以外のインタフェースケーブルを使用しない</p> <p>インタフェースケーブルは、NEC が指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルを踏まない。 ・ケーブルの上にものを載せない。 ・ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。 ・破損したケーブルを使用しない。 ・破損したケーブルコネクタを使用しない。 ・ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。
	<p>一人で持ち上げない</p> <p>本装置は約 28kg の重さがあります。一人で持つと腰を痛めることがあります。運搬・移動は必ず二人で行ってください。</p>
	<p>指を挟まない</p> <p>ラックへの取り付け・取り外しの際にレールなどで指を挟まないよう十分注意してください。</p>
	<p>ラックから引き出した状態にある装置に荷重をかけない</p> <p>ラックから引き出された状態にある装置の上から荷重をかけないでください。フレームが曲がり、ラックへ搭載できなくなります。また、装置が落下し、けがをするおそれがあります。</p>

お手入れに関する注意事項

 警告	
  	<p>自分で分解・修理・改造はしない</p> <p>本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。</p> <p>本装置でお客様が行える分解は次の作業のみです。次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">・N8160-51 LTO ライブラリ用増設増設筐体の取り付け。・N8160-52 LTO ライブラリ用増設 LTO ドライブの増設。増設以外の行為(交換/取り外し)は行わないでください。・ラックへの取り付け/取り外し・AC ・信号ケーブルの取り付け/取り外し

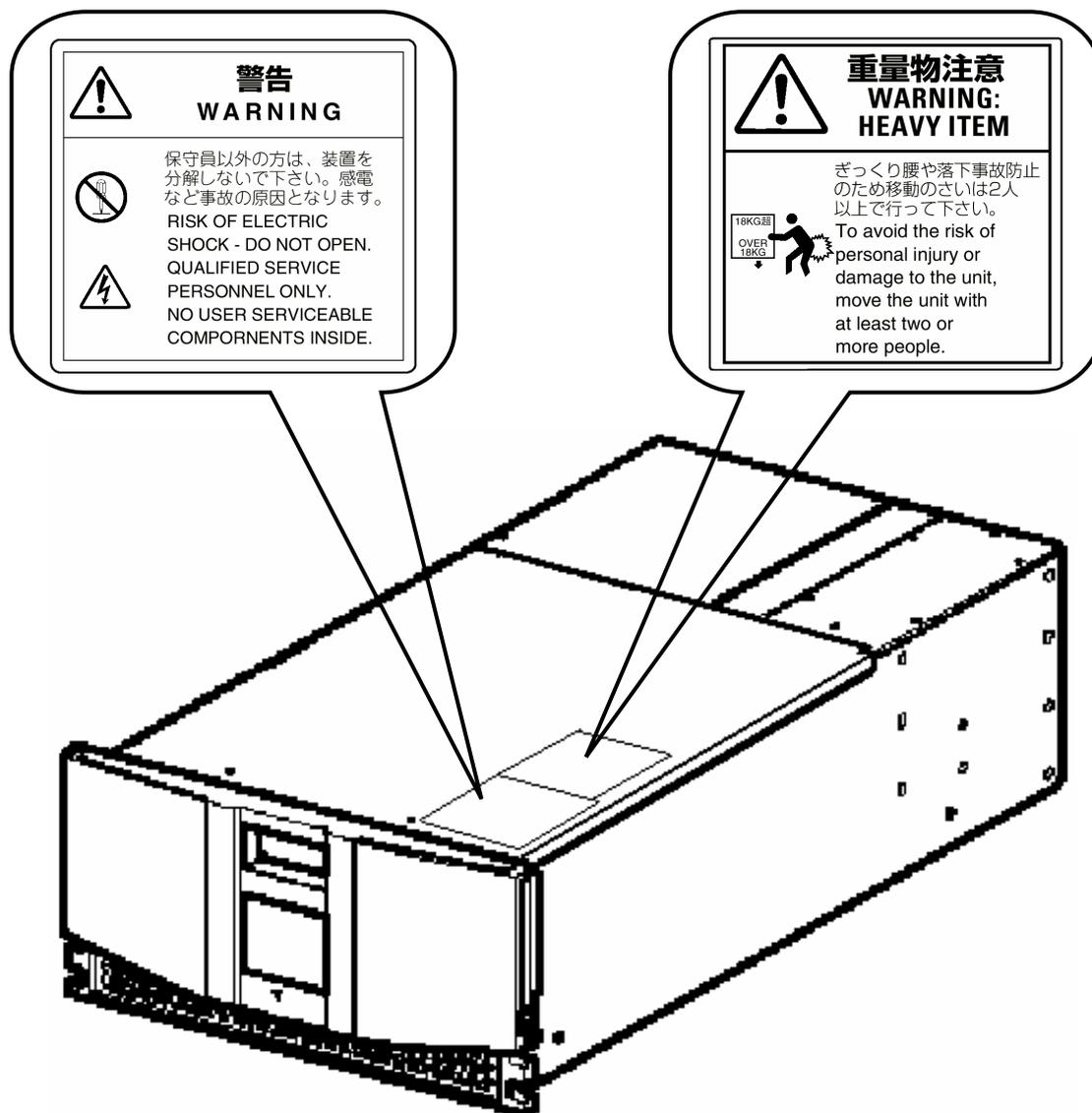
 注意	
	<p>中途半端に取り付けない</p> <p>AC ケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。</p>
	<p>巻き込み注意</p> <p>装置の動作中は背面にある冷却用ファンの部分に手や髪の毛を近づけないでください。手をはさまれたり、髪の毛が巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。</p>

運用中の注意

 注意	
	<p>ラックから引き出したり取り外したりしない</p> <p>本装置をラックから引き出したり、ラックから取り外したりしないでください。装置が正しく動作しなくなるばかりでなく、ラックから外れてけがをするおそれがあります。</p>
	<p>壊れた液晶ディスプレイには触らない</p> <p>液晶ディスプレイ内には人体に有害な液体があります。壊れた液晶ディスプレイから流れ出した液体が、万一、口にはいった場合は、うがいをして医師に相談してください。また皮膚に付着したり、目に入ったりした場合には、すぐに流水で 15 分以上洗浄して、医師に相談してください。分別廃棄のために液晶ディスプレイを取り外す場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。</p>
	<p>雷がなったら触らない</p> <p>雷が鳴りだしたら、AC ケーブルに触れないでください。感電の原因となります。</p>
 	<p>ペットを近づけない</p> <p>本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。</p>
	<p>近くで携帯電話や PHS、ポケットベルを使わない</p> <p>本装置のそばでは携帯電話や PHS、ポケットベルの電源を OFF にしておいてください。電波による誤動作の原因となります。</p>

警告ラベルについて

本装置内の危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが貼り付けられています。これは本装置を操作する際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです（ラベルをはがしたり、汚したりしないでください）。もし、このラベルが貼り付けられていない、はがれかかっている、汚れているなどして判読できないときは、販売店にご連絡ください。



商標について

Microsoft とそのロゴ、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

©NEC Corporation 2003

本文中の記号について

本書の中には次の3種類の記号を使用しています。それぞれの記号は次のような意味をもつものとして定義されています。

 重要	装置を取り扱う上で、守らなければならないことや、特に注意すべき点を示します。
 チェック	装置を取り扱う上で、確認しておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役に立つ情報や便利なことを示します。

本取扱説明書について

本取扱説明書は、本装置のオプション品である「N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体 (ラックマウント用)」、
「N8160-52 Upgrade LTO ライブラリ用増設 LTO ドライブ」、「N8103-83 Upgrade 型 LTO ライブラリ用 Fibre Channel コ
ントローラ」の3点についての取扱説明も記載しております。上記3点を使用する場合も本取扱説明書を参照してください。

目次



安全上のご注意 ~ 必ずお読みください ~

安全にかかわる表示について.....	ii
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容.....	iii
安全上のご注意.....	iv
警告ラベルについて.....	x
商標について.....	xi
海外でのご使用について.....	xi
ご注意.....	xi
本文中の記号について.....	xii
本取扱説明書について.....	xii
第1章 概要.....	4
1 機能概要.....	4
2 同梱品を確認する.....	5
3 装置の譲渡と廃棄について.....	6
3.1 第三者への譲渡について.....	6
3.2 消耗品・装置の廃棄について.....	6
3.3 装置寿命について.....	6
3.4 保証について.....	6
4 仕様.....	7
4.1 仕様.....	7
4.2 内部ドライブ仕様.....	7
4.3 寸法.....	7
4.4 環境条件.....	8
5 各部の名称と機能.....	9
5.1 前面.....	9
背面.....	10
6 マガジン.....	11
6.1 マガジン.....	11
6.2 マガジンドアの開閉.....	12
7 使用できるカートリッジ.....	13
8 バックアップソフト使用時のご注意.....	13
第2章 設置する.....	14
1 概要.....	14
2 ラックへ設置する.....	14
2.1 設置する前に.....	14
2.1.1 必要なスペース.....	14
2.1.2 必要な工具.....	14
2.1.3 設置上のご注意.....	15
2.1.4 ラックマウントキットの同梱品を確認する.....	15
2.2 レールの取り付け.....	16
2.2.1 レールのラック取付.....	16
3 増設ドライブを搭載する.....	19
3.1 ドライブ取り付け・取り外し方法.....	19
3.1.1 本装置が動作中にドライブを交換する場合.....	19
3.1.2 ドライブの増設、および本装置が動作中でない場合のドライブ交換.....	20

4	増設筐体を設置する.....	2 2
4.1	増設筐体を設置する.....	2 2
4.1.1	ラックへの取り付け.....	2 2
4.1.2	ドライブ、ドライブblankカバー取り外し.....	2 2
4.1.3	エレベータカバー取り外し.....	2 3
4.1.4	エレベータの取り付け.....	2 4
4.2	ルータの取り付け.....	2 5
4.2.1	ブラケットの取り付け.....	2 5
4.2.2	ラックへ取り付けます。.....	2 6
4.3	ケーブルの接続.....	2 7
4.4	Master&Slave の設定.....	2 8
4.4.1	ACケーブル接続.....	2 8
4.4.2	メニュー操作.....	2 8
5	FibreChanel を実装する.....	3 2
5.1	FC コントローラ コントローラの取り付け.....	3 2
5.1.1	FC コントローラカバーの取り外し.....	3 2
5.1.2	FC コントローラの取り付け.....	3 2
6	ケーブルを接続する.....	3 3
	ベース筐体のみ場合.....	3 3
6.2	ベース筐体 + 増設ドライブの場合.....	3 3
	サーバ側 SCSI コントローラ 1 枚の場合 (低速接続).....	3 3
6.2.2	サーバ側が SCSI コントローラ 2 枚の場合 (高速接続).....	3 4
	ベース筐体 + 増設筐体の場合.....	3 4
6.4	ベース筐体 + 増設筐体の場合 + 増設ドライブの場合.....	3 5
6.4.1	サーバ側 SCSI コントローラ 1 枚の場合 (低速接続).....	3 5
	サーバ側が SCSI コントローラ 2 枚の場合 (高速接続).....	3 5
6.5	ベース筐体 + 増設筐体の場合 + 増設ドライブ 2 台の場合.....	3 6
6.6	ベース筐体 + 増設筐体の場合 + 増設ドライブ 3 台の場合.....	3 7
6.6.1	サーバ側 SCSI コントローラ 2 枚の場合 (低速接続).....	3 7
	サーバ側 SCSI コントローラ 4 枚の場合 (高速接続).....	3 7
6.7	FC コントローラでの接続.....	3 8
7	電源を入れる / 切る.....	4 2
7.1	電源を入れる.....	4 2
7.2	電源を切る.....	4 3
第3章	操作.....	4 4
1	カートリッジの挿入と取り出し.....	4 4
1.1	マガジンの取り出し.....	4 4
1.2	マガジンにカートリッジを挿入する.....	4 5
1.3	メールスロットの使用 (左マガジンのみ).....	4 6
1.4	データカートリッジ書き込み禁止スイッチ.....	4 7
1.5	バーコードラベル.....	4 7
2	タッチスクリーン.....	4 8
2.1	画面構成.....	4 8
2.1.1	Mail Slot Access オプション.....	4 9
2.1.2	Magazine Access オプション.....	4 9
2.1.3	Move Media オプション.....	4 9
2.1.4	タッチスクリーンコントラストコントロール.....	5 0
2.1.5	Power オプション.....	5 0
2.1.6	Status オプション.....	5 0
2.1.7	Online オプション.....	5 1
2.1.8	Menu オプション.....	5 1

2.2	メニューの選択.....	5 2
2.2.1	View System Data エリア.....	5 2
2.2.2	Utilities エリア.....	5 8
2.2.3	Edit Options エリア.....	6 1
3	クリーニング.....	6 4
3.1	クリーニング.....	6 4
3.1.1	手動クリーニング方法.....	6 5
4	Web TLC の操作.....	6 6
4.1	概要.....	6 6
4.2	Web TLC でできること.....	6 6
4.3	Web TLC を操作する.....	6 7
4.3.1	ログイン.....	6 7
4.3.2	メイン画面.....	6 9
4.3.3	[Status].....	7 0
4.3.4	[Move Media].....	7 1
4.3.5	[Setup].....	7 3
4.3.6	[Functions].....	7 5
4.3.7	[History].....	7 6
A.	付録.....	7 7
1	トラブルシューティング.....	7 7
1.1	主な障害の原因.....	7 7
1.2	エラー復旧手順 (ERP).....	7 8
1.3	障害診断コード (FSCs).....	7 8

第1章 概要

ここでは、本装置の特徴ならびにセットアップについて説明します。

1 機能概要

「N8160-50 Upgrade 型 LTO ライブラリ」(=以降、ベース筐体と記載) は LTO ドライブを標準で 1 台内蔵している LTO ライブラリ装置です。最大 30 巻のカートリッジをセットして使用できます。

最大 30 巻のカートリッジをセット可能

15 巻内蔵できるマガジンを左右に 1 つずつ内蔵しており、最大 30 巻の LTO カートリッジをセットできます。また、本装置にはバーコードリーダーが内蔵されていますので、バーコードラベルでのカートリッジ管理をすることができます。本装置では、次のカートリッジを使用できます。

- ・ LTO-2 データカートリッジ EF-2427 : 最大 6Tbyte のデータを記録できます。
(30 巻使用時、非圧縮時の目安値です)
- ・ LTO-1 データカートリッジ EF-2424 : 最大 3Tbyte のデータを記録出来ます。
(30 巻使用時、非圧縮時の目安値です)

LTO ライブラリを 1 台増設可能

本装置は「N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体 (ラックマウント用)」(=以降、増設筐体と記載) を増設することにより、最大 60 巻の LTO カートリッジをセット可能です。

LTO ドライブを 1 台増設可能

本装置は「N8160-52 Upgrade LTO 型ライブラリ用増設 LTO ドライブ」(=以降、増設ドライブと記載) を増設することにより、2 台の LTO ドライブを搭載することができ、同時に複数の読み込み/書き込みができます。(増設は 1 台まで)



ヒント

* 増設筐体には LTO ドライブは搭載されておりませんが、増設ドライブを 2 台まで増設できます。

* LTO ライブラリの最大増設構成は LTO ドライブ 4 台、カートリッジセット数 60 巻になります。

Fibre Channel での接続が可能

本装置に「N8103-83 Upgrade 型 LTO ライブラリ用 Fibre Channel コントローラ」(=以降、FC コントローラと記載) を増設することで、本装置をファイバーチャネル接続で使用することができます。

リモートでライブラリの操作が可能

ブラウザを使って、各種設定をしたり、ライブラリ情報やメンテナンス情報などを見たりすることができます。

LVD SCSI に準拠

本装置は Ultra 160 LVD SCSI に準拠しています。

2 同梱品を確認する

箱を開けたら、以下のものがそろっているかお確かめください。付属品の中に欠けているものがあるときは、販売店にご連絡ください。

項番	名称	数量
1	LTO ライブラリ本体	1
2	ラックマウントキット	1
3	SCSI ケーブル_0.5m	1
4*	RS232C ケーブル	1
5	LTO クリーニングカートリッジ	1
6	SCSI ターミネータ	1
7	ラックマウント用テンプレート	1
8	バーコードラベル_データカートリッジ用_20 枚綴り	1
9	バーコードラベル_クリーニングカートリッジ用_20 枚綴り	1
10	取扱説明書	1
11	保証書	1

* RS232C ケーブルは通常動作時は使用しません。メンテナンス時等に必要になりますので大切に保管しておいてください。

3 装置の譲渡と廃棄について

3.1 第三者への譲渡について

本装置または本装置に添付されているものを第三者に譲渡するときは、次の注意を守ってください。

本装置本体について

本装置を第三者へ譲渡（または売却）する場合は、本取扱説明書を一緒にお渡してください。

その他の付属品について

その他の付属品もセットアップするときなどに必要となりますので、一緒にお渡してください。

3.2 消耗品・装置の廃棄について

本装置、およびカートリッジの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

テープ内のデータについて使用していたテープに保存されている大切なデータ（例えば経営情報や企業の経理情報など）が第三者へ漏洩することのないように、お客様の責任において確実に処分しておいてください。このようなトラブルを回避するために使用しているバックアップソフトでデータを完全消去し、確実にデータを処分することを強くおすすめします。データの消去についての詳細はバックアップソフトの取扱説明書をご参照ください。なお、データの処分をしないまま譲渡（または売却）し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

3.3 装置寿命について

本装置の装置寿命は5年です。

3.4 保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは『保証書』をご覧ください。

4 仕様

4.1 仕様

項目	N8160-50	N8160-50 + N8160-51
平均カートリッジアクセス時間 *1	10 秒	10 秒
平均カートリッジ交換時間 *1	20 秒	20 秒
バックアップ容量*2	6 Tbyte(非圧縮時) 12Tbyte(圧縮時)	12Tbyte(非圧縮時) 24Tbyte(圧縮時)
電圧	100-240VAC Auto-selecting	
周波数	50-60Hz	
電流	1.6A (Max)	3.2A (Max)
皮相電力	192VA (Max)	384VA (Max)
消費電力	130.5W (Max)	261.0W (Max)
インターフェース	SCSI	Ultra 160 LVD SCSI
	ファイバチャネル (N8103-83)	Single 1Gbit/2Gbit SFP (Small Form-factor Plug-able) transceiver socket. *3 Class 3 SCSI-FCP auto-sensing PLDA, Public Loop, Fabric (switched) topologies

*1：ドライブからカートリッジをイジェクトし、ロボットがマガジンからカートリッジを交換、ドライブへ再ロードする平均時間。

*2：容量はメールスロット無しで、スロット全てに LTO-2 のカートリッジを使用した場合。圧縮時の値は圧縮効率が 2 倍である場合の値です。圧縮効率はデータパターンにより変化します。

*3：出荷時は 2Gbit に設定されています。

4.2 内部ドライブ仕様

項目	LTO2	
リード/ライト転送レート*1	非圧縮モード	30 MB/秒
	圧縮(2 : 1)	60 MB/秒
平均アクセス時間	平均 ロード (頭出し)	19 秒未満
	平均 アンロード (頭出しからアンロード)	13 秒未満
	平均サーチ速度 (任意ファイルへ)	71 秒

*1：バックアップ時間は接続しているサーバのシステム環境により変化します。

4.3 寸法

N8160-50 Upgrade 型 LTO ライブラリ(ラックマウント用)

高さ	22.25cm(8.75in), 5U
幅	42.4cm (16.75in)
奥行き	78.74cm (31.0in)
重さ(本体のみ)	約 28.3kg
重さ(ドライブのみ)	約 2.1 kg

N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体 (ラックマウント用)

高さ	22.25cm(8.75in), 5U
幅	42.4cm (16.75in)
奥行き	78.74cm (31.0in)
重さ(本体のみ)	約 26.2kg



チェック

* 増設筐体を取り付けた場合には装置高さは 10U になりますが、その他にルータ(1U)がつかますので、ラックのスペースは 11U が必要となります。

4.4 環境条件

項目	条件	仕様
温度	動作時	10 ~ 35
	休止時	-40 ~ 60
	動作時湿球温度	最高 25
	休止時湿球温度	最高 30
	勾配	毎時 20
	移動時	-40 ~ 60 (梱包状態で 7 日間)
湿度	動作時	相対湿度 20% ~ 80% (結露なし)
	休止時	相対湿度 5% ~ 95% (結露なし)
	勾配	毎時 10%

5 各部の名称と機能

5.1 前面

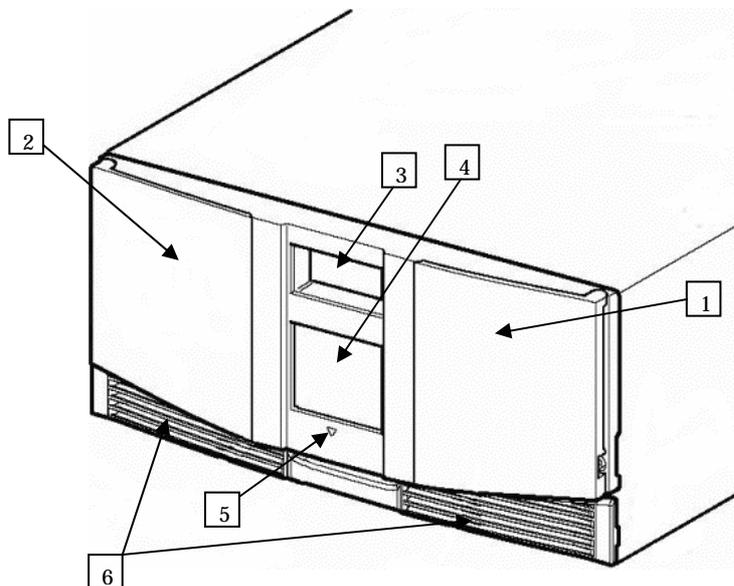


図 1-1 装置前面

- 1 右マガジンドア
右側のマガジン（カートリッジ）を格納しているドア
- 2 左マガジンドア
左側のマガジン（カートリッジ）を格納しているドア
- 3 ウィンドウ
本装置の内部動作を目視確認するためのウィンドウ
- 4 タッチスクリーン
本装置のセットアップと各種設定を行うためのスクリーン

- 5 ステータス LED

本装置の動作ステータスを表示する LED。表示は以下の通り。

緑色点灯	正常動作中
緑色点滅	ライブラリ動作は正常だが、タッチスクリーン、Web TLC よりライブラリ動作を中断させる変更が行われている。（オフライン状態） タッチスクリーン画面が“ Offline ”と表示されている場合は、[Offline]ボタンを押し、Online に戻してください。
黄色点滅	電源スイッチ待機状態。電源スイッチを入れてください。
黄色点灯	電源 OFF 時の点灯は、電源待機状態。タッチスクリーンに触れ電源を入れるか電源を OFF してください。 電源 ON 時の点灯は、ライブラリで障害が発生。障害内容はタッチスクリーン上のエラーメッセージで表示されます。

- 6 通風孔

通風孔をふさがないように注意してください。通風孔をふさぐ故障の原因となることがあります。

5.2 背面

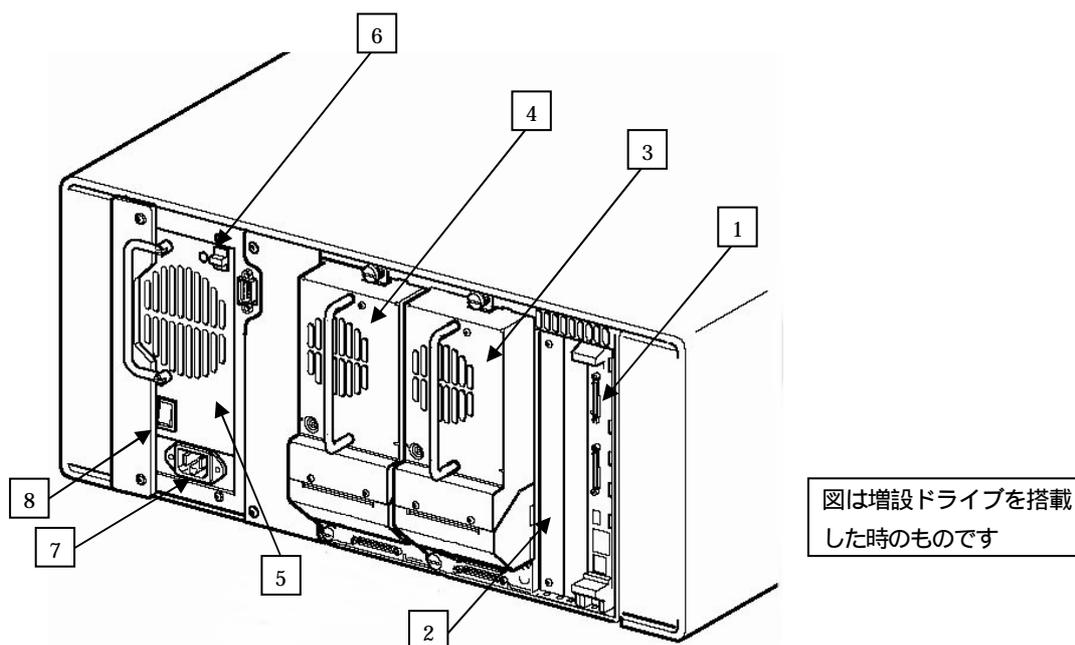


図 1-2 装置背面

1 ライブラリコントローラカード

ロボット機構の制御を行うためのカード。本カードと PC を Ethernet で接続することにより、リモートから設定等が可能（別途 Web ブラウザ(*1)が動作出来る環境が必要）。

(*1) : Internet Explorer 3.0 以上 / Netscape 3.0 以上

2 Fibre Chnnel 実装用スロット

「N8103-83 Upgrade 型 LTO ライブラリ用 Fibre Channel コントローラ」を搭載するための空きスロットです。空きスロットは 2 つ有りどちらを使用しても構いません。

3 LTO ドライブ（標準搭載）

本装置が標準で搭載している LTO ドライブです。

4 LTO ドライブ（増設時）

「N8160-52 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設 LTO ドライブ」です。ドライブが増設されていない場合は、ドライブカバーが付きます。

5 電源モジュール

6 電源 ON LED

電源が投入されている場合に点灯します。

7 電源コネクタ

8 電源スイッチ

6 マガジン

6.1 マガジン

本装置には左右に2つのマガジンが装備されており、フロントドアを開けて取り出せます。

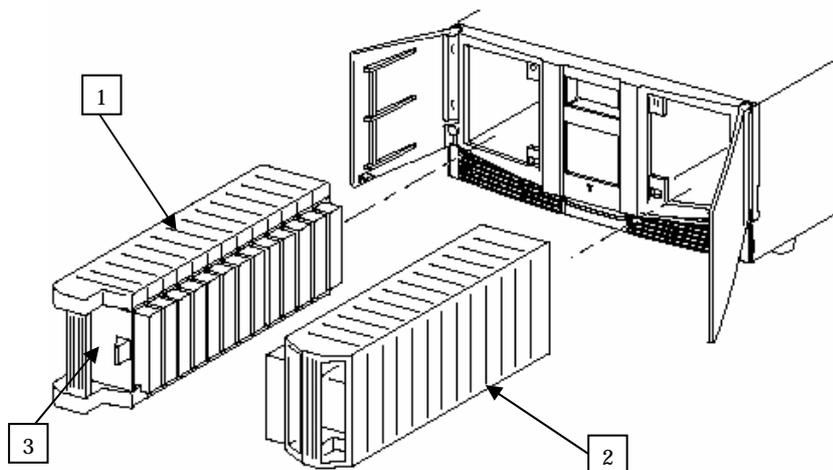


図1-3 マガジン

- 1 左側マガジン (メールスロット内蔵)
- 2 右側マガジン
- 3 メールスロット

本装置の正面から見て左側のドアを開けると、一番手前にメール スロットがあります。このメールスロットを手前に引いて開くと、マガジンのロック解除、取り出し、再インベントリを実行しなくても、1本のカートリッジを出し入れすることができます。15巻のスロットが必要な場合は、設定しなおして、メール スロットを標準データ スロットとして使用できます。右側のマガジンにはメール スロットはありません。



チェック

* 左側マガジンと右側マガジンは違いますので、左右逆に搭載することはできません。

本装置のスロット番号の割当は図1-4の通りです。

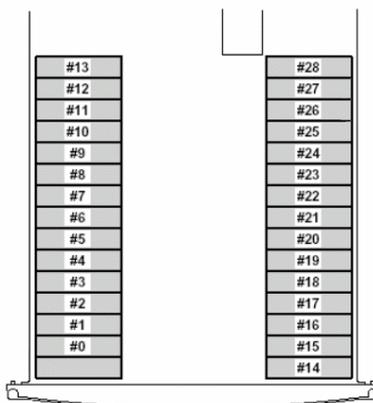


図1-4 スロット番号

6.2 マガジンドアの開閉

マガジンドアは本装置の Magazine Access オプションを使って開閉する方法と手動にて開閉する方法があります。Magazine Access オプションでの開閉については 46 ページを参照してください。

手動開閉方法は下記の通りです。

フロントパネルにドアを手動で開けるための小さなスイッチがあり、それを針金のような細いもの(中サイズのクリップを引き伸ばしたものを推奨)で押すと手動でドアを開けることができます。以下の図 1-5 にスイッチの場所を示します。

 重要	* 手動による開閉は、バックアップソフトのサービスが動作していない時に行ってください。バックアップソフトのサービスが動作している時に行うとバックアップソフトにエラーが発生する場合があります。
--	---

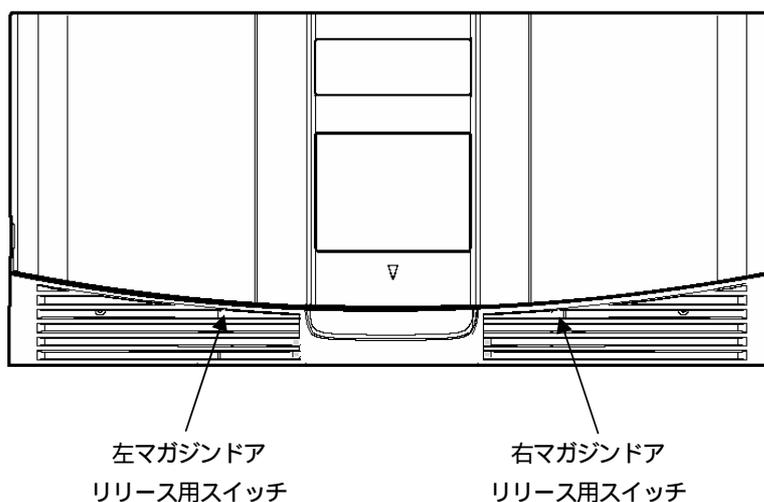


図 1-5 リリーススイッチ

7 使用できるカートリッジ

本装置で使用できるカートリッジは下記の通りです。

データカートリッジ

- ・EF-2427 LTO データカートリッジ (記憶容量 200GB / 1 巻 非圧縮時)
- ・EF-2424 LTO データカートリッジ (記憶容量 100GB / 1 巻 非圧縮時)

クリーニングカートリッジ

- ・EF-3237Q LTO クリーニングカートリッジ (使用回数 50 回)

8 バックアップソフト使用時のご注意

NEC の Web ページである 8 番街(<http://www.express.nec.co.jp>)の「サポート情報」 - 「テクニカル情報 (テクニカルガイド)」 - 「Express5800/100 シリーズテクニカルガイド」にありますバックアップ装置 <バックアップ装置対応ソフトウェアについて>を確認してください。

問い合わせ先：webmaster@arc.comp.nec.co.jp

第2章 設置する

1 概要

本章では、本装置をラックに取り付け基本処理装置に接続して電源を入れるまでの一般的な手順と初期設定について説明します。

また、本装置のオプション品である、「N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体（ラックマウント用）」、「N8160-52 Upgrade LTO ライブラリ用増設 LTO ドライブ」、「N8103-83 Upgrade 型 LTO ライブラリ用 Fibre Channel コントローラ」の増設方法についても記載しております。

オプション品の増設方法については、オプション品を購入した際に必要になります。

2 ラックへ設置する

2.1 設置する前に

箱と梱包材は本装置を移動したり輸送したりするときに必要です。捨てずに保管してください。

⚠ 注意

	一人で持ち上げない 本装置は約 28kg の重さがあります。一人で持つと腰を痛めることがあります。運搬・移動は必ず二人以上で行ってください。
	一人で搬送・設置をしない ラックの搬送・設置は2人以上で行ってください。ラックが倒れてけがや周囲の破損の原因となります。特に高さのあるラック(44U ラックなど)はスタビライザなどによって固定されていないときは不安定な状態にあります。かならず2人以上でラックを支えながら搬送・設置をしてください。
	規格以外のラックで使用しない 本装置はEIA 規格に適合した Express サーバ用のラックに取り付けて使用します。EIA 規格に適合していないラックに取り付けて使用したり、ラックに取り付けずに使用したりしないでください。本装置が正常に動作しなくなるばかりか、けがや周囲の破損の原因となることがあります。Express サーバで使用できるラックについては保守サービス会社にお問い合わせください。

2.1.1 必要なスペース

本装置はラックの5U分のスペースを必要とします。また、増設筐体を組み合わせた場合には11U分(1Uはルータ分)のスペースが必要となりますので、あらかじめラックに十分なスペースがあることを確認してください。

2.1.2 必要な工具

本装置の設置には次の工具が必要です

- ・ プラスドライバー
- ・ マイナスドライバー

2.1.3 設置上のご注意

本装置をラックに取り付ける前に、以下の点に注意してください。

- ・本装置動作時に、温度 10～35℃、湿度 20～80%に保てる場所に設置してください。
- ・本装置背面のファン、前面の通風孔付近に、ケーブルやその他の障害物がこまないよう設置してください。
- ・設置しているときに、静電気が放電しないように作業環境を整えてください。作業中は、静電防止マットやアースされた静電防止リストバンドを使用してください。

2.1.4 ラックマウントキットの同梱品を確認する

以下のものがそろっているかお確かめください。同梱品の中に欠けているものがあるときは、保守サービス会社にご連絡ください。

項番	名称	数量
1	ラックマウントレール	2
2	レール固定用ネジ	8
3	コアナット	10

2.2 レールの取り付け

2.2.1 レールのラック取付

1. ラックの前面にテンプレートをあて、コアナットを取り付けます。
レール部分の4箇所と扉部分の2箇所になります。

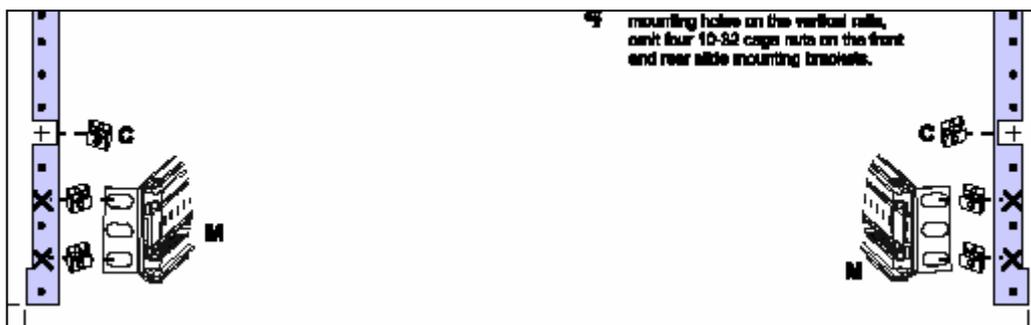


図2-1 テンプレート

同様に背面にもコアナットを取り付けます。背面はレール部分の4箇所になります。

2. レール固定用ネジを使用し、レールをラックに取り付けます。レールの長さはラックに合わせて調整してください。

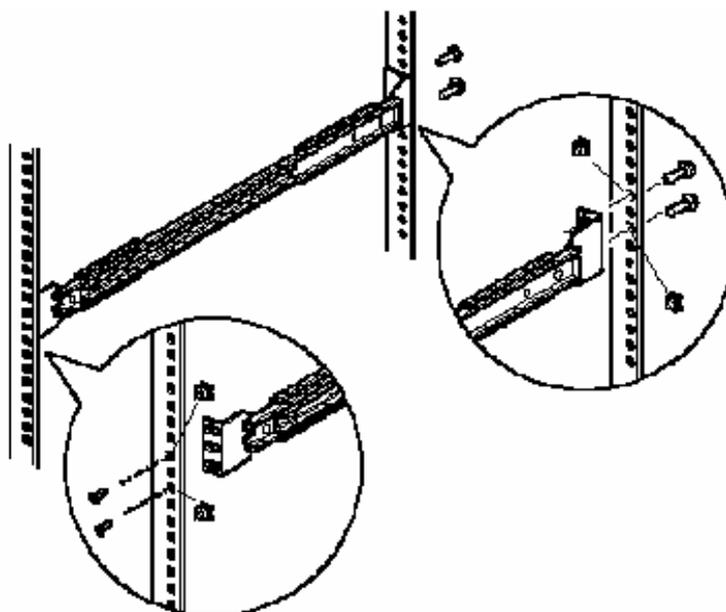


図2-2 レール取り付け



ヒント

* ネジを固定せずに、若干ゆるめにしておくと本装置をレールに乗せるのが比較的楽になります。レール搭載後には必ずネジは固定してください。

1. スライドレールをロックするまで完全に引き出して行きます。その後、本装置を持ち上げ、本装置の側面に付いているインナーレールとラックに取り付けたスライドレールを目で確認しながら合わせます。



ヒント

* 本装置はドライブのある後ろ側の方が重くなっています。

2. 引き出したスライドレールの中にインナーレールを慎重に挿入します。挿入後ラックにスライドさせて、フロントベゼルがラックに触れるまで完全に押し込みます。



ヒント

* インナーレールがスライドレールに完全に入る前に、スライドレールがラックの中に入っていないよう、後ろ側からスライドレールを押さえて置くと、比較的簡単に挿入できます。

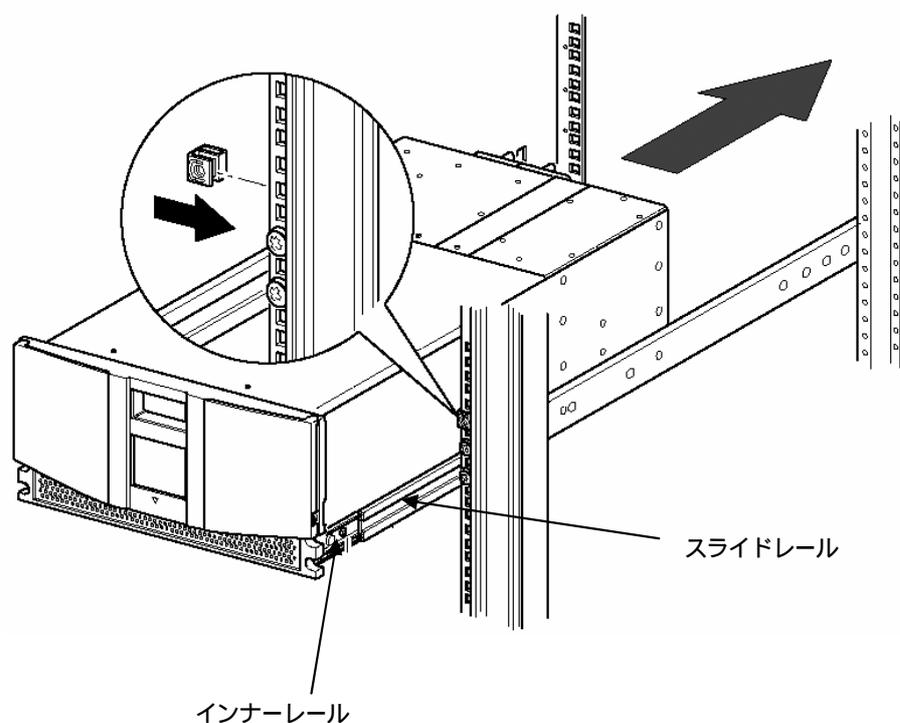


図 2-3 LTO ライブラリの搭載

3. マガジンドアを開けて 2 本の固定ネジでラックに取り付けます。マガジンドアの開閉は 12 ページの手動開閉方法を参照して開けてください。

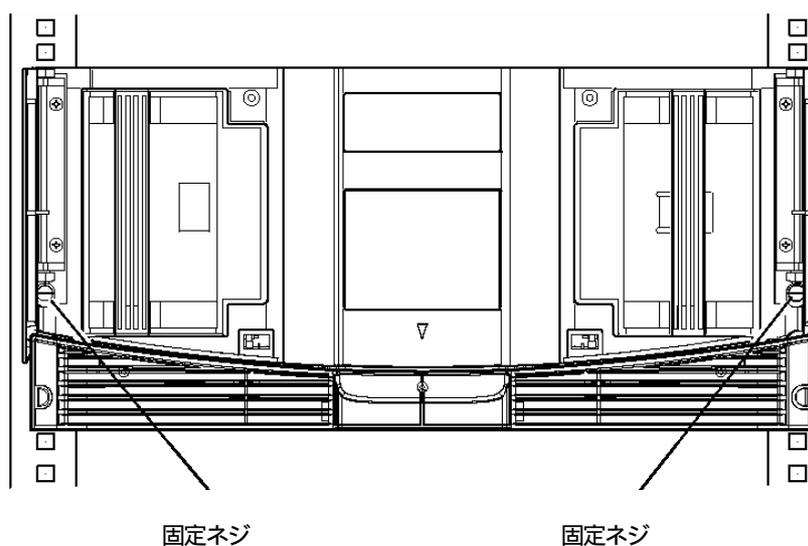


図 2-4 固定ネジ

3 増設ドライブを搭載する

本項では「N8160-52 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設 LTO ドライブ」の搭載方法を説明します。増設ドライブをお持ちでない場合、本項は必要としません。

下記では N8160-50 Upgrade 型 LTO ライブラリ (ラックマウント用) で説明しておりますが、「N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体 (ラックマウント用)」への搭載方法も基本的に同じです。

本装置は、ホットプラグ対応ですので、電源を切らずにドライブの交換を行うことが可能です。ただし、取り付け前および後にオペレーションパネルからの操作が必要になります。

 重要	* 電源を落とさずにドライブの取り付け・取り外しを行う場合は、必ずバックアップソフトのサービスを止めてください。
	* ドライブを外す場合には、必ずカートリッジを取り出しておいてください。
	* 電源を切らずに行えるのはドライブの交換のみです。ドライブの増設時はドライブの OFF/ON が必要です。

3.1 ドライブ取り付け・取り外し方法

ドライブは本装置が起動中でも交換は可能です。またドライブを取り外す際に、SCSI ケーブルおよびターミネータを外す必要はありません。

ただし、ドライブの増設を行う場合は、必ず基本処理装置および本装置の電源を落としてドライブを取り付けてください

 重要	* 電源を落とさずに、ドライブの増設を行うとシステム、バックアップソフトの認識がズレ、エラーの原因となることがあります。
--	--

3.1.1 本装置が動作中にドライブを交換する場合

取り外すドライブにカートリッジが入っている場合は、カートリッジをマガジンに戻しておいてください。

1. メニュー画面の“Menu”ボタン “Maintenance”ボタン “Replace Drive”ボタン “Deactivate Drive n”(n は交換するドライブのドライブ番号)メイン画面に戻るまで“Back”ボタンを押してください。
3.1.2の2へ進みドライブを取り外してください。

3.1.2 ドライブの増設、および本装置が動作中でない場合のドライブ交換

1. 本装置の電源を落としてください。
2. ドライブカバーを取り外します。ドライブを交換する場合には、ドライブを取り外します。

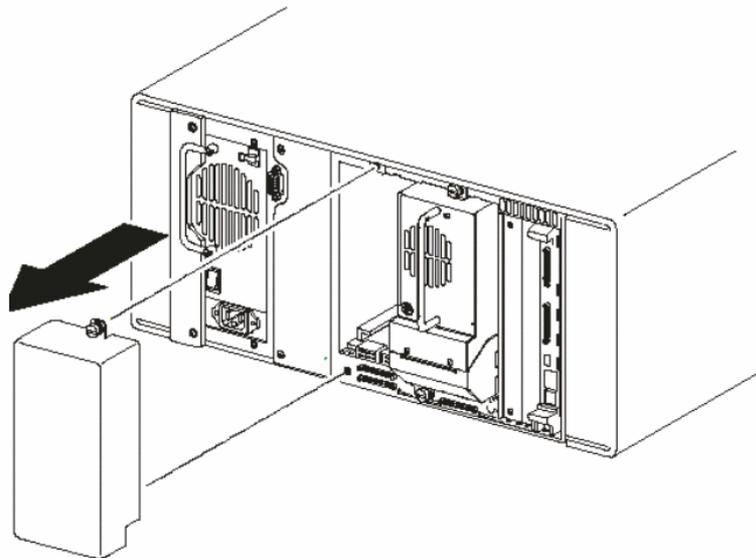


図2-5 ドライブカバー取り外し

3. 増設ドライブを慎重に差し込み、上下2つのネジを締めてドライブを取り付けます。

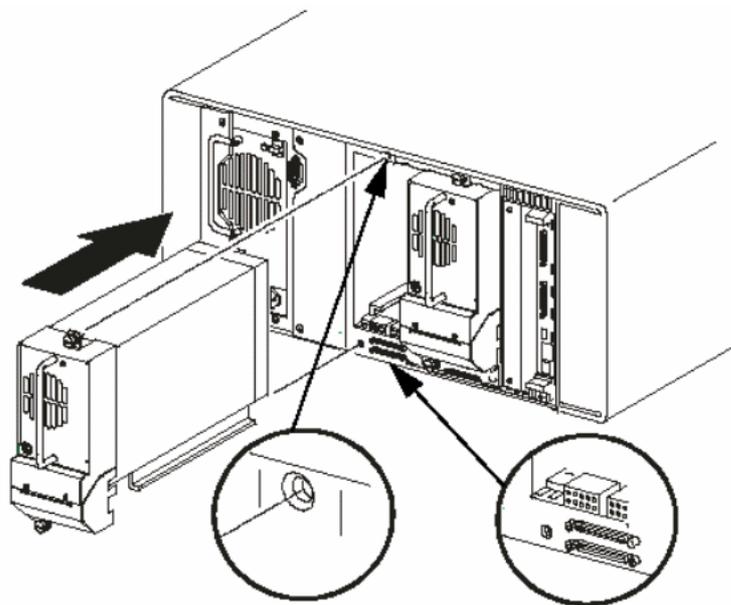


図2-6 ドライブ取り付け

4. 電源起動後にタッチスクリーンに下記メッセージが表示された場合には、[Menu] [Maintenance] [Force Reconfiguration]を押し[Force Reconfiguration]を実施してください。

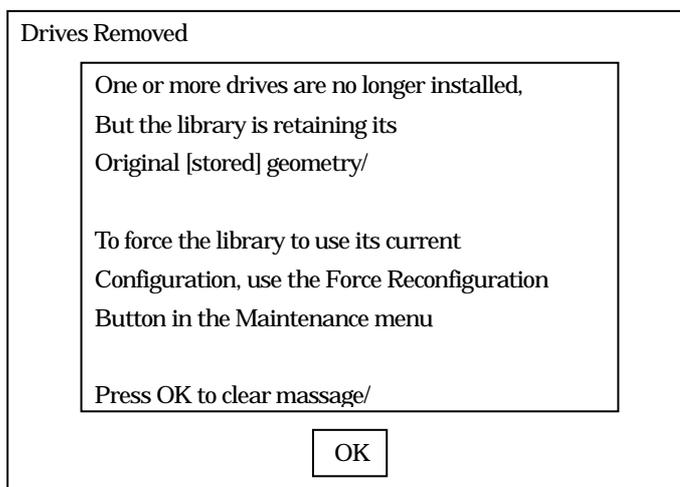


図 2-7 ドライブ増設時メッセージ

 ヒント	<p>* 本装置はドライブを増設した場合、自動的に SCSI ID が割り当てられます。</p> <p>* ドライブの SCSI ID は、ベース筐体の右側(標準実装)が“1”、左側が“2”、増設筐体の右側が“3”、左側が“4”に割り当てられます。</p>
--	--

4 増設筐体を設置する

4.1 増設筐体を設置する

本項では「N8160-51 Upgrade 型 LTO ライブラリ用増設筐体」の搭載方法を説明します。増設筐体をお持ちでない場合、本項は必要としません。

4.1.1 ラックへの取り付け

増設筐体をベース筐体と同じ方法で、ベース筐体の下のスペース(5U)に設置してください。

4.1.2 ドライブ、ドライブblankカバー取り外し

左側のドライブ(またはドライブblankカバー)を取り外します(図2-8を参照)。

1. ドライブの上部中央および左下のネジを緩めます。
2. ドライブスロットから真っすぐ引いてドライブを取り外します。LTO ライブラリ装置からドライブを引き抜く際にある程度の力が必要です。
3. ドライブがLTO ライブラリ装置から取れるまでドライブを支えながら滑らせて取り出します。

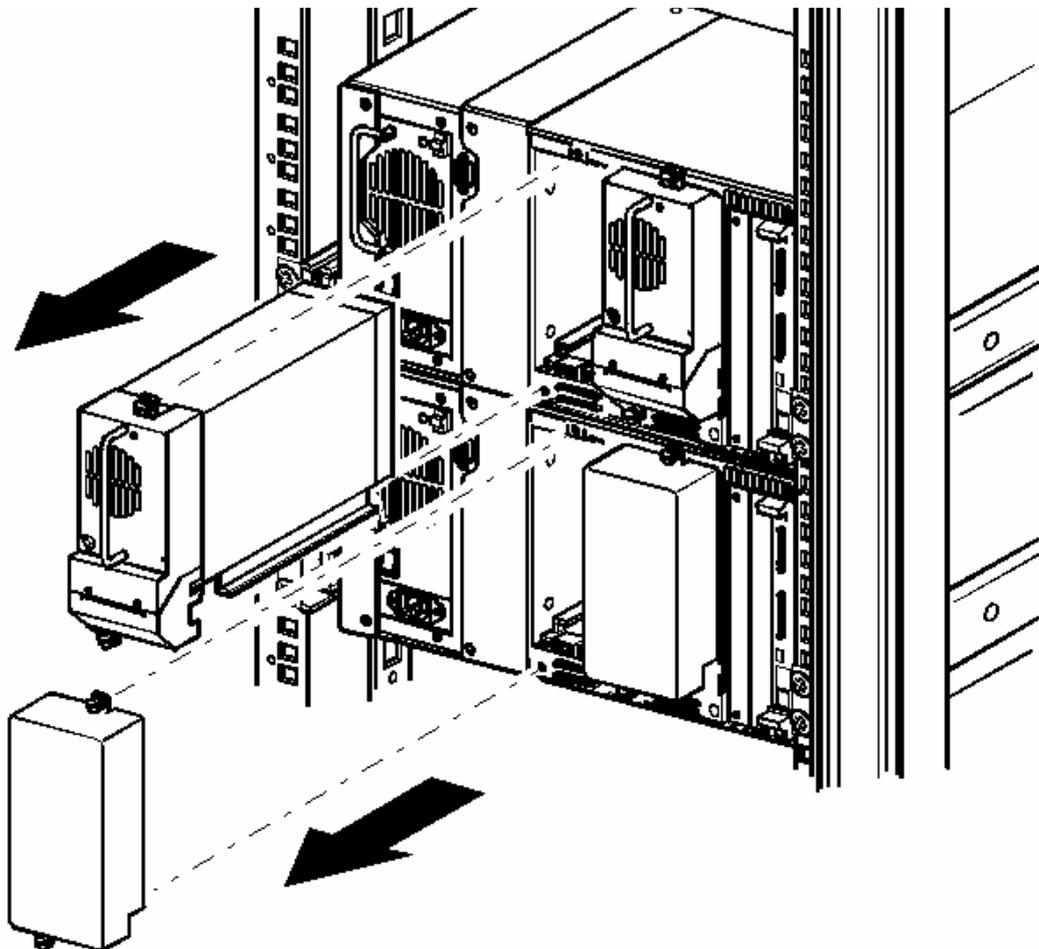


図2-8 ドライブ、ドライブカバーの取り外し

4.1.3 エレベータカバー取り外し

電源の近くにあるエレベーターのカバープレートを取り外します。

1. エレベータカバープレートの背後から2本のネジを取り外します。図2-9を参照してください。
2. ドライブスロット側からエレベータプレートを取り付けている、2本の内側ネジを取り外します。図2-9を参照してください。
3. エレベータカバープレートの上部のネジを取り外します。図2-9を参照してください。全てのネジを外したらカバープレートを後ろに滑らせ取り外します。
4. 同じ方法でベース筐体側、増設筐体側両方のカバーを外します。

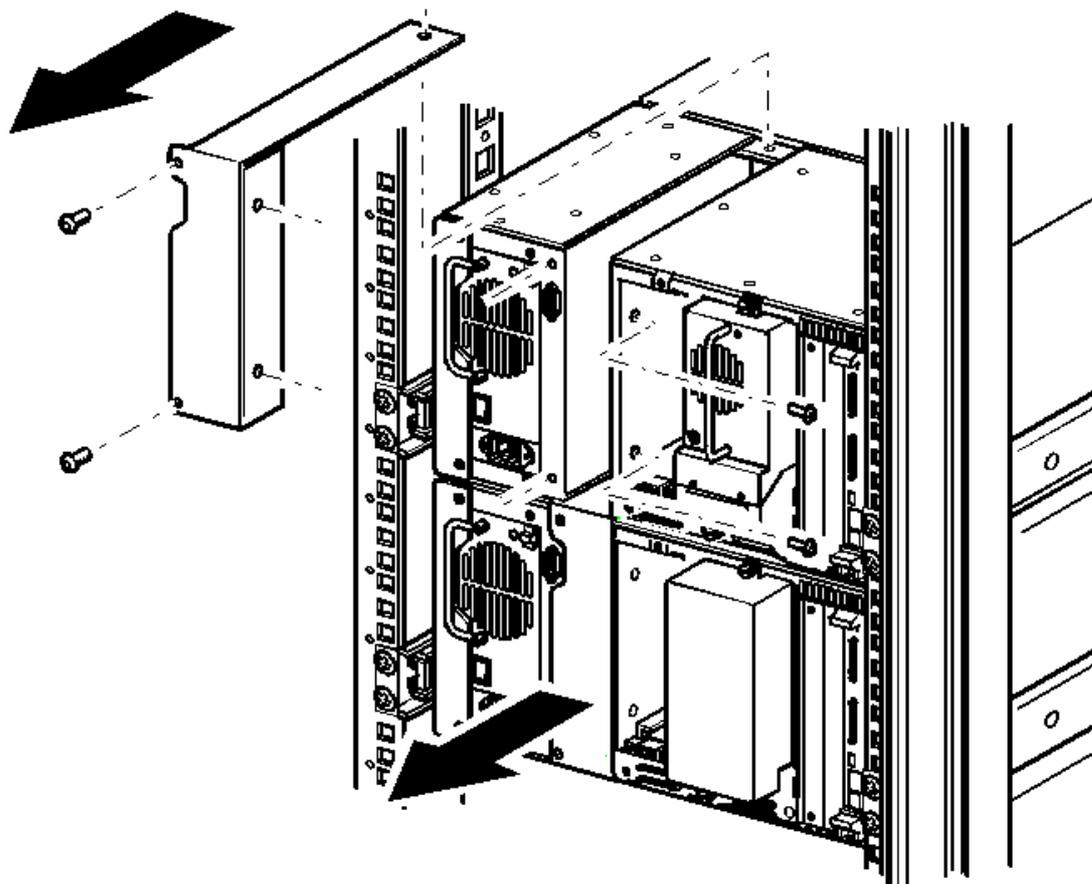


図2-9 エレベータカバープレート取り外し

4.1.4 エレベータの取り付け

1. 慎重にエレベータを奥まで挿入します。(図参照)
2. 挿入後、4カ所のネジを締め本装置にエレベータを取り付けます。
3. 4.1.2 で外したドライブ(またはドライブblankカバー)を元に戻します。

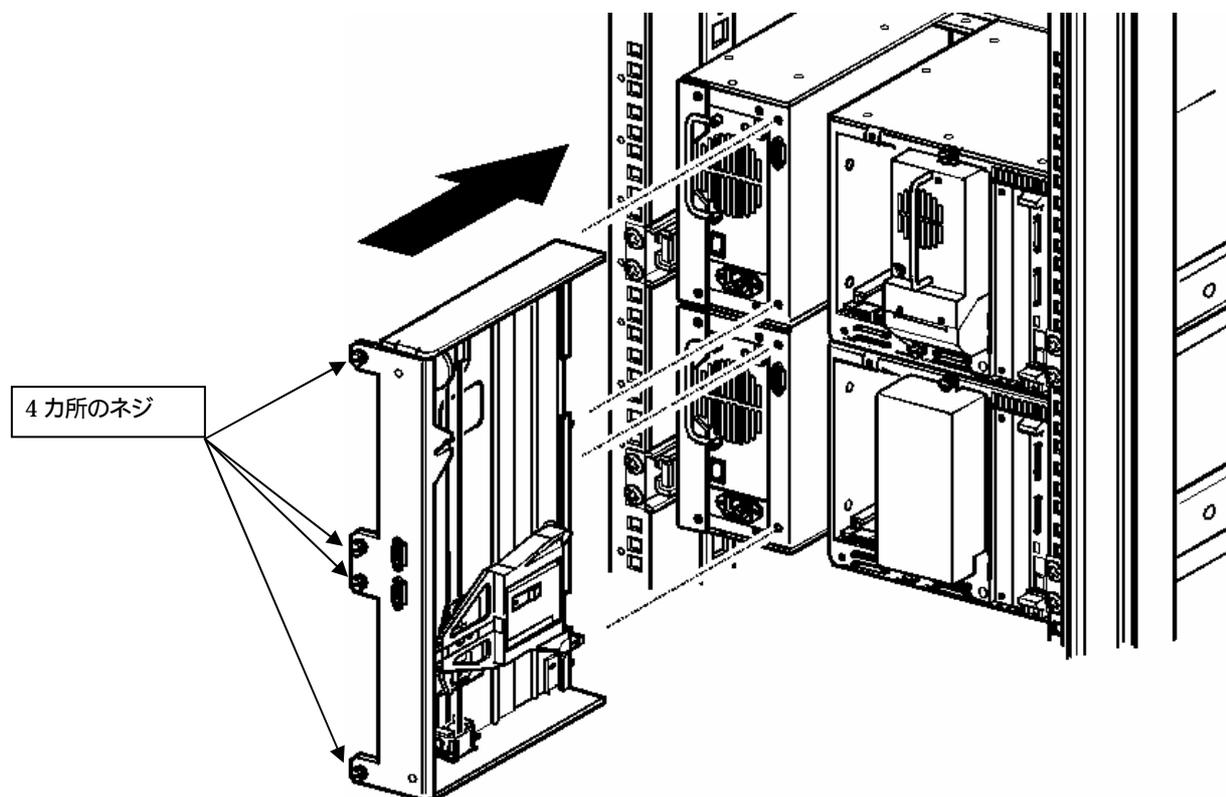


図2-10 エレベータの取り付け

4.2 ルータの取り付け

4.2.1 ブラケットの取り付け

1. 添付のブラケットネジを使用しブラケットをルータに取り付けます。

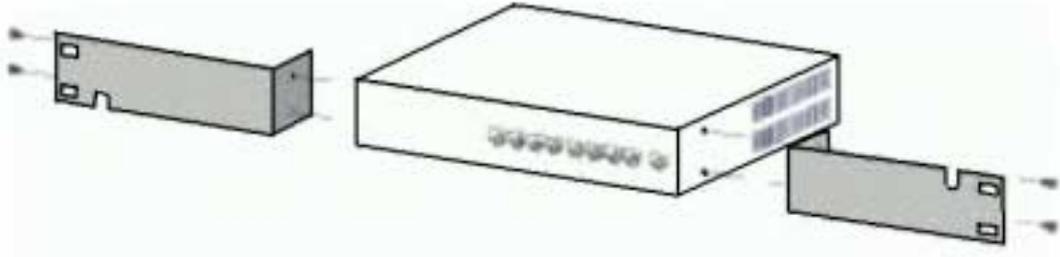


図2-11 ルータへのブラケット取り付け

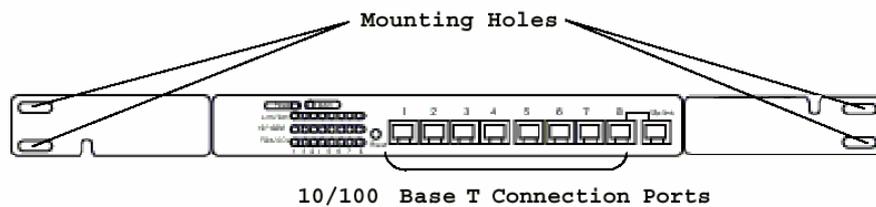


図2-12 ルータ前面

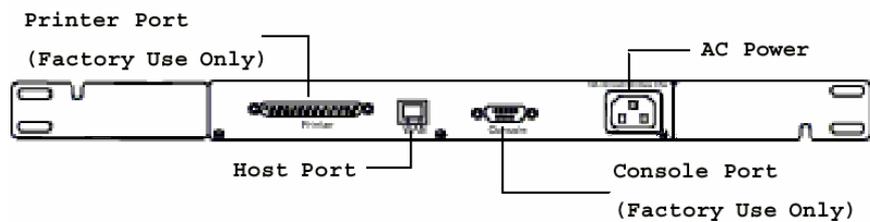


図2-13 ルータ背面

4.2.2 ラックへ取り付けます。

 重要	* ルータはLTO ライブラリ装置のすぐ上のスペース(1U)に取り付けてください。
	* ルータはラックの背面側に取り付けてください。

1. コアナットおよび取り付けネジを使用し、4カ所でラックに固定します。

 ヒント	* コアナット、取り付けネジはルータに添付されているものを使用しますが、添付品にはタイプの違う物が余分に入っています。ご使用のラックに合うものを使用し、余った部品は大切に保管しておいてください。
--	---

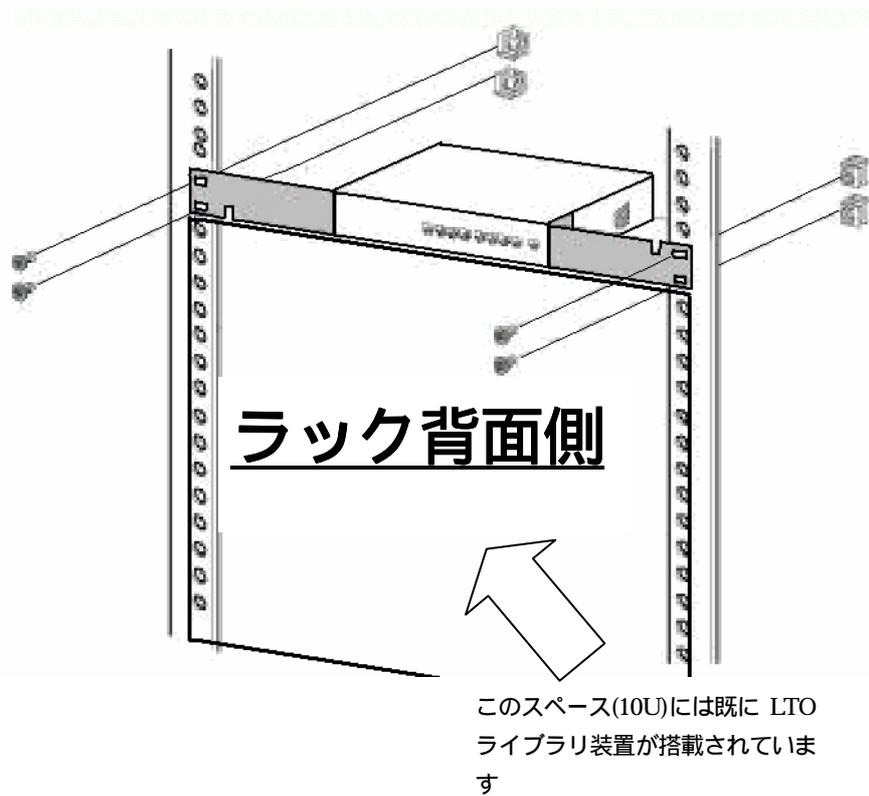


図 2-14 ルータのラックへの取り付け

4.3 ケーブルの接続

1. 添付の LAN ケーブルでベース筐体、増設筐体をルータと接続します。
2. 添付のエレベータ用マスターケーブルとスレーブケーブルでベース筐体と増設筐体を接続します。

 ヒント * マスターケーブルとスレーブケーブルは、誤挿入防止のためコネクタのピン形状が異なります。

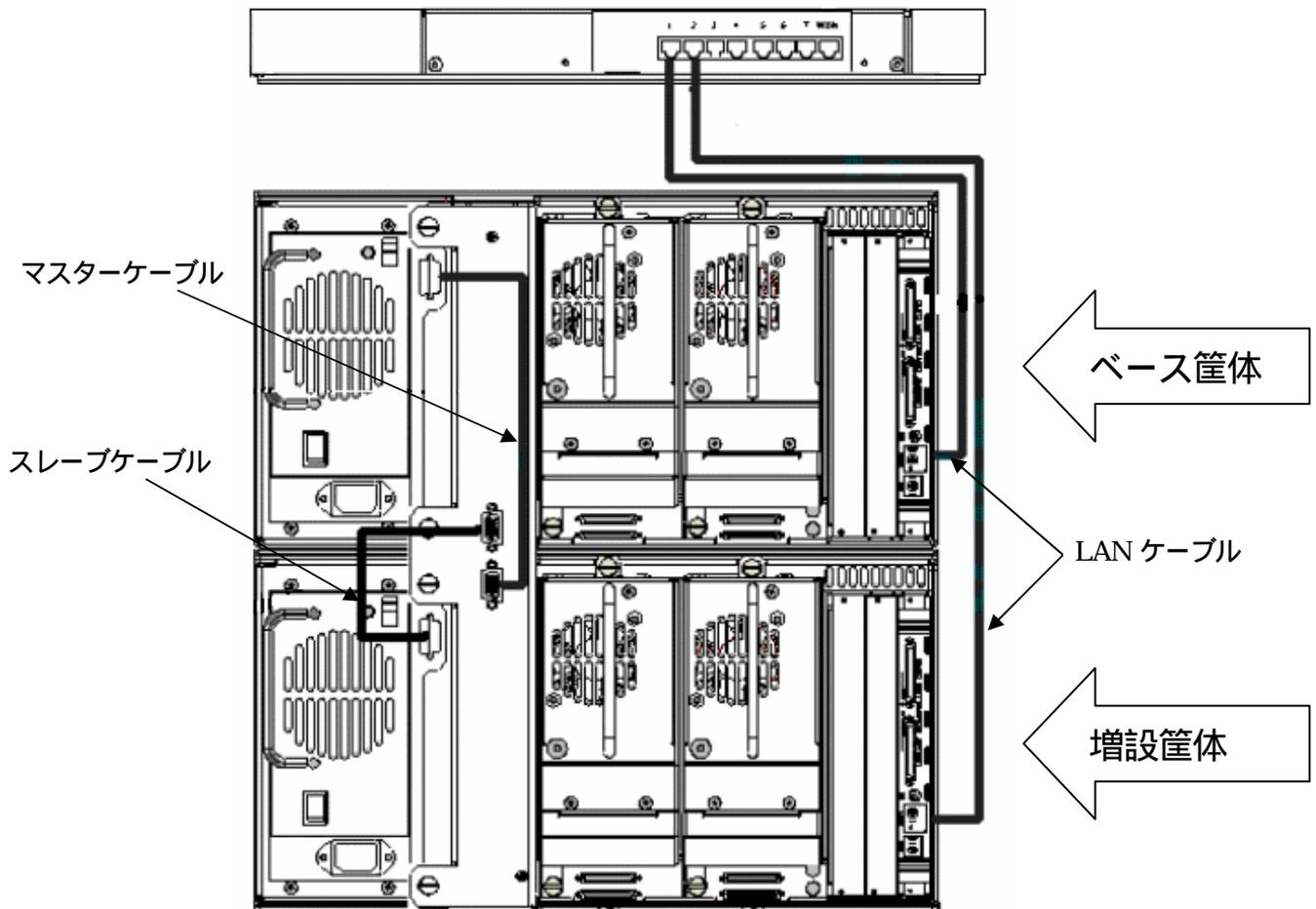


図2-15 ルータとLTO ライブラリのケーブル接続

4.4 Master&Slave の設定

本装置は増設筐体を組み合わせた場合、メニュー操作でベース筐体を Master、増設筐体を Slave に設定する必要があります。

4.4.1 ACケーブル接続

1. 添付のACケーブルにて本装置を接続してください。接続はLTOライブラリ装置が2箇所、ルータが1箇所の計3箇所になります。

 重要	* Master&Slave の設定は、必ずサーバとLTOライブラリ装置を接続する前に行ってください。
---	---

2. LTOライブラリ装置の電源を入れてください。電源は装置背面の電源スイッチをオンにすると入ります。また、電源はベース筐体、増設筐体の両方を入れてください。

 ヒント	* ルータはACケーブルを接続すれば自動的に電源が入ります。
--	--------------------------------

4.4.2 メニュー操作

1. 電源起動後に下記初期画面が表示されましたら、[Menu]-[Library]を押し「Library Edit」画面を表示させてください。メニュー操作はベース筐体側(上段)、増設筐体側(下段)の各々で行います。本項目の手順3で、ベース筐体側を「Master」、増設筐体側を「Slave」に設定してください。



図2-16 「Master」「Slave」設定画面 a

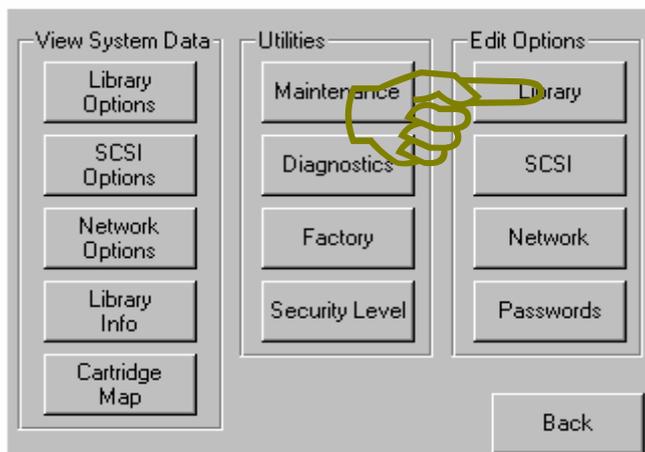


図 2-17 「Master」「Slave」設定画面 b

2. 下記 Edit 画面が表示されましたら、 ボタンを押し[Module Configuration]ボタンを押します。

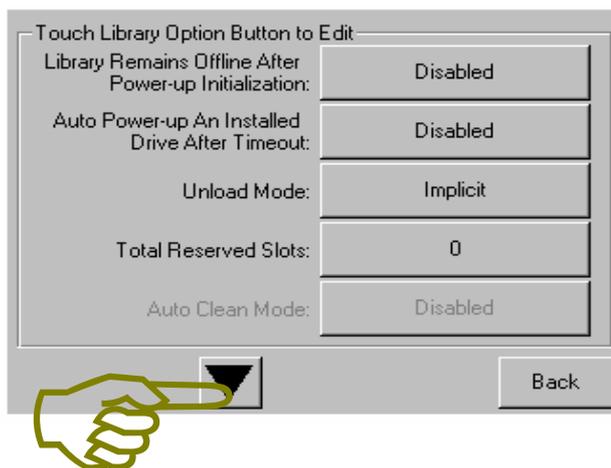


図 2-18 「Master」「Slave」設定画面 c

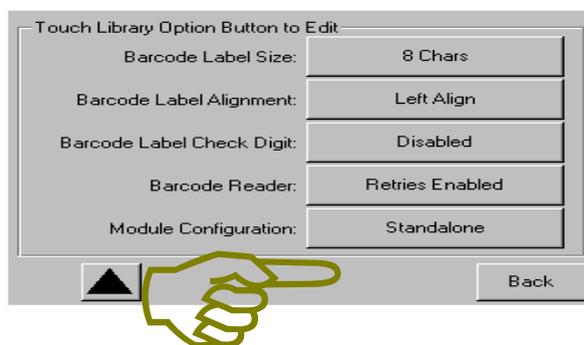


図 2-19 「Master」「Slave」設定画面 d

3. 「Module Configuration」画面が表示されましたら、ベース筐体側は「Master」に、増設筐体側は「Slave」に設定します。[Master]、[Slave]ボタンを押すと「New」の欄に各々表示されますので、その後 [Save]ボタンを押してください。[Save]ボタンを押すと、「Confirm」画面が表示されますので[OK]ボタンをおしてください。

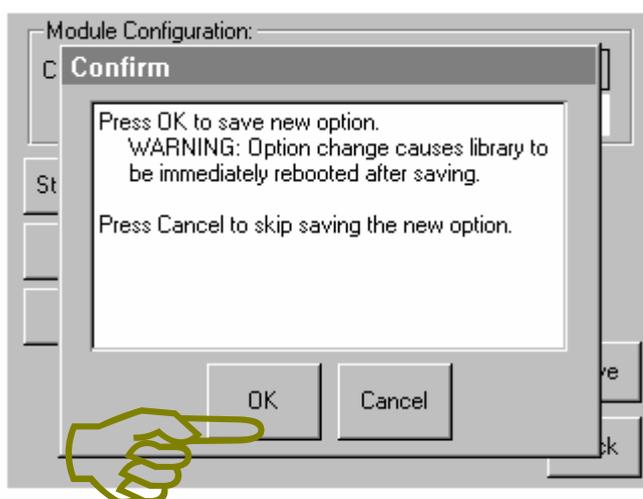
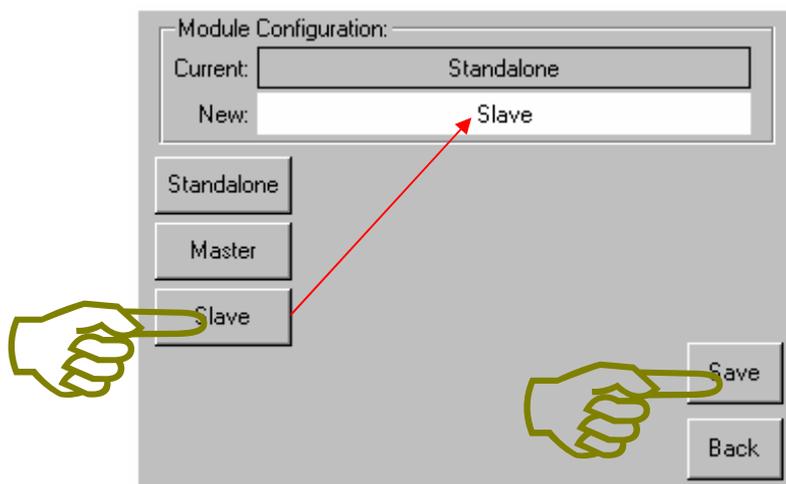
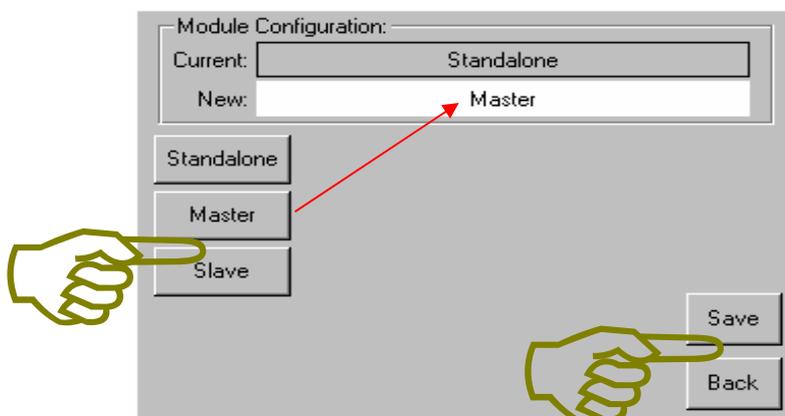


図 2-20 「Master」「Slave」設定画面 e

4. タッチスクリーンの表示が、「Master」側、「Slave」側が各々下記表示に変更されます。
本画面が表示されましたら、増設筐体の設置は完了です。



図 2-21 「Master」「Slave」設定画面 f_Master 画面

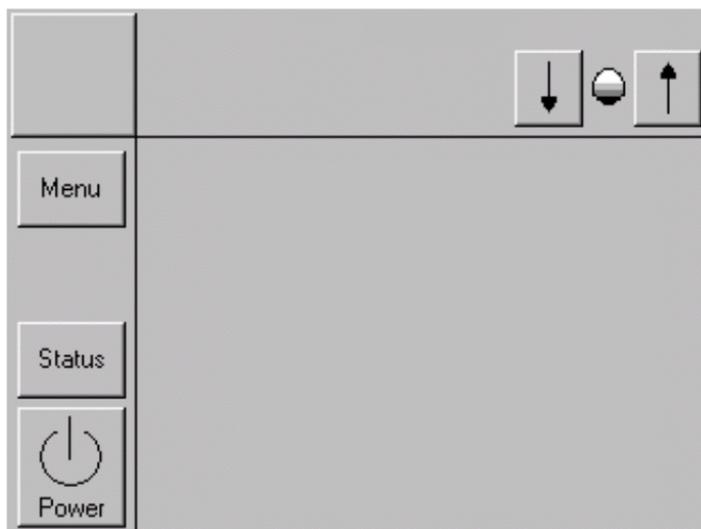


図 2-22 「Master」「Slave」設定画面 g_Slave 画面

5 FibreChanel を実装する

本項では「N8103-83 UpgradeLTO ライブラリ用 Fibre Channel コントローラ」の搭載方法を説明します。FC コントローラをお持ちでない場合、本項は必要としません。

5.1 FC コントローラ コントローラの取り付け

LTO ライブラリ装置の電源が入っていないことを確認してください。

5.1.1 FC コントローラカバーの取り外し

装置背面のブランクカバーを取り外してください。空スロットは2箇所あり、どちらのスロットに取り付けても動作しますが、ケーブルの接続上左側に取り付けることをお勧めします。

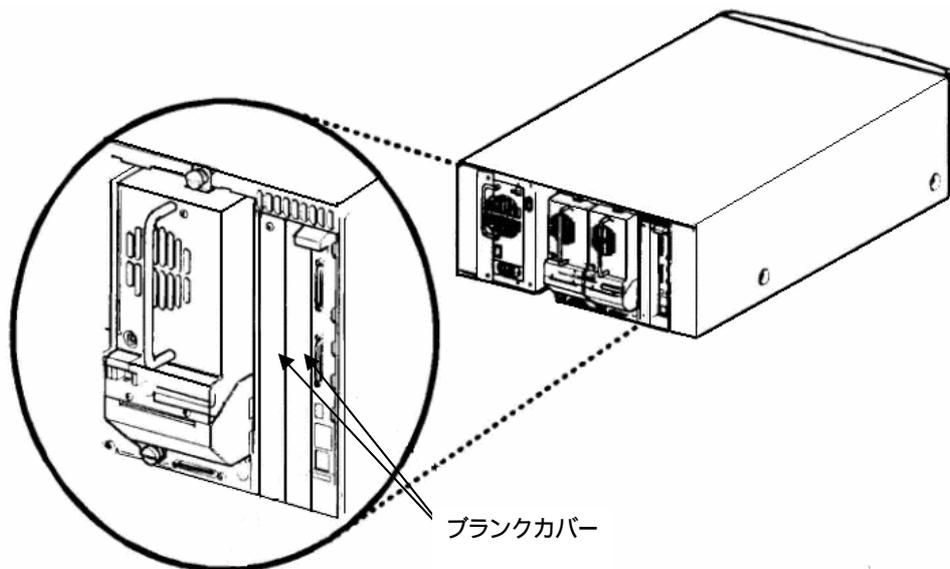


図2-23 FC コントローラカバー取り外し

5.1.2 FC コントローラの取り付け

カバーを外したスロットにFC コントローラを慎重に挿入します。

6 ケーブルを接続する

本項ではLTO ライブラリ装置の代表的な SCSI ケーブルの接続例を記載します。

ケーブルの接続は、サーバ、LTO ライブラリ装置の電源が入っていないことを確認し実施してください。

6.1 ベース筐体のみ場合

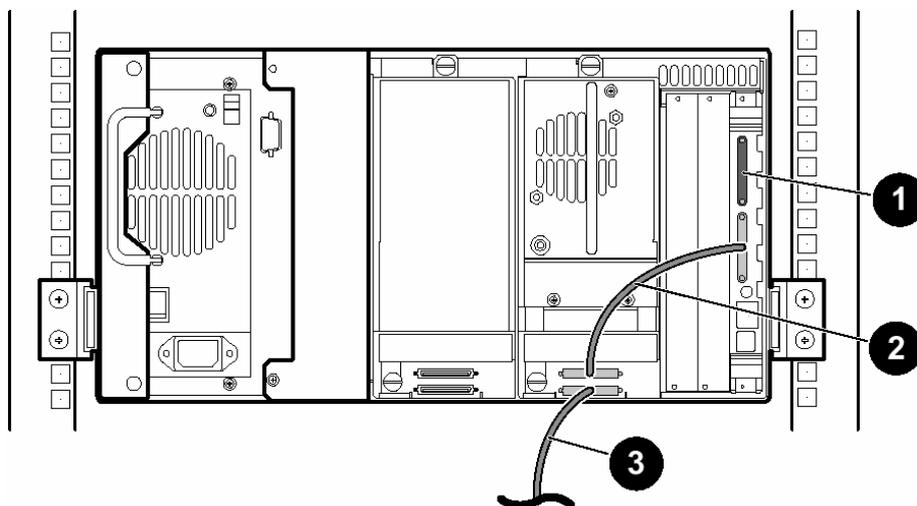


図 2-24 ベース筐体だけの SCSI 接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.2 ベース筐体 + 増設ドライブの場合

6.2.1 サーバ側 SCSI コントローラ 1 枚の場合 (低速接続)

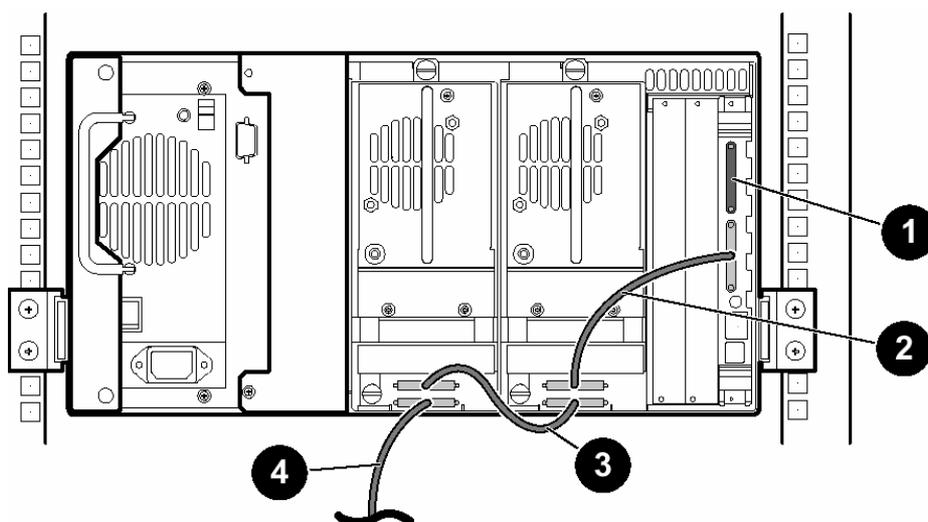


図 2-25 ベース筐体 + 増設ドライブの SCSI 接続 (低速接続)

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8160-52 添付品 (ドライブ-ドライブ間)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.2.2 サーバ側が SCSI コントローラ 2 枚の場合（高速接続）

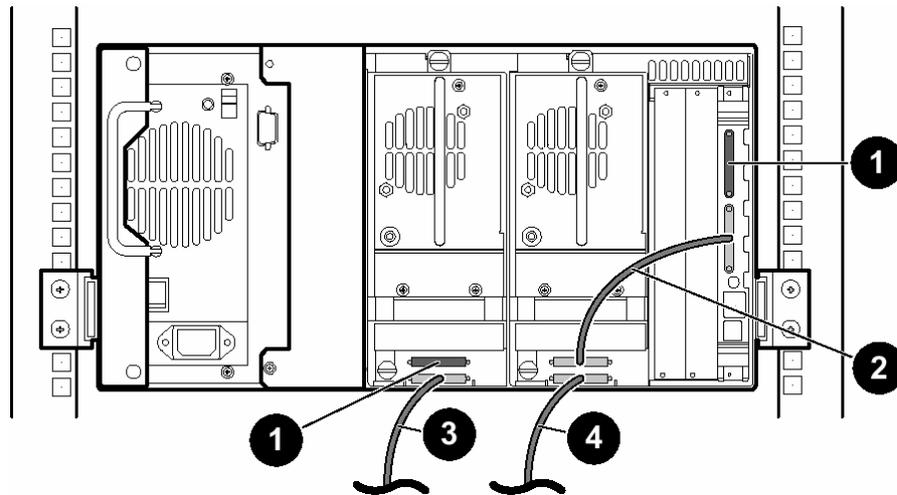


図 2-26 ベース筐体 + 増設ドライブの SCSI 接続（高速接続）

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50/-52 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 （ドライブ-ライブラリコントローラ間）
- 3 . SCSI ケーブル （サーバ側へ）
- 4 . SCSI ケーブル （サーバ側へ）

6.3 ベース筐体 + 増設筐体の場合

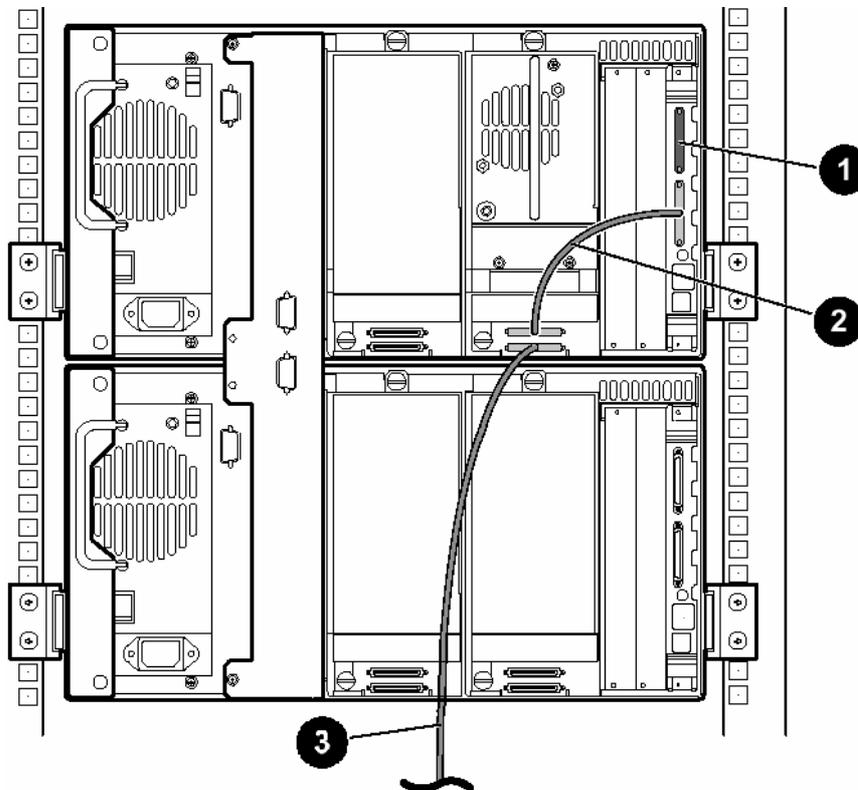


図 2-27 ベース筐体 + 増設筐体の SCSI 接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 （ドライブ-ライブラリコントローラ間）
- 3 . SCSI ケーブル （サーバ側へ）

6.4 ベース筐体 + 増設筐体の場合 + 増設ドライブの場合

6.4.1 サーバ側 SCSI コントローラ 1 枚の場合 (低速接続)

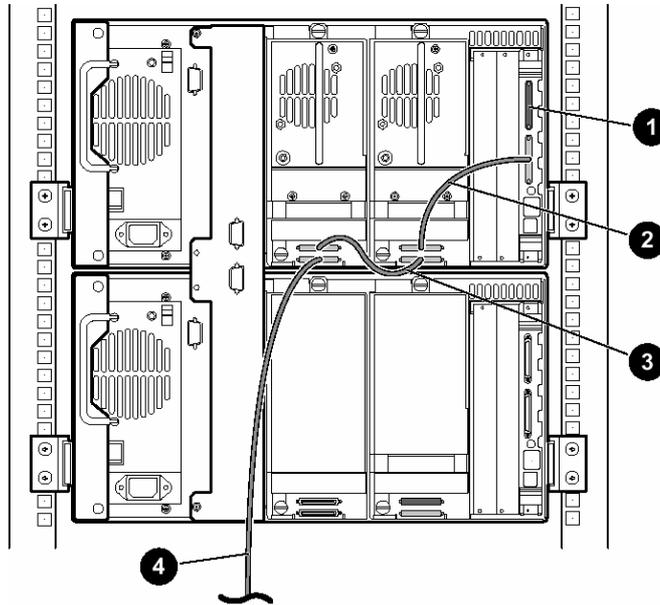


図 2-28 ベース筐体 + 増設筐体 + 増設ドライブの SCSI 接続 (低速接続)

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8160-52 添付品 (ドライブ-ドライブ間)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.4.2 サーバ側が SCSI コントローラ 2 枚の場合 (高速接続)

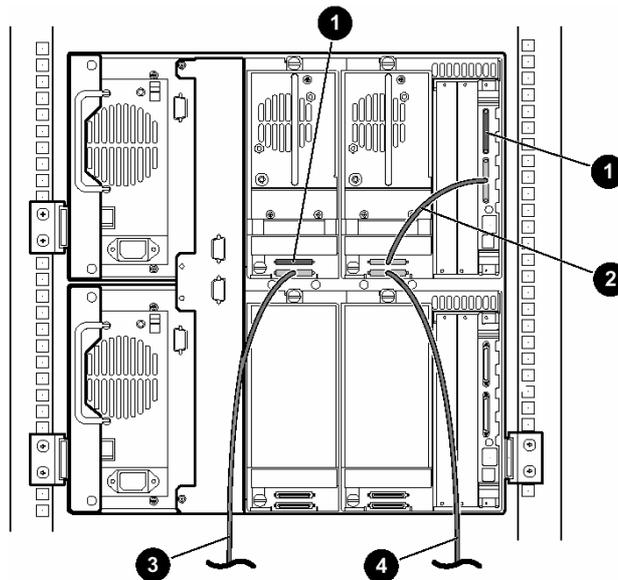


図 2-29 ベース筐体 + 増設筐体 + 増設ドライブの SCSI 接続 (高速接続)

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50/52 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.5 ベース筐体+増設筐体の場合+増設ドライブ2台の場合

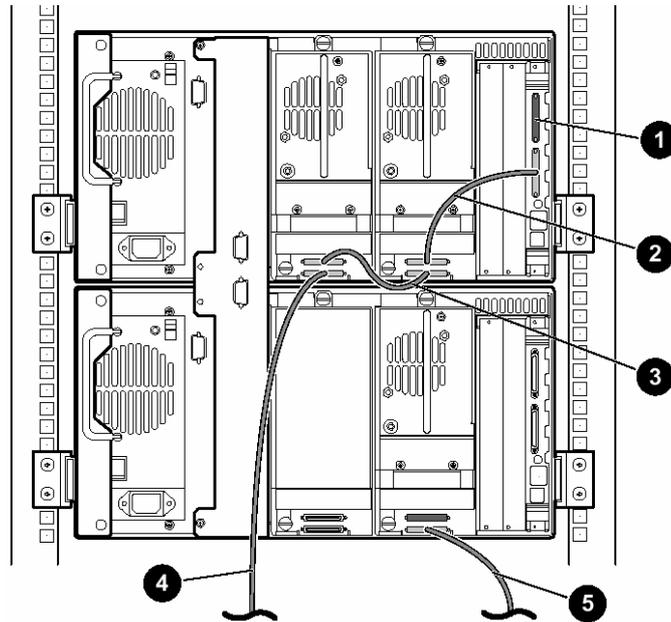


図2-30 ベース筐体+増設筐体+増設ドライブ2台のSCSI接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8160-52 添付品 (ドライブ-ドライブ間)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 5 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.6 ベース筐体 + 増設筐体の場合 + 増設ドライブ 3 台の場合

6.6.1 サーバ側 SCSI コントローラ 2 枚の場合 (低速接続)

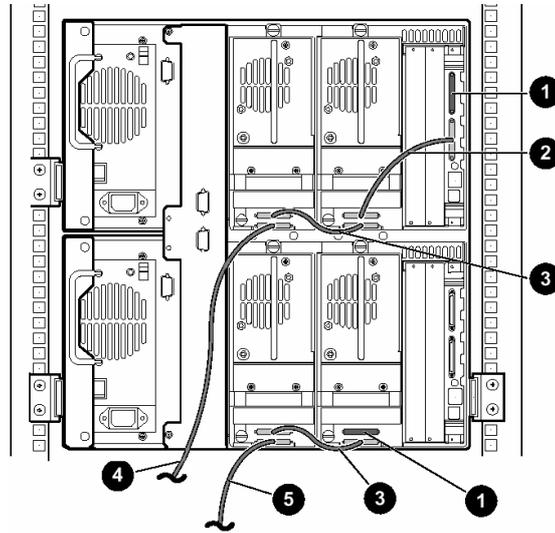


図 2-31 ベース筐体 + 増設筐体 + 増設ドライブ 3 台の SCSI 接続 (低速接続)

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50/-52 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8160-52 添付品 (ドライブ-ドライブ間)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 5 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.6.2 サーバ側 SCSI コントローラ 4 枚の場合 (高速接続)

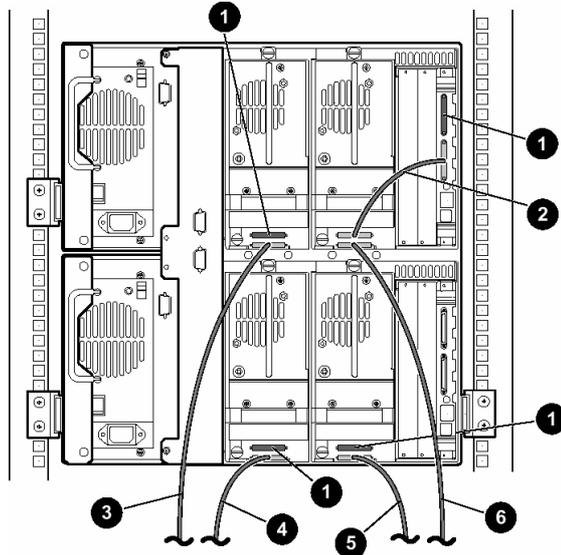


図 2-32 ベース筐体 + 増設筐体 + 増設ドライブ 3 台の SCSI 接続 (高速接続)

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50/-52 添付品
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 4 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 5 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)
- 6 . SCSI ケーブル (サーバ側へ)

6.7 FC コントローラでの接続（ベース筐体の場合）

本項は N8103-83 Upgrade 型 LTO ライブラリ用 FC コントローラを実装した場合の接続例です。

FC コントローラの SFP コネクタに、FC コントローラに添付されている SFP モジュール取り付けてください。

 重要	* FC 構成にて使用する場合、Windows のイベントログに「Device is an unsupported SCSI device type」と警告表示される場合がありますが、動作上問題はありません。
	* FC 構成にて使用する場合、本 FC コントローラが Windows 上のデバイスマネージャで「その他のメディア」に表示される場合がありますが、動作上問題はありません。（デバイス名: OVERLAND NEO VIA FCO SCSI Processor Device）

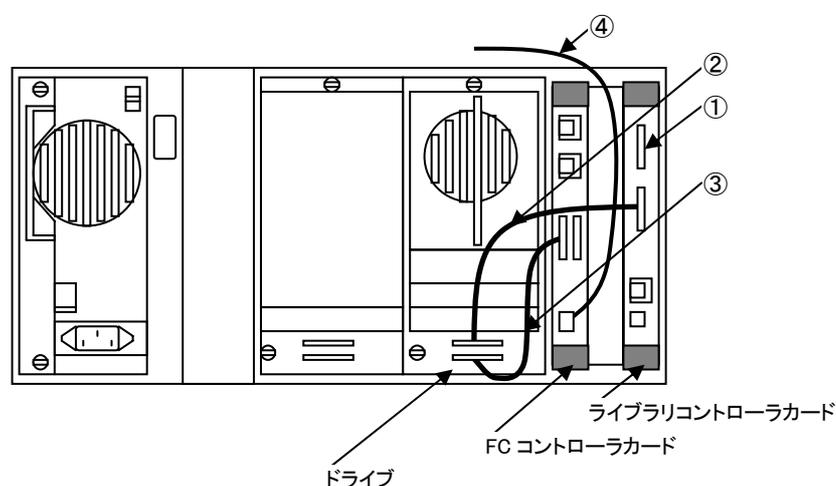


図 2-33 FC コントローラの接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 4 . FC ケーブル (サーバ側へ)

6.8 FC コントローラでの接続 (ベース筐体 + 増設ドライブ1台の場合)

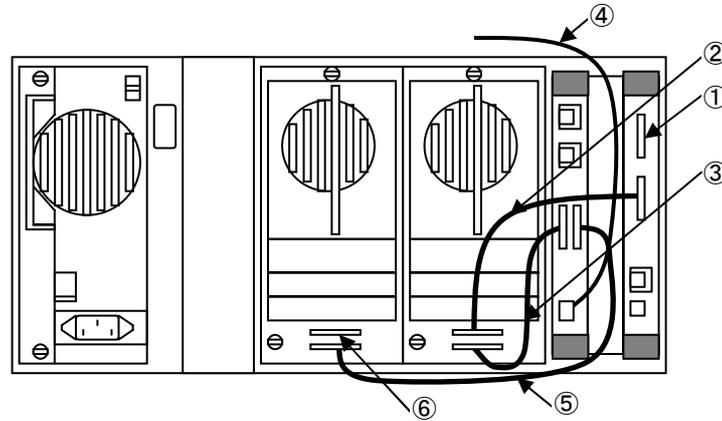


図 2-34 FC コントローラの接続

SCSI ターミネータ : N8160-50

- 1 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 2 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 3 . FC ケーブル (サーバ側へ)
- 4 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 5 . SCSI ターミネータ : N8160-50

6.9 FC コントローラでの接続（ベース筐体+増設筐体+増設ドライブ1台の場合）

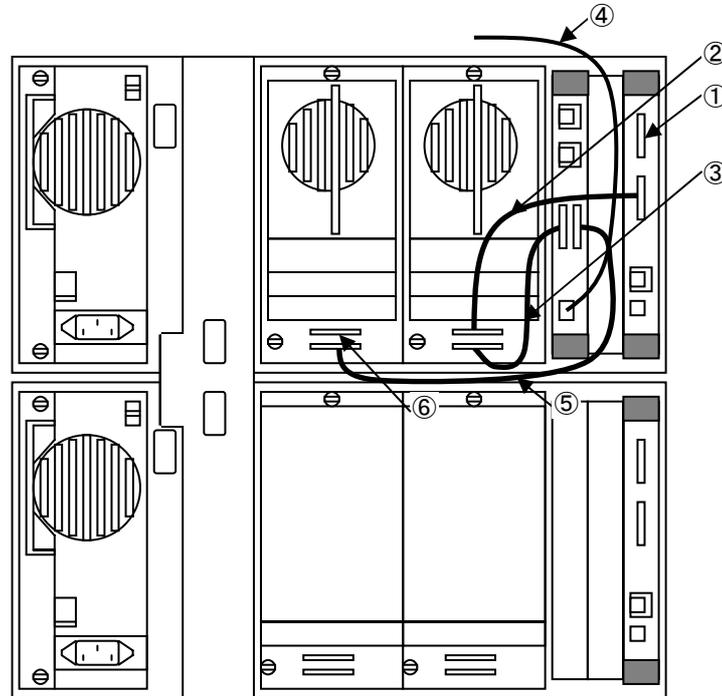


図 2-35 FC コントローラの接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 4 . FC ケーブル (サーバ側へ)
- 5 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 6 . SCSI ターミネータ : N8160-50

6.10 FC コントローラでの接続 (ベース筐体+増設筐体+増設ドライブ3台の場合)

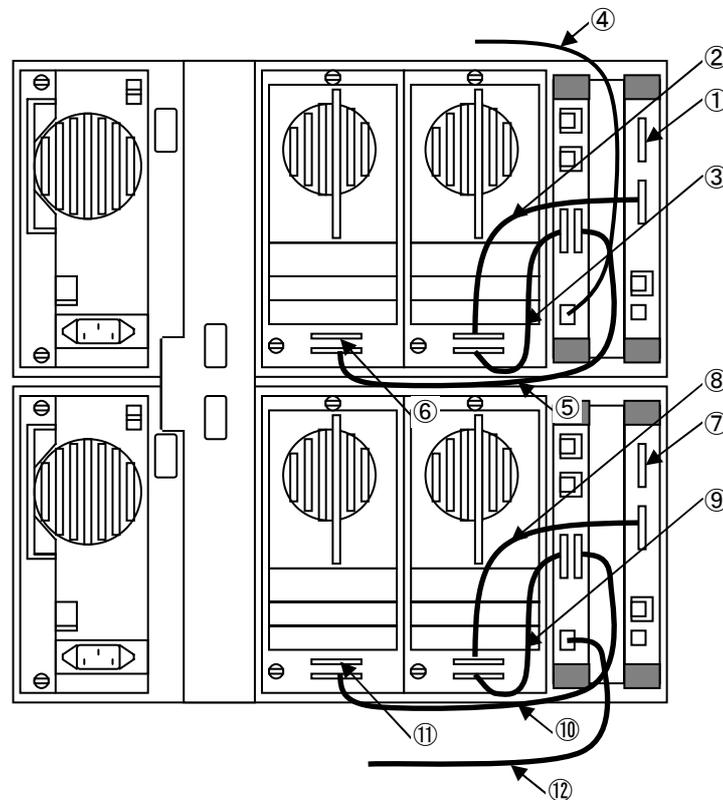


図 2-36 FC コントローラの接続

- 1 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 2 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 3 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 4 . FC ケーブル (サーバ側へ)
- 5 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 6 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 7 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 8 . SCSI ケーブル : N8160-50 添付品 (ドライブ-ライブラリコントローラ間)
- 9 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 10 . SCSI ケーブル : N8103-83 添付品 (ドライブ-FC コントローラ間)
- 11 . SCSI ターミネータ : N8160-50
- 12 . FC ケーブル (サーバ側へ)

7 電源を入れる / 切る

7.1 電源を入れる



* 増設筐体を搭載してUPS 接続している場合は、ベース筐体、増設筐体、ルータ全てのACケーブルを同一のUPS へ接続してください。

1. AC ケーブルを接続してください。ステータス LED が点滅状態になります。
2. 電源スイッチをいれてください。

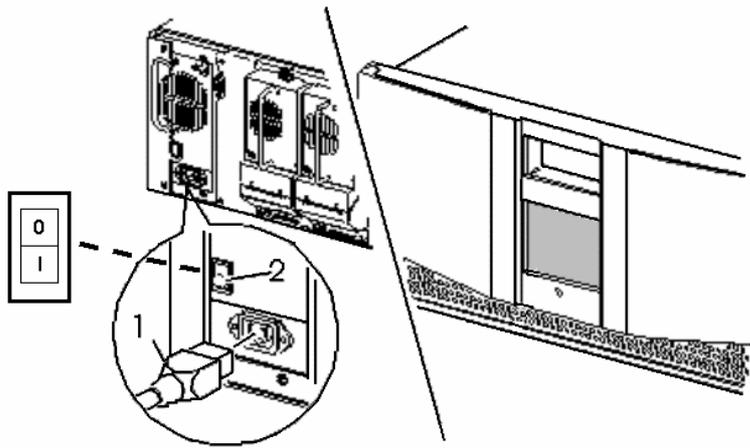


図 2-34 電源スイッチの入れ方

3. 自動的に自己診断が始まり完了後、タッチスクリーンに初期画面が表示されます。

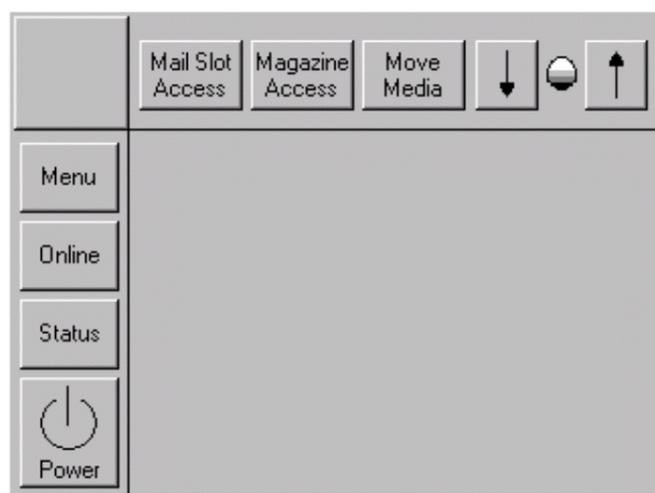


図 2-35 初期画面



* システム動作中に[Online]ボタンに触れないでください。システムからLTO ライブラリが見えなくなりエラーの原因となることがあります。もし、[Online]ボタンに触れてしまった場合は表示が“ Offline ”になりますので[Offline]ボタンを押して、[Online]に戻してください。Offline になった場合にはステータス LED が点滅します。



* 増設筐体を搭載している場合、増設筐体の電源も同じ方法で入れてください。増設筐体側の初期画面メニューには、ベース筐体側と共通のものがあるため、上記画面にあるメニューの一部がありません。

7.2 電源を切る

1. 初期画面で[Power]ボタンを押してください。

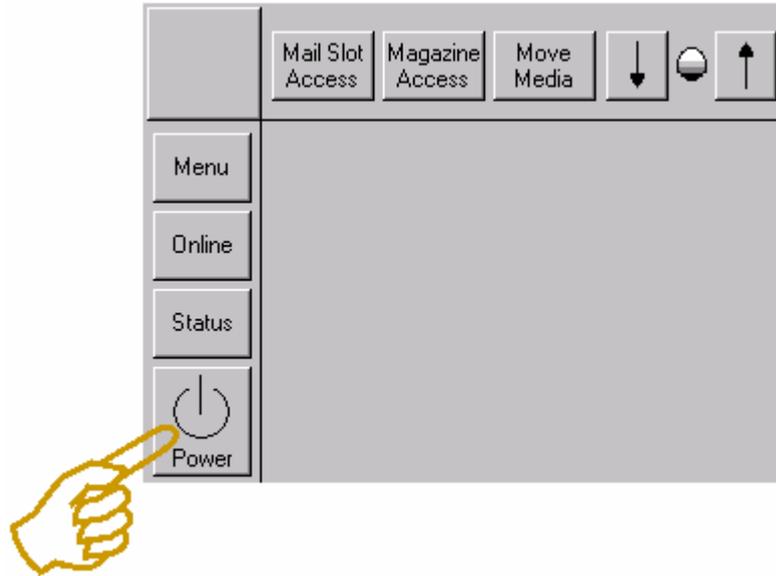


図 2-36 電源 OFF 設定画面

2. 図 2-37 の画面が表示されました[OK]ボタンを押してください。自動的に電源が切れますのでタッチスクリーンが消えたことを確認して AC ケーブルを抜いてください。

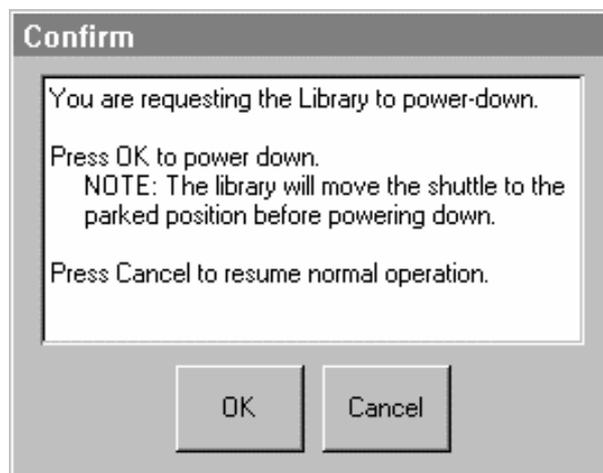


図 2-37 Confirm

 ヒント	* 電源スイッチが ON のままで、AC ケーブルの抜いても問題ありません。また、電源スイッチを ON にした状態で AC ケーブルを接続した場合でも電源は正常に入ります。
	* タッチスクリーンが消えた状態（ステータス LED が黄色点灯）で、もう 1 度タッチスクリーンに触れると電源が入ります。
	* [Power]ボタンを使用せず、電源スイッチを OFF にし、AC ケーブルを抜かずに電源スイッチを ON にしても電源は入りません。タッチスクリーンに触れて電源を入れてください。

第3章 操作

ここでは、本装置の特徴ならびにセットアップについて説明します。

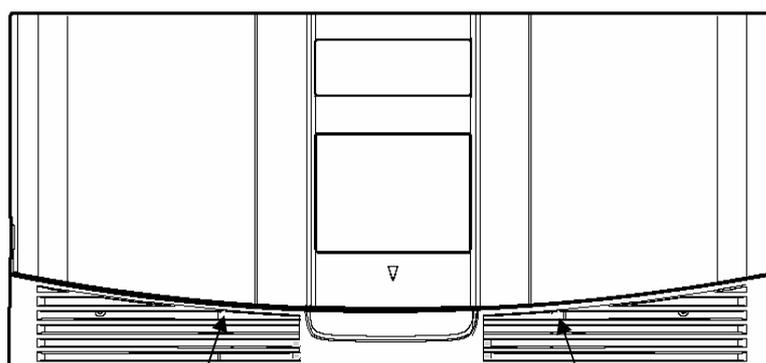
1 カートリッジの挿入と取り出し

カートリッジを挿入あるいは取り出すには、マガジンを本装置から取り出す必要があります。

1.1 マガジンの取り出し

マガジンは手動で取り出す必要があります。マガジンにアクセスするには、ライブラリの Status 画面の Magazine Access オプションを使用します。このオプションを使えば、左または右マガジンドアを個別に開くか、あるいは両方のマガジンドアを同時に開くことができます。マガジンドアを開いたら、マガジンを引き出します。

	* マガジンを取り出す際には、ドライブにカートリッジが残っていないことを確認してください。
	* マガジンの取り出しは、バックアップソフトのサービスが動作していない時に行ってください。バックアップソフトのサービスが動作している時に行くとバックアップソフトにエラーが発生する場合があります。



左マガジンドア
リリース用スイッチ

右マガジンドア
リリース用スイッチ

図3-1 リリーススイッチ

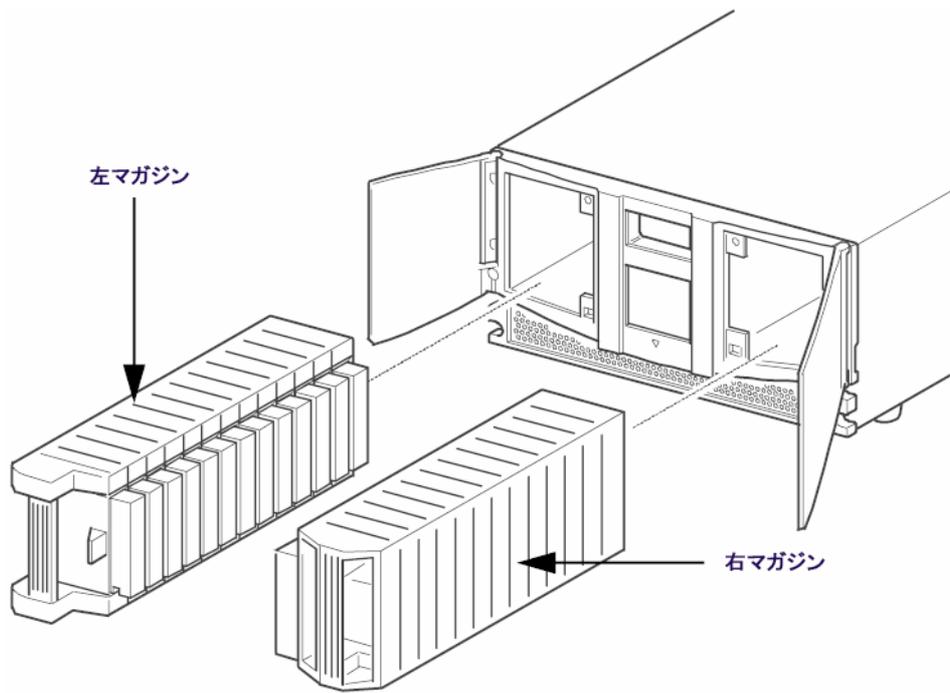


図3-2 マガジンを取り出す

1.2 マガジンにカートリッジを挿入する

マガジンの前方側のスロットが最も小さい番号のスロットになります。バーコードラベル貼付面が外側を向くようにしてカートリッジを挿入します。

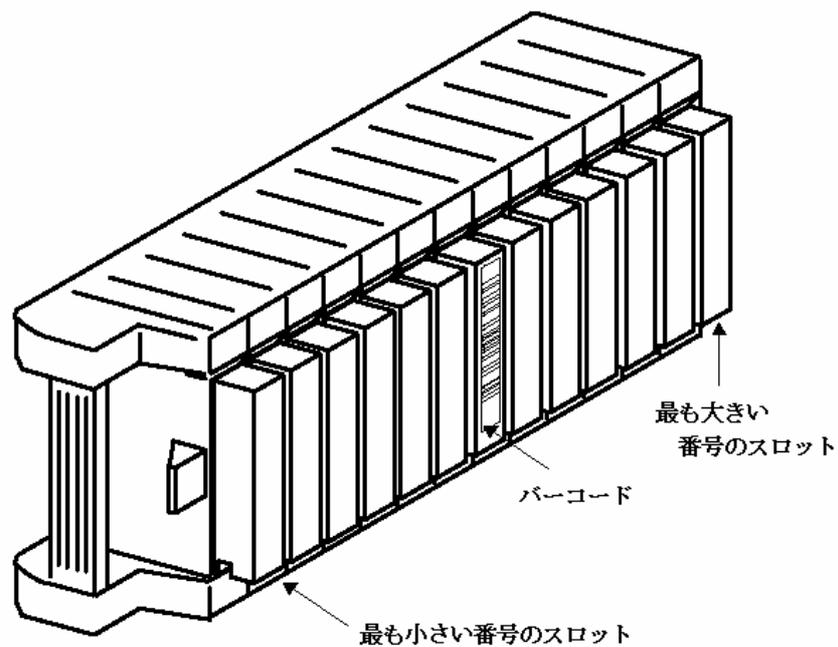


図3-3 マガジンにカートリッジを挿入した状態

1.3 メールスロットの使用（左マガジンのみ）

メールスロット機能を使用することで、マガジン全体を取り出すことなく、1本のカートリッジを挿入したり取り出したりすることができます。メールスロットにアクセスするには、ライブラリステータス画面にある[Mail Slot Access]オプションを使用してください。このオプションを使用すると、左マガジンドアが開いて、メールスロットにアクセスできるようになります。左マガジンドアが開いたら、メールスロットを手前に引いて開き、カートリッジを挿入してください

	* メールスロットはバックアップソフトから認識されません。メールスロットを使用している場合、バックアップに使用できるカートリッジは最大 29 巻になります。30 巻使用したい場合はメールスロットを無効にしてください。
---	--

	* メールスロットを出荷時設定で有効になっています。メールスロットを無効にするには、Edit Library Options メニューの Mail Slot Mode オプションを使用しなければなりません。詳細については表 4-1 を参照のこと。
---	---

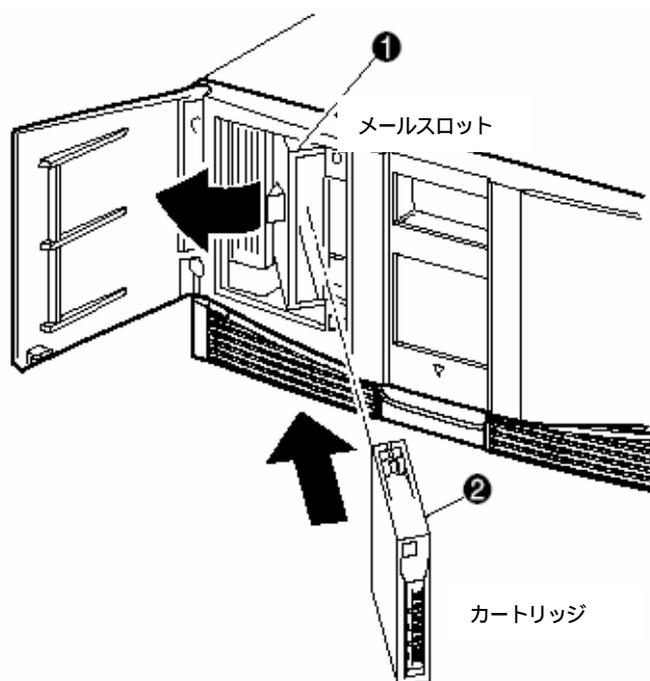


図3-4 左マガジンのメールスロット

1.4 データカートリッジ書き込み禁止スイッチ

データカートリッジの書き込み禁止スイッチを使って、テープに他のファイルが書き込まれないようにし、データを保護します。書き込み禁止設定を変更するには、次のように書き込み禁止スイッチを移動します。

- ・スイッチを右に移動させてカートリッジにデータが書き込まれるのを防ぎます。
- ・スイッチを左に移動させてカートリッジにデータを書き込めるようにします。

書き込み禁止スイッチがどちらに設定されていても、カートリッジからデータを読み取ることはできます。

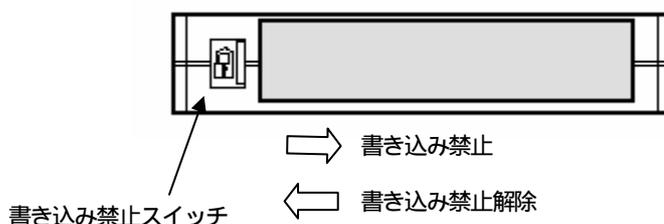


図3-5 書き込み禁止スイッチの設定

1.5 バーコードラベル

製品付属のバーコードラベルをデータカートリッジに貼付してください。ラベルの貼付の仕方は以下の図2-8を参照にしてください。

バーコードラベルは貼付なくても、動作上問題はありません。

 重要	<p>* バーコードラベルは必ず製品に添付されているものか、別途販売の指定のバーコードラベルをご使用ください。指定のバーコードラベルについては、販売店へご連絡ください。</p>
--	--

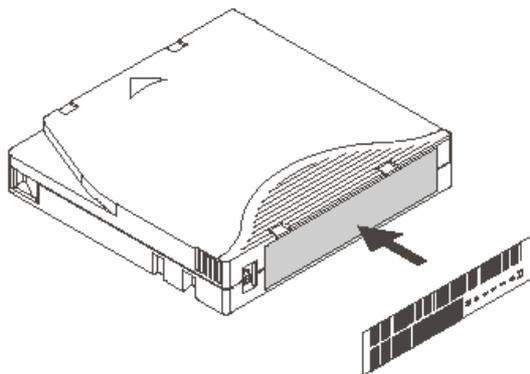


図3-6 バーコードラベルの貼付

2 タッチスクリーン

2.1 画面構成

・初期化画面

ライブラリの電源を初めて入れると、一連の電源投入時セルフテスト (POST) による診断が実行されます。POST が完了すると、次の初期化画面が表示され、インベントリを行います。画面の[Continue]を押してください。[Continue]を押さなくても、インベントリ完了後に自動的にメイン画面に変わります。

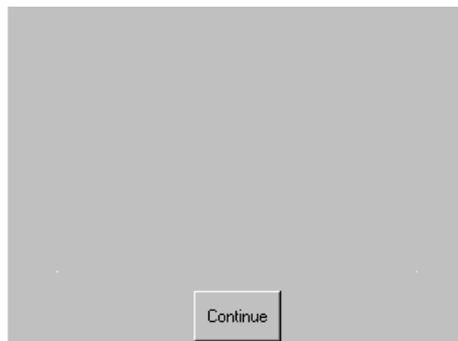


図 3-7 初期化画面

・メイン画面

POST が正常に終了し、ライブラリの初期化が完了すると (約 45 秒かかります) 次のライブラリステータス画面が表示されます。



図 3-8 メイン画面

ライブラリデフォルト画面では以下のオプションを選択することができます。増設筐体は一部メニューがベース筐体と共通なため画面には表示されないものもあります。

- ・ Mail Slot Access (メールスロットへのアクセス)
- ・ Magazine Access (マガジンへのアクセス)
- ・ Move Media (メディアの移動)
- ・ LCD Contrast Controls (LCD のコントラスト調整)
- ・ Menu (メニュー)
- ・ Online (オンライン)
- ・ Status (ステータス)
- ・ Power (電源)



* オプションの操作は、バックアップソフトのサービスが動作していない時にのみ行ってください。バックアップソフトのサービスが動作している時に行うとバックアップソフトにエラーが発生する場合があります。

重要

以下では、メイン画面で利用できる各オプションについて説明します。

2.1.1 Mail Slot Access オプション

このオプションを選択して、メールスロットアクセス画面を表示します。このオプションを使用すると、ライブラリの電源を切らずにメールスロットにアクセスできます。メールスロットは、左マガジン手前にあり、パスワードによって保護したり完全に無効にしたりすることができます。無効にした場合は、このメニューボタンは表示されません。

2.1.2 Magazine Access オプション

このオプションを選択して、マガジンアクセス画面を表示します。
このオプションを使用すると、マガジンドアを開くことが可能です。

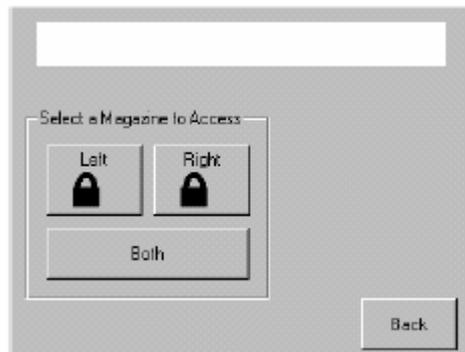


図 3-9 マガジンアクセス画面

2.1.3 Move Media オプション

このオプションを選択して、メディア移動画面を表示します。オプションを使用すると、ドライブ、すべてのスロット、またはメールスロットのカートリッジを移動させることができます。また、このオプションを使用して、カートリッジをスロットからドライブに移動させたり、ドライブからスロットにも出したりすることができます。

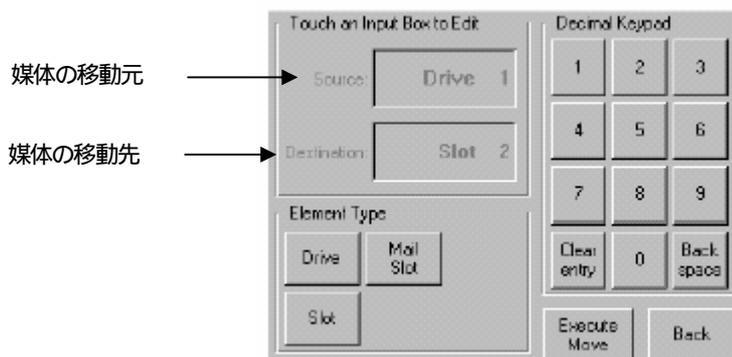


図 3-10 メディア移動画面

2.1.4 タッチスクリーンコントラストコントロール

このオプションを選択して、タッチスクリーンのコントラストを調節します。ライブラリステータス画面のタッチスクリーンコントラストコントロールを使用すると、必要に応じてコントラストを0~31の範囲で設定できます。これらの設定は、再起動するか電源をいったん切って再度投入するとデフォルト設定に戻ります。

2.1.5 Power オプション

このオプションを選択すると、ライブラリの電源オフ動作が開始します。電源オフ動作が完了すると、確認メッセージが表示されます。

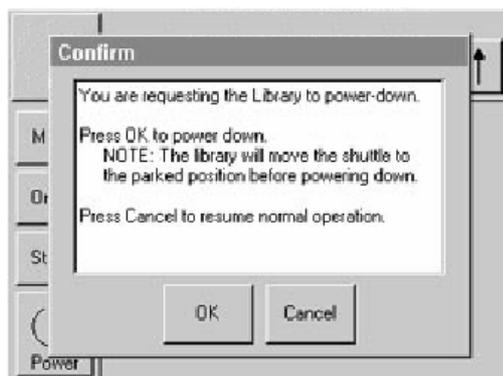


図 3-11 電源 OFF 確認画面

 ヒント	* 電源 OFF 動作は、本装置の電源を OFF するまえに、ロボット部を待機位置まで移動させるものです。
--	---

2.1.6 Status オプション

このオプションを選択して、情報のステータス画面を表示します。この画面から、マガジンのアイコンに触れマガジン内のカートリッジの詳細情報を表示します。ドライブのアイコンに触れると、ドライブの ID 情報、クリーニングステータス、カートリッジ情報、およびドライブステータスを表示します。

2.1.7 Online オプション

このオプションを選択すると、本装置のオンラインとオフラインを切り替えることができます。オフラインに設定するとフロントパネルのLED が常に点滅し、サーバからの一部の操作が不能となります。

 重要	* システムが起動中の時は、本オプションに触れないでください。エラーの原因となる場合があります。
---	--

 チェック	* ライブラリは、電源投入時の初期化後に自動的にオンラインになります。このオプションを使用して、ライブラリをオフラインに切り替えることができます。
---	---

2.1.8 Menu オプション

このオプションを選択すると、ライブラリを表示、設定、および操作することができます。メニュー画面は次の3つに分かれています。

- View System Data (システムデータの表示)
- Utilities (ユーティリティ)
- Edit Options (編集オプション)

これらのエリアについては詳しくは、次項の「メニューの選択」を参照してください。

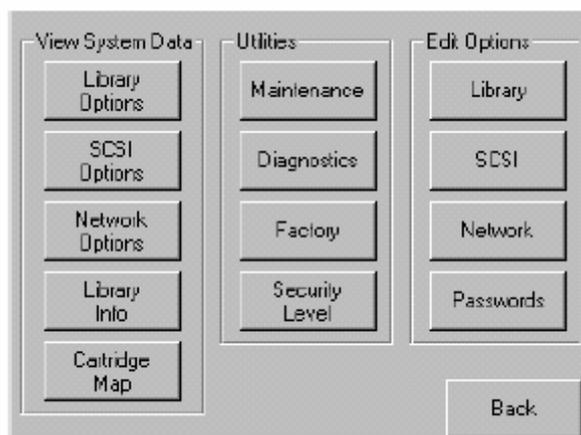


図3-12 メニュー画面

2.2 メニューの選択

この項では、次の3つのメニューエリアについて説明します。

- View System Data (システムデータの表示)
- Utilities (ユーティリティ)
- Edit Options (編集オプション)

2.2.1 View System Data エリア

View System エリアでは、以下の画面を選択することができます。

- Library Options (ライブラリオプション)
- SCSI Options (SCSI オプション)
- Network Options (ネットワークオプション)
- Library Info (ライブラリ情報)
- Cartridge Map (カートリッジマップ)

1. [Library Options]

このオプションを選択すると、Edit Options エリアの Library オプションで定義されている設定を確認することができます。

 ヒント	* を選択することにより、次の Library Options 画面を表示させることができます。前の Library Options 画面に戻るには、 ボタンを選択します。Back ボタンを選択するとメニュー画面に戻ります。
--	--

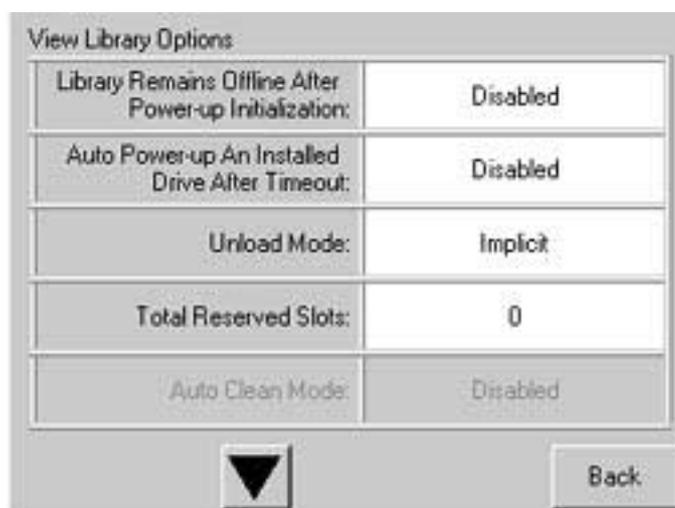


図 3-13 View Library Options 画面

表 1-2 に Library オプションのリストと説明を示します。

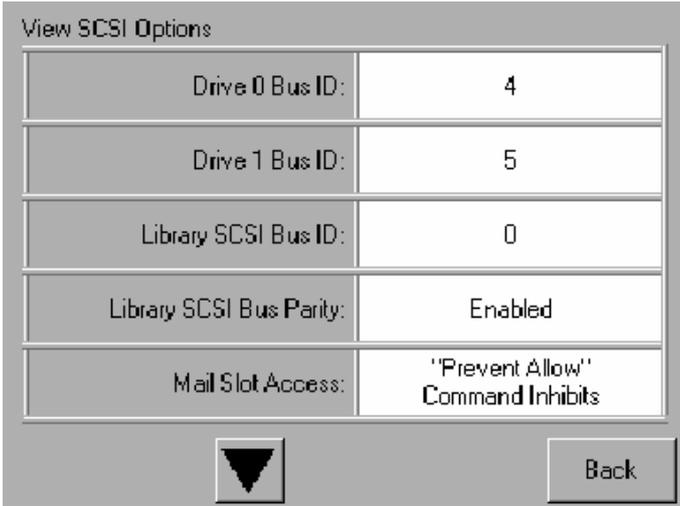
表 1-2 View Library Options

オプション	説明
Library Remains Offline After Power-up Initialization	電源投入時の初期化でライブラリがオンラインになりません。タッチスクリーンのメニュー画面から Online オプションを選択する必要があります。デフォルトは Disabled です。
Auto Power-up an Installed Drive After Timeout	テープドライブ交換後にタッチスクリーンからテープドライブの電源を投入しなかった場合に、自動的にテープドライブの電源が入るようにできます。デフォルトは Enabled です。
Unload Mode	SCSI MOVE MEDIUM コマンドを暗示的 (Implicit) に解釈するか明示的 (Explicit) に解釈するかを選択することができます。Implicit の場合、ライブラリはテープドライブからカートリッジの移動を試みる前に、そのテープドライブをアンロードします。Explicit の場合、テープドライブからカートリッジを排出するための MOVE MEDIUM コマンドの前に、ホストコンピュータは SCSI UNLOAD コマンドをそのテープドライブに送る必要があります。デフォルトは Implicit です。
Total Reserved Slots	マガジン後部において指定した数のスロットを使用しないように設定することができます。ホストコンピュータのソフトウェアの中には、ライセンス上の理由からライブラリのマガジンに対してサイズの制限を設け、ライセンスで認められたサイズを超えるライブラリでは動作しないものがあります。デフォルトは 0 です。
Auto Clean Mode	自動クリーニングサイクルを有効にすることができます。この機能を利用するには、Total Reserved Slots オプションを使ってクリーニングカートリッジ用のスロットを確保しておく必要があります。デフォルトは Disabled です。
Drive and Slot Numbering	ライブラリの SCSI エLEMENT の表示に 0 または 1 のどちらを付けるか指定することができます。この設定はタッチスクリーン上での表示だけに関係するもので、実際の SCSI エLEMENT のアドレスには影響しません。デフォルトは 0 です。
Library Mode	自動搬送機構の動作モードを Random_Sequential_Drv0_Sequential_Drv1 または Sequential Split に設定することができます。デフォルトは Random です。
Sequential Modes	ライブラリ自動搬送機構がソフトウェアの介入なしで満杯のテープカートリッジを (またはデータの最後で) アンロードし、適切なマガジンから次のテープカートリッジを選択・ロードし、自動的に読み書き動作を継続することができます。
LCD Contrast Adjust	タッチスクリーンコントラストコントロールでタッチスクリーンのコントラストを増減することができます。増減ステップは Library オプションから LCD Contrast Adjust オプションで設定します。増減ステップは 0 ~ 31 の範囲で設定することができます。
Mail Slot Mode	ライブラリ内のメールスロットを有効にすることができます。デフォルトは Enabled です。
Barcode Label Size	バーコードラベルの長さの上限を設定することができます。設定範囲は 1 ~ 8 です。デフォルトは 8 です。
Barcode Label Alignment	バーコードラベルの位置合わせを設定することができます。Left (左寄せ) または Right (右寄せ) を選択することができます。この機能とラベルサイズオプションを組み合わせることにより、不要な後続文字 (左寄せの場合) または先行文字 (右寄せの場合) を取り除くことができます。デフォルトは Left Align です。
Barcode Label Check Digit	バーコードラベルの検査数字キャラクタの確認の有効 / 無効を指定することができます。デフォルトは Enable Check, Don't Send です。
Barcode Reader	バーコードリーダー再試行オプションの有効と無効を切り替えます。デフォルトは Retries Enabled です。
Module Configuration	ライブラリをスタンドアロン、マスタ、スレーブ動作に構成します。デフォルトは Standalone です。

2. [SCSI Options]

このオプションを選択すると、Edit Options エリアの SCSI オプションで定義されている設定を確認することができます。

 ヒント	* を選択することにより、次の SCSI Options 画面を表示させることができます。前の SCSI Options 画面に戻るには、 ボタンを選択します。Back ボタンを選択するとメニュー画面に戻ります。
--	--



The image shows a dialog box titled "View SCSI Options". It contains a table with the following data:

Label	Value
Drive 0 Bus ID:	4
Drive 1 Bus ID:	5
Library SCSI Bus ID:	0
Library SCSI Bus Parity:	Enabled
Mail Slot Access:	'Prevent Allow' Command Inhibits

At the bottom of the dialog, there is a downward-pointing triangle button on the left and a "Back" button on the right.

図 3-14 View SCSI Options 画面

表 1-2 に SCSI オプションのリストと説明を示します。

表 1-2 View SCSI Options

オプション	説明
Drive 1 Bus ID	ドライブのSCSIアドレスを設定することができます。Drive 1 (外側のテープドライブ)からDrive nまでの指示子は、ライブラリシステムの一番上のユニットから開始し、右から左の方向に数えて、最初のドライブからn番目のドライブを指します。
Drive 2 Bus ID*	ドライブのSCSIアドレスを設定することができます。Drive 2 (内側のテープドライブ)からDrive nまでの指示子は、ライブラリシステムの一番上のユニットから開始し、左から右の方向に数えて、最初のドライブからn番目のドライブを指します。
Library SCSI Bus ID	ライブラリ自動搬送機構のSCSIアドレスを設定することができます。デフォルトは0です。
Library SCSI Bus Parity	ライブラリ自動搬送機構のSCSIバスのパリティチェックを有効または無効にすることができます。デフォルトはSCSI Bus Parity Enabled (有効)です。
Mail Slot Access	["Prevent Allow" Command Inhibits]または["Prevent Allow" Command Ignored] (一部のバックアップアプリケーションで使用)です。デフォルトは、["Prevent Allow" Command Inhibits]です。
SCSI Mode	ローダをSCSI-2またはSCSI-3に指定します。デフォルトはSCSI-3です。
Unit Attention Reporting	すべてのユニットアテンション条件をすべて通知するか、1つだけ通知するか選択することができます。Allに設定すると、本ユニットはすべてのユニットアテンション条件を順に通知します。Oneに設定すると、本ユニットは最優先条件のみを通知します。デフォルトはReport All (すべて通知)です。
Init Element Status	SCSI INITIALIZE ELEMENT STATUSコマンドに対する本ユニットの応答を指定することができます。No Inventory ,Force InventoryまたはForce Label Scanのいずれかに設定することができます。デフォルトはNo Inventoryです。
Test Unit Ready Reporting	ライブラリがSequentialモードの場合、TEST UNIT READYコマンドに対する応答を指定することができます。Check Condition-Not ReadyまたはGood Statusのいずれかに設定することができます。デフォルトはGood Statusです。
Device Capability Page Length	モード検出 / デバイス能力選択ページ (SCSIの1Fhページ)でのSCSIデバイスの記述形式の違いに対応するために、このページの長さとして、2つの長さのいずれかを選択することができます。これらの長さは、Short (14バイト)とLong (18バイト)です。デフォルトはShort (14バイト)です。
Transport Element Base Address	自動搬送機構のベースアドレスを設定することができます。デフォルトは0x0です。
Storage Element Base Address	マガジンスロットのベースアドレスを設定することができます。デフォルトは0x20です。
Transfer Element Base Address	テープドライブのベースアドレスを設定することができます。デフォルトは0x1e0です。
Import/Export Element Base Address	メールスロットのベースアドレスを設定することができます。デフォルトは0x1c0です。
Product Identification	SCSI INQUIRYコマンドに対する本ユニットのライブラリ自動搬送機構の応答を指定することができます。デフォルトは「NEO Series」です。
Vendor Identification	SCSI INQUIRYコマンドに対する本ユニットのライブラリ自動搬送機構の応答を指定することができます。デフォルトは「Overland」です。
Post Recovered Errors	デフォルトはDisabledです。
Tape Alert Mode	Tape Alert (テープ警告)データのログ保存およびレポート生成の条件を指定します。デフォルトはLogging Disabledです。
Abort Move Status	SCSIコマンドの中止時のSCSI応答を指定することができます。BusyまたはNot Readyのいずれかに設定することができます。デフォルトはNot Readyです。
Door Open Response	ライブラリドアが開いているときのSCSI応答を指定することができます。ReadyまたはNot Readyのいずれかに設定することができます。デフォルトはNot Readyです。
Initiate Wide Data Transfer Negotiation	ライブラリがSCSI同期およびワイドデータ転送のネゴシエーションをホストコンピュータと開始できるようにすることが可能です。Do Not InitiateとInitiateのいずれかに設定することができます。デフォルトはDo Not Initiateです。
Data Transfer Speed	SCSIのデータ転送速度をSynchronous ,10MB/sec ,5MB/secまたはAsynchronousに設定することができます。デフォルトはSynchronous ,10MB/secです。

* Drive Bus ID*はドライブを増設した場合のみ表示します。

3. [Network Options]

このオプションを選択すると、Edit Options エリアの Network オプションで定義されている設定を確認することができます。これらのオプションの説明を表 1-6 に示します。

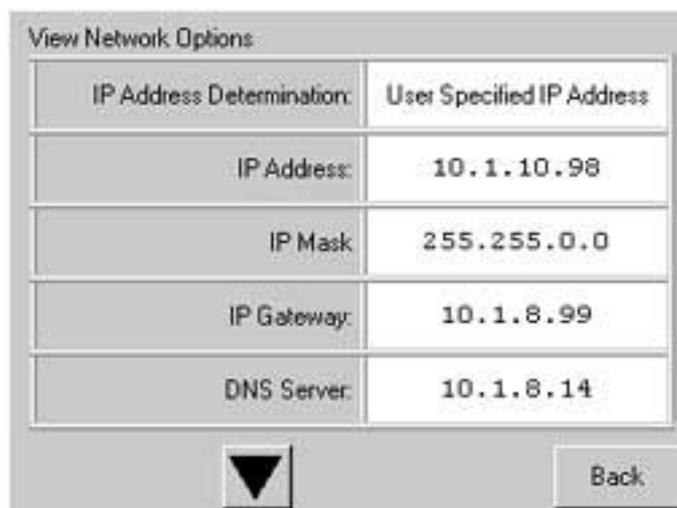


図 3-15 View Network Options 画面

表 1-3 に Network オプションリストと説明を示します。

表 1-3 View Network Options

オプション	説明
IP Address Determination	IPアドレスの決定方法を設定することができます。Obtain An IP Address From a DHCP Server または User Specified IP Address のいずれかを選択することができます。デフォルトは Obtain An IP Address From a DHCP Server です。
IP Address	テンキーを使って有効な IP アドレスを入力します。デフォルトは 0.0.0.0 です。
IP Mask	テンキーを使って有効な IP アドレスを入力します。デフォルトは 255.255.255.0 です。
IP Gateway	テンキーを使って有効な IP アドレスを入力します。デフォルトは 255.255.255.0 です。
DNS Server	SCSI のデータ転送速度を Synchronous , 10MB/sec , 5MB/sec または Asynchronous に設定することができます。デフォルトは Synchronous , 10MB/sec です。

4. [Library Info]

このオプションを選択すると、Miscellaneous Library Info 画面が表示されます。この画面はライブラリのファームウェアバージョンおよび現在使用中の IP アドレスを表示します。

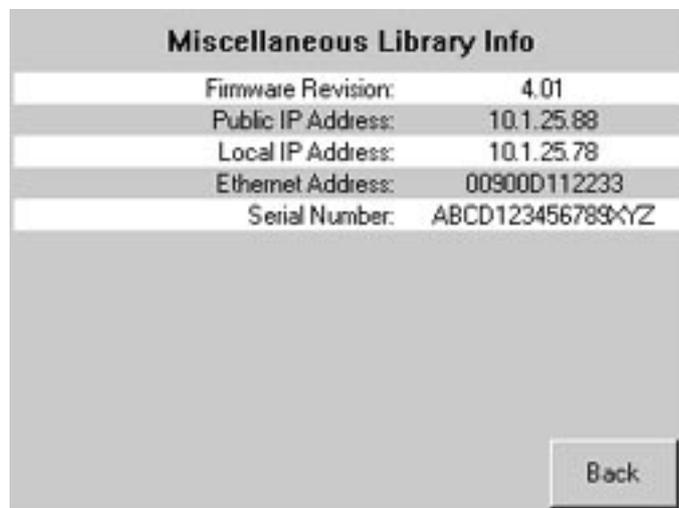


図 3-16 View Miscellaneous Library Info 画面

5. [Cartridge Map]

このオプションを選択すると、ライブラリが現在使用しているスロットおよびカートリッジのレイアウトが表示されます。

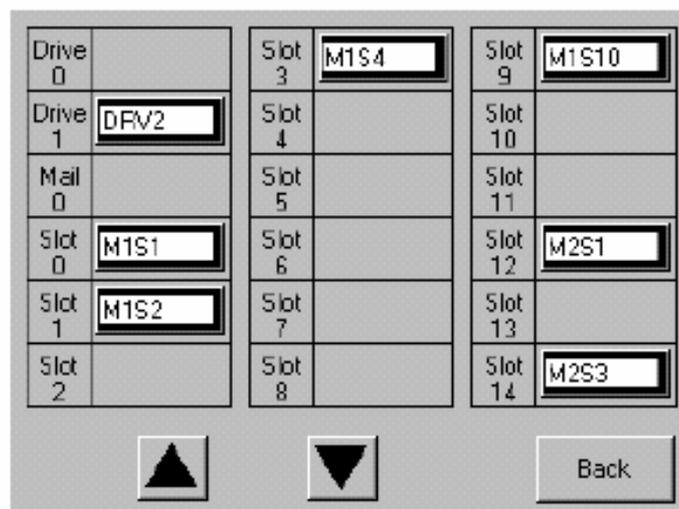


図 3-17 Cartridge Map 画面

2.2.2 Utilities エリア

Utilities エリアでは、以下の画面を選択することができます。

- Maintenance
- Diagnostics
- Factory
- Security Level

1. [Maintenance]

このオプションを選択すると、以下の項目に対してシステムメンテナンスまたは交換を行うことができます。

- Clean Drive (ドライブのクリーニング)
- Replace Drive (ドライブの交換)
- Set User Defaults (ユーザ デフォルトの設定)
- Reboot Library (ライブラリの再起動)
- Flash Drive From SCSI (SCSI からのドライブのフラッシュ)
- Flash Drive From Tape (テープからのドライブのフラッシュ)
- Drive Format (ドライブのフォーマット)
- Force Reconfiguration (強制的再設定)

Maintenance メニューのオプションは保守作業向けです。通常動作時には使用しません。

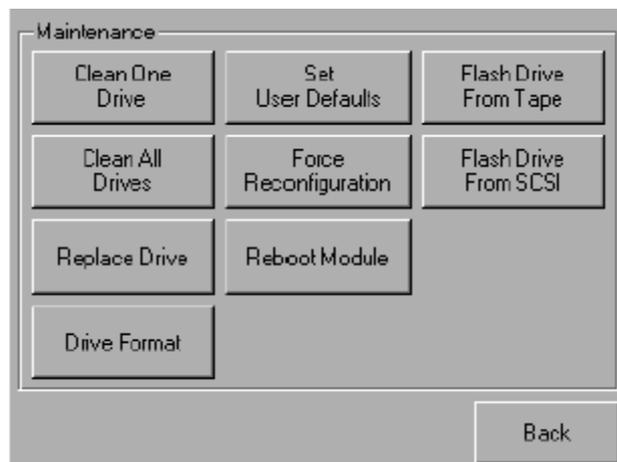


図 3-18 Maintenance メニュー画面

2. [Diagnostics]

このオプションを選択すると、以下の項目に対してシステム診断または校正を行うことができます。

- Cartridge Cycle
- Inventory
- Touch Screen Calibrate
- Drive Cycle
- Barcode Cycle
- Sensor Test
- View Error Log
- Tachometer Diagnostic
- Friction Diagnostic

Diagnostics メニューのオプションは保守作業向けです。通常作業時には使用しません。

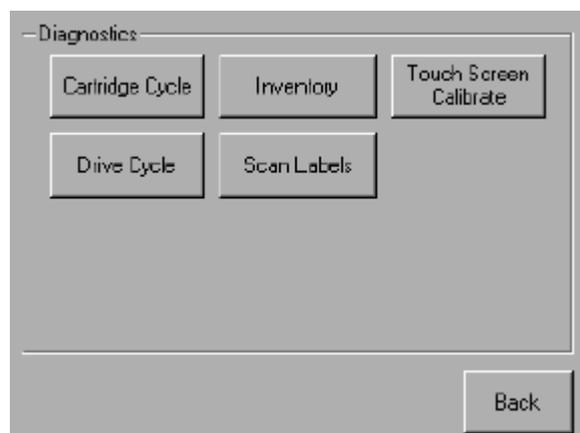


図3-19 Diagnostics メニュー画面

3. [Factory]

このオプションは工場内作業向けとなっており、使用できないようロックが掛かっています。本オプションには触れないでください。

4. [Security Level]

このオプションを選択すると、セキュリティレベルのパスワードを選択できます。本オプションは通常動作時には使用しません。

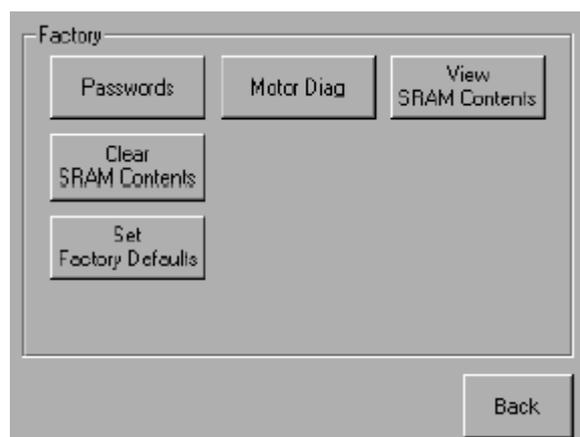


図 3-20 Security Level メニュー画面

2.2.3 Edit Options エリア

Edit Option エリアでは、以下の画面を選択することができます。

- Library
- SCSI
- Network
- Passwords

1. [Library]

このオプションを選択すると、LTO ライブラリを構成するための Library オプションを定義することができます。定義されたオプションは、View System Data エリアで表示することができます。

 ヒント	* を選択することにより、次の Library 画面を表示させることができます。前の Library 画面に戻るには、ボタンを選択します。Back ボタンを選択するとメニュー画面に戻ります。
--	---

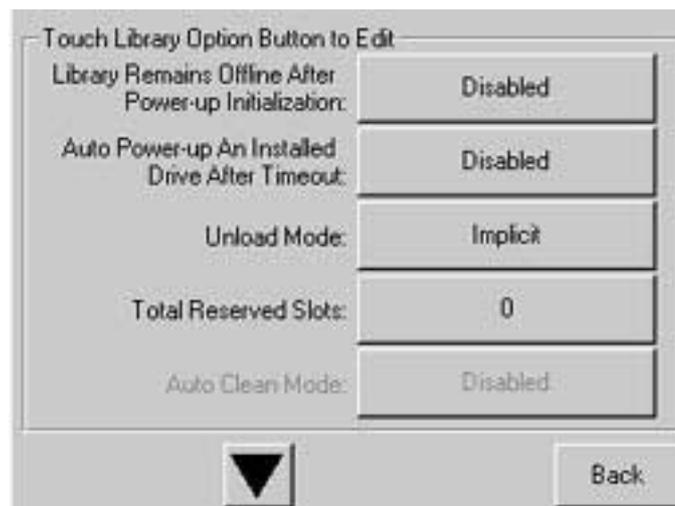
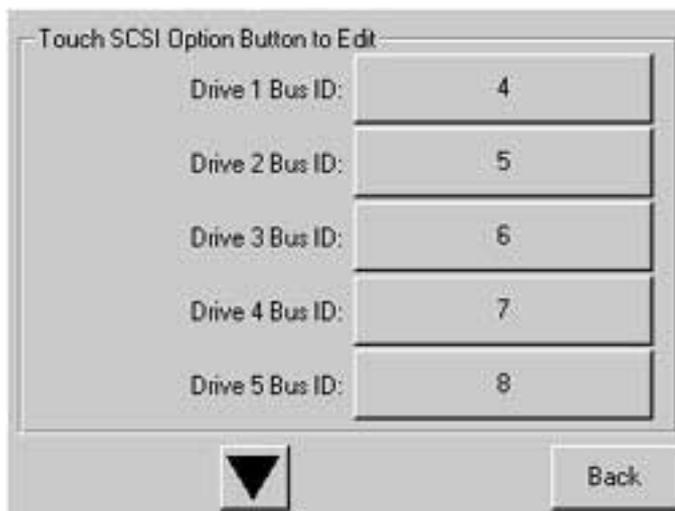


図 3-21 Edit Library Options 画面

2. [SCSI]

このオプションを選択すると、LTO ライブラリを構成するための SCSI オプションを定義することができます。

 ヒント	* を選択することにより、次の SCSI 画面を表示させることができます。前の SCSI 画面に戻るには、 ボタンを選択します。Back ボタンを選択するとメニュー画面に戻ります。
--	--

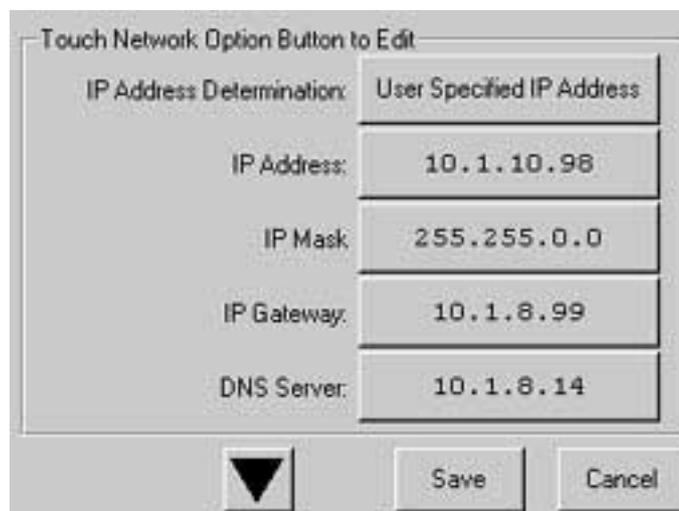


Touch SCSI Option Button to Edit	
Drive 1 Bus ID:	4
Drive 2 Bus ID:	5
Drive 3 Bus ID:	6
Drive 4 Bus ID:	7
Drive 5 Bus ID:	8
▼	
Back	

図 3-22 Edit SCSI Options 画面

3. [Network]

このオプションを選択すると、LTO ライブラリを構成するための Network オプションを定義することができます。



Touch Network: Option Button to Edit	
IP Address Determination:	User Specified IP Address
IP Address:	10.1.10.98
IP Mask:	255.255.0.0
IP Gateway:	10.1.8.99
DNS Server:	10.1.8.14
▼	
Save Cancel	

図 3-23 Edit Network Options 画面

4. [Passwords]

このオプションを選択すると、LTO ライブラリを構成するための Passwords オプションを定義することができます。

Touch an Input Box to Edit		Decimal Keypad		
New User Level 1 Password:	<input type="text"/>	1	2	3
Reenter New User Level 1 Password:	<input type="text"/>	4	5	6
Security Level		7	8	9
User Level 1 (Disabled)	User Level 2 (Disabled)	Clear Entry	0	Back space
Service (Disabled)		Save	Back	

図 3-24 Edit Passwords Options 画面

3 クリーニング

3.1 クリーニング

クリーニングは、テープ走行によって生じるゴミや使用環境のほこりによる磁気ヘッド部分への汚れを取り除く大切なものです。磁気ヘッド部分が汚れたまま書き込み / 読み取りなどを行うと正常に書き込み / 読み取りができなくなる、データカートリッジの寿命が短くなる、テープ表面に傷が付き、使用できなくなるなどの障害が発生します。

	<ul style="list-style-type: none">* クリーニングはタッチスクリーンに"Use Cleaner"というメッセージが表示された時に行ってください。* 本装置のドライブヘッドをクリーニングするときは、クリーニングカートリッジ(EF-3237Q)を使用してください。ドライブヘッドを破損するおそれがありますので、他のクリーニングカートリッジを使用しないでください。
---	---

EF-3237Q は、50 回使用できます。

3.1.1 手動クリーニング方法

メイン画面の[Menu]ボタンを押す。Utility領域の[Maintenance]ボタンを押す。

[Clean Drive]オプションを指定する。

[Source]を選択し、[Element Type]ボックスでクリーニングカートリッジが入っているスロット番号を選択してください。

[Cleaning]を選択します。クリーニングしたいテープドライブがデフォルトで表示されない場合は、希望するテープドライブが表示されるまで[Destination Element Type]ボックスで[Drive]を押します。または、[Decimal Keypad]の[Backspace]キーと数値キーを使用してテープドライブの番号を直接入力します。

クリーニングカートリッジがあるスロットとクリーニングを実行するドライブが正しく設定できたら、[Execute Clean]を選択します。

クリーニングサイクルが完了すると、クリーニングカートリッジがスロットに戻されます。

4 Web TLC の操作

4.1 概要

「Web TLC」は本装置、ライブラリコントローラに組み込まれているリモートインタフェースデバイスで、LAN 接続した端末から各種情報の確認や設定をすることができます。

「Web TLC」は、ブラウザを使って、システムやネットワーク、SCSI の設定、動作状況の確認、ライブラリやドライブの情報を閲覧することができます。

「Web TLC」を使用するには Ethernet ポートを有し、Web ブラウザが動作可能な PC（以下 PC と呼びます）が必要です。

Internet Explorer 3.0 以降

Netscape 3.0 以降

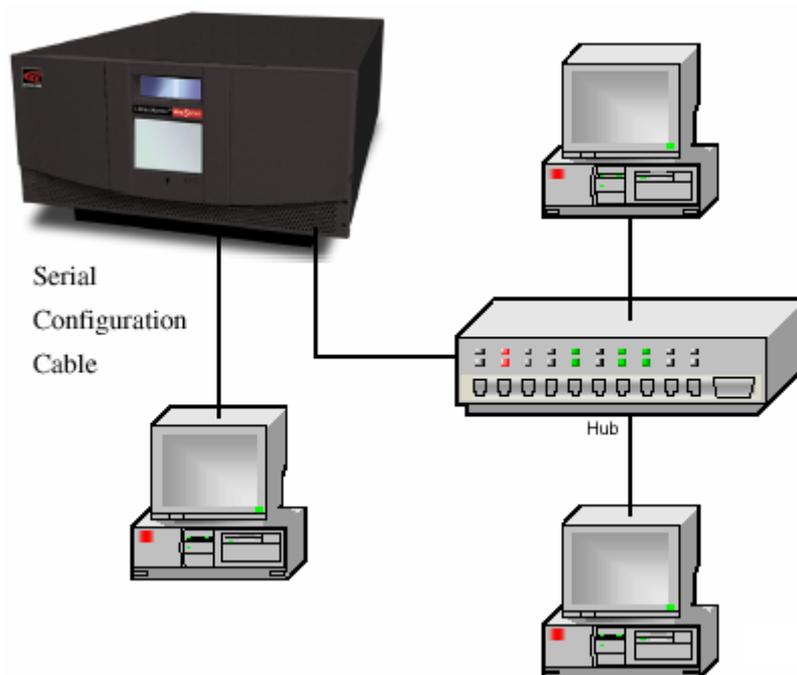


図3-28 LAN 接続

4.2 Web TLC でできること

「Web TLC」でできること、操作方法について説明します。ブラウザを使って「Web TLC」にアクセスすると、以下のことができます。

- ・システムの設定
- ・ネットワークの設定
- ・SCSI の設定
- ・パスワードの設定 / 変更
- ・ファームウェアのアップデート
- ・動作状況の確認
- ・ライブラリ、ドライブの情報閲覧
- ・ログの閲覧 / 出力

4.3 Web TLC を操作する

ブラウザを使って「Web TLC」を操作します。

1.本装置と「Web TLC」を動作させる PC の IP アドレスを設定します。

 ヒント	* 本装置と PC の IP アドレスは同じサブネットに属している必要があります。 例 本装置 IP アドレス : 10.1.10.74 / サブネットマスク : 255.255.255.0 PC IP アドレス : 10.1.10.75 / サブネットマスク : 255.255.255.0
--	--

2.本装置と PC を LAN ケーブルで接続します。本装置と PC を直接接続する場合クロスケーブル、Hub 経由での接続の場合ストレートケーブルおよび Ethernet Hub を使用します。2 段構成でお使いのお客様は Router の WAN ポートと PC を接続してください。

3.PC のブラウザを起動します。

4.アドレスバーに本装置で設定した IP アドレスを入力します。(例 : <http://10.1.10.74/>)

 チェック	* 作業ブラウザの「戻る」ボタンを使用して表示される画面は、ブラウザのキャッシュに保存されているデータのため、最新情報でないことがあります。
---	--

4.3.1 ログイン

ブラウザのアドレスバーに、本装置に設定した IP アドレスを打ち込むと、以下の画面が表示されます。

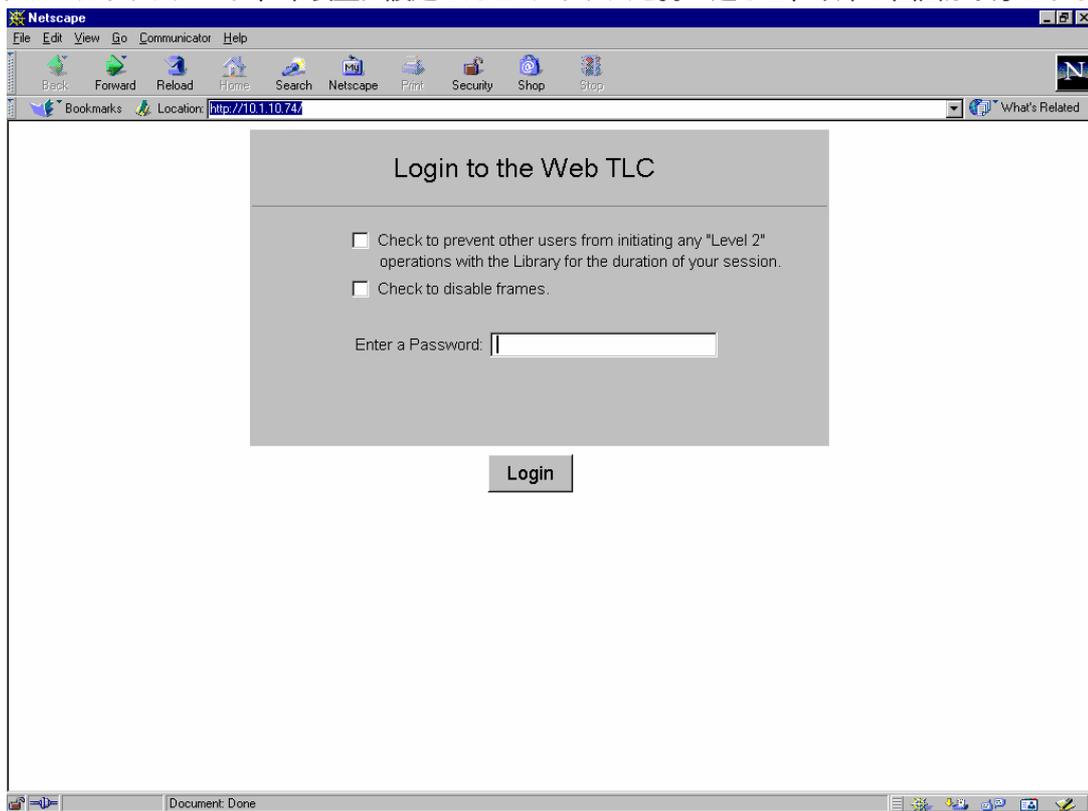


図 3-29 Web TLC ログイン画面

 チェック	* ブラウザから「Web TLC」へアクセスできない場合、本装置がフロントパネルから操作されていないか確認してください。
---	--

Login to the Web TLC

Check to prevent other users from initiating any "Level 2" operations with the Library for the duration of your session.

Check to disable frames.

Enter a Password:

Login

図3-30 Web TLC ログインプロンプト

 重要	<p>* 「Web TLC」のパスワードは以下のように設定されています。</p> <p>Default Passwords</p> <p>Web Level 1 and FTP = 1</p> <p>Web Level 2 = 2</p>
---	---

4.3.2 メイン画面

「Web TLC」には以下のメニューがあります。図 3-5 のコントロールパネルから操作したいメニューをクリックすることで選択したページが表示されます。

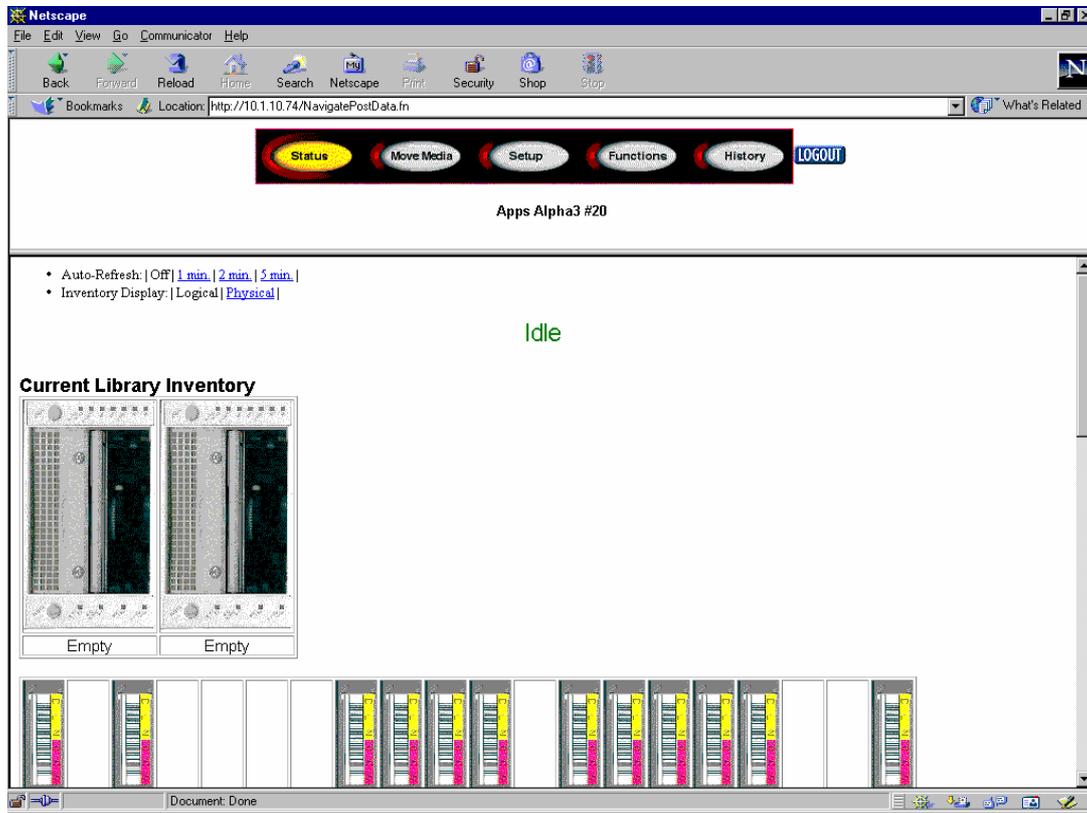


図 3-31 Web TLC トップ画面



図 3-32 Web TLC コントロールパネル

4.3.3 [Status]

[Status]ボタンをクリックすると、本装置の状況、カートリッジの所在、ライブラリ部、ドライブ部のステータスを確認することができます。

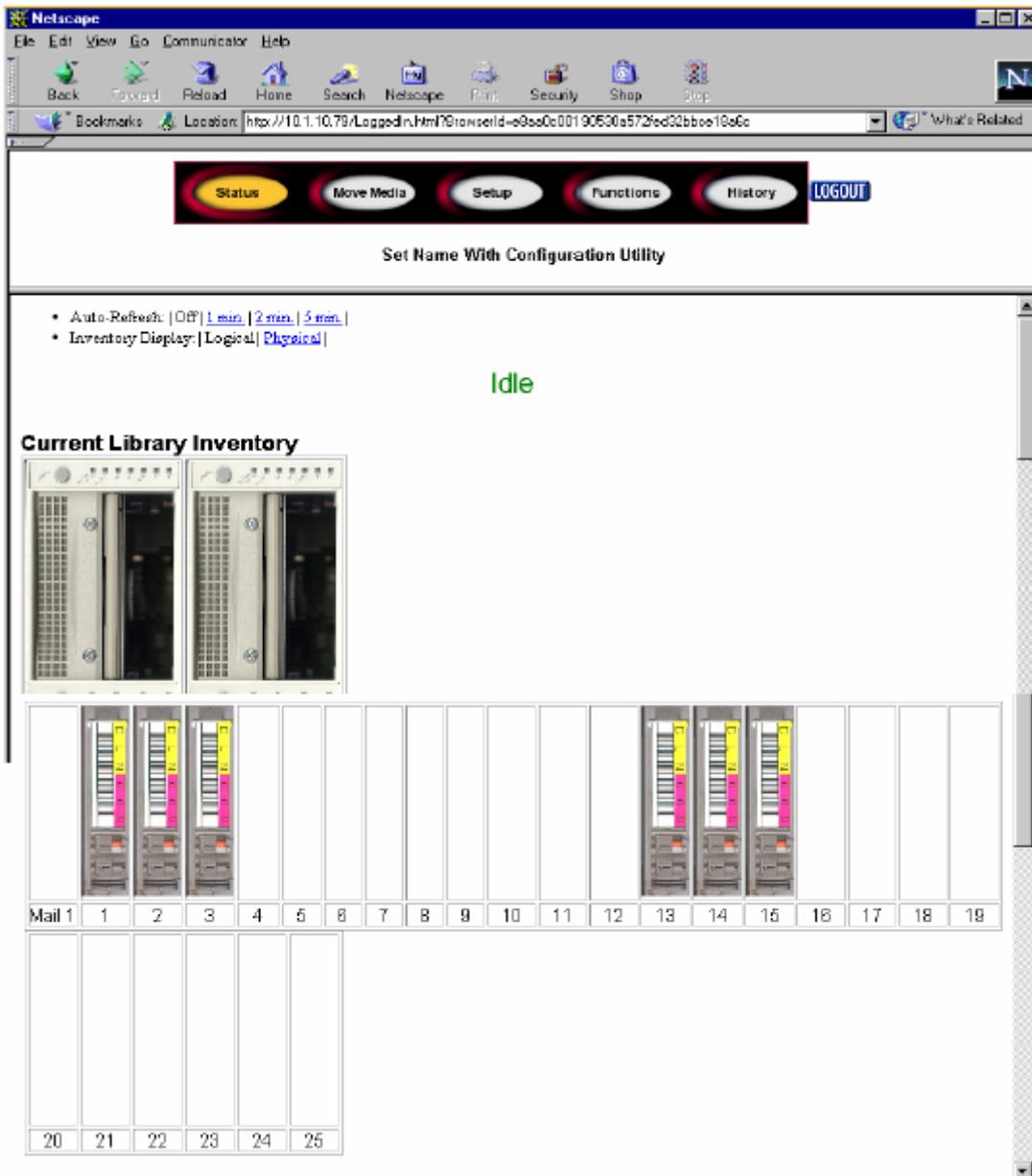


図 3-33 Web TLC の[Status]オプション

 ヒント	<p>* Auto Refresh/Inventory Display を設定することで、表示方法を変更することができます。</p> <p>Auto-Refresh: Off 1min 2min 5min 「Web TLC」のブラウザ画面リフレッシュ間隔を設定します。</p> <p>Inventory Display: Logical Physical 「Web TLC」の論理的に表示するか、物理的に表示するかを設定します。 論理表示：ドライブおよびスロットは別々にグループ化される 物理表示：ドライブおよびスロットはライブラリモジュール別にグループ化される</p>
--	---

4.3.4 [Move Media]

[Move Media]ボタンをクリックすると、図 3-7 に示す画面から選択したカートリッジをドライブまたはカートリッジスロットに移動することができます。

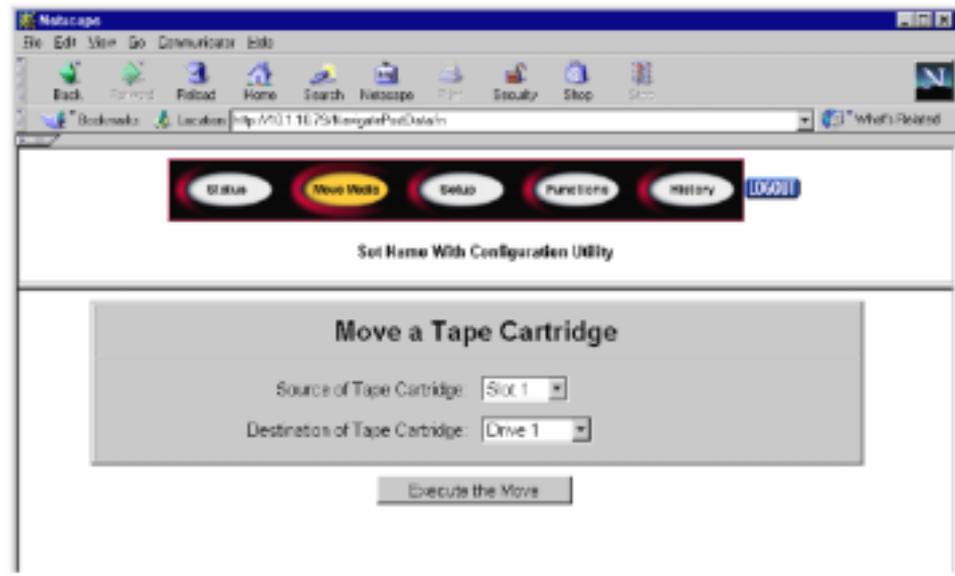


図 3-34 Web TLC の[Move Media]オプション

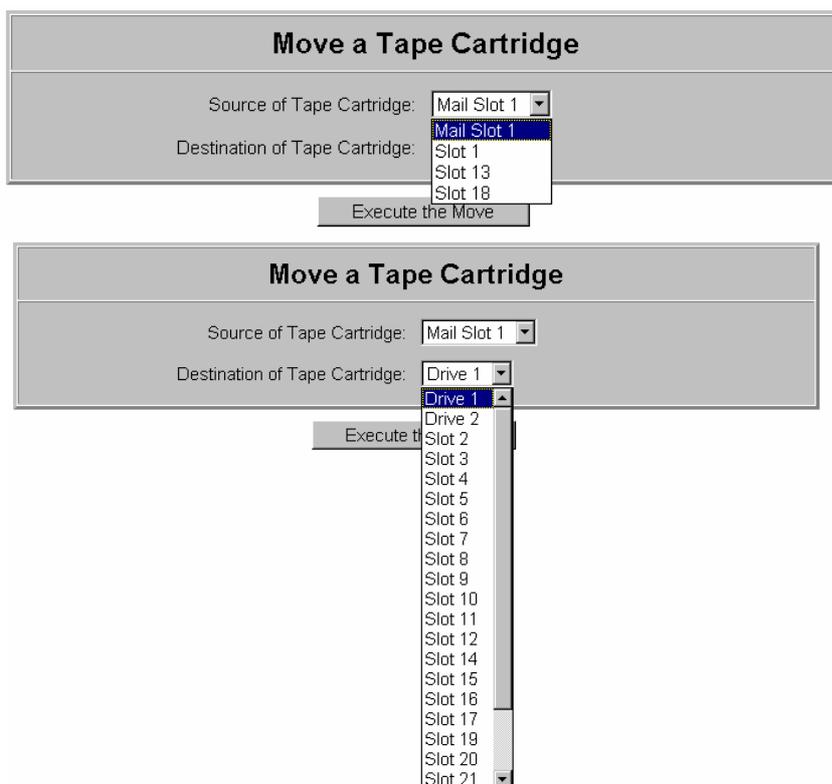


図 3-35 Web TLC の[Move Media]選択

1. ソーススロット、デスティネーションスロットを指定します。
2. [Execute the move]ボタンをクリックするとカートリッジの移動を実行します。
4. カートリッジ移動操作中、図 3-8 のように、ライブラリがオフラインになることを通知する確認画面が表示されます。[Confirm]ボタンをクリックしてください。
5. カートリッジ移動完了後、完了を知らせるメッセージが表示されます。

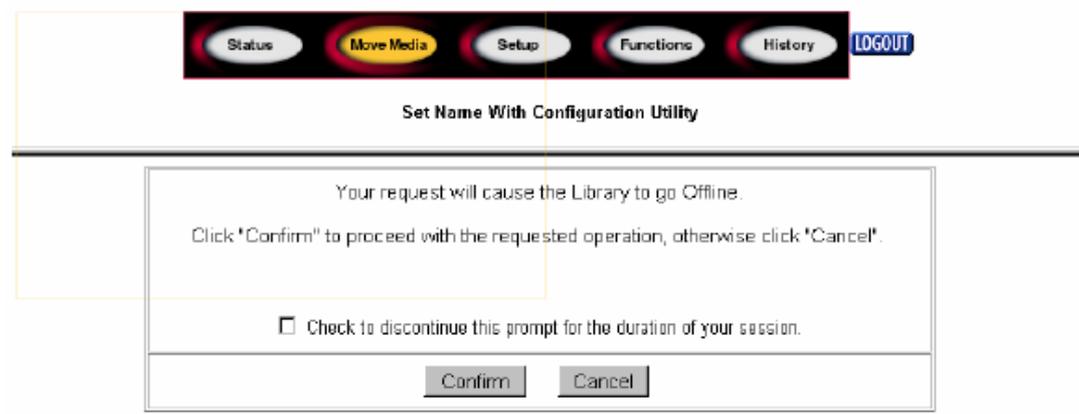


図 3-36 Web TLC の[Move Media]確認画面

	<p>* バックアップソフトウェア実行中は「Web TLC」の[Move Media]を使用してカートリッジを移動しないでください。バックアップソフトがエラーを引き起こす可能性があります。</p>
---	--

4.3.5 [Setup]

[Setup]ボタンをクリックすると、図 3-9 に示す画面から各種設定の表示および変更を行うことができます。

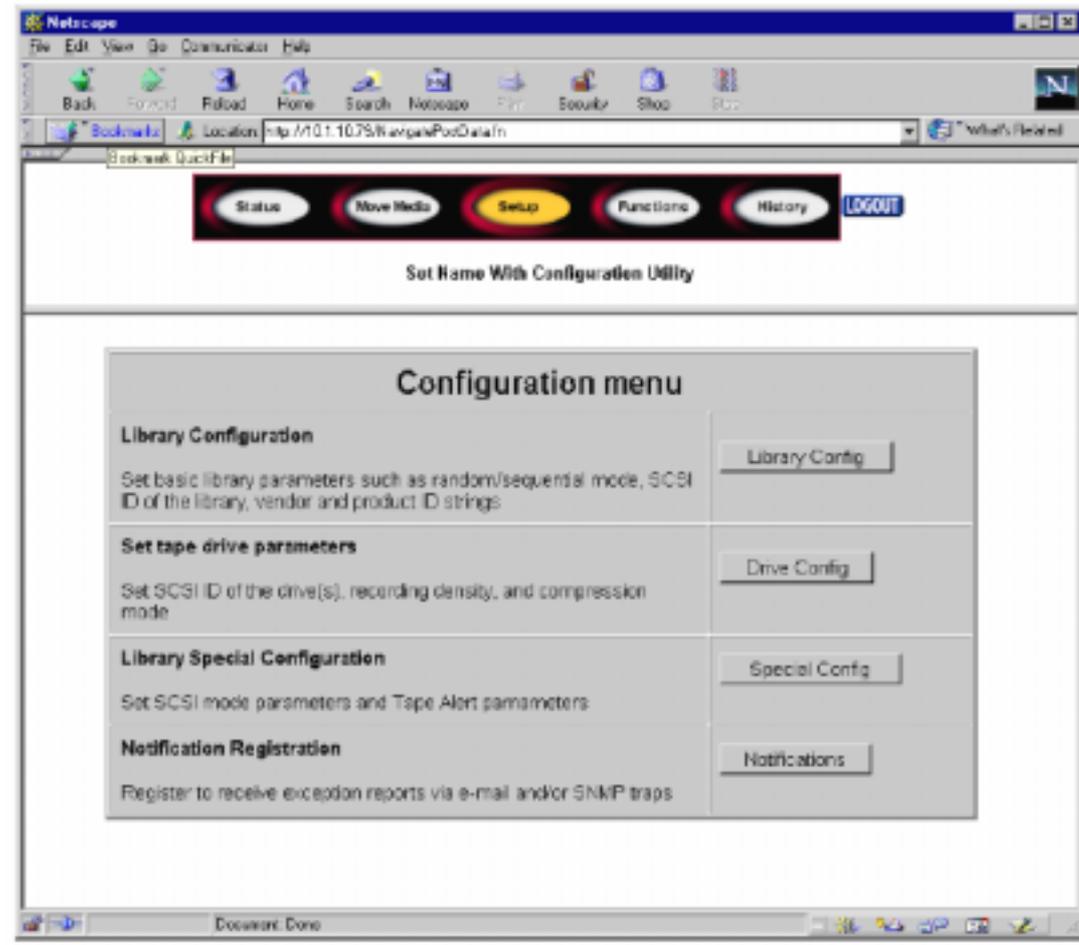


図 3-37 Web TLC の[Setup]オプション

これらの設定は本装置のタッチスクリーンの「Menu」と対応しております。

Library Configuration

Library Mode:

Auto-Clean Mode:

Received Slot:

Unload Mode:

SCSI Bus ID:

SCSI Bus Parity:

Initiate Wide Data Transfer Negotiation:

Data Transfer Speed:

SCSI Transport Element Base Address:

SCSI Storage Element Base Address:

SCSI Transfer Element Base Address:

SCSI Import/Export Element Base Address:

Vendor Identification:

Custom Vendor Identification:

Product Identification:

Custom Product Identification:

Serial Number:

Library Special Configuration

Device Capability Page Length:

Clean Warning Threshold:

Model Number:

Custom Model Number:

Test Unit Ready Reporting:

Unit Attention Reporting:

Init Element Status:

Element Base:

Label Size:

Label Alignment:

Label Check Digit:

Abort Move Status:

SCSI Mode:

SCSI Transport Element:

Post Recovered Errors:

TapeAlert Mode:

DLT Drive Configuration

	SCSI Bus ID	Recording Density	Data Compression
	<input type="checkbox"/> Check to Ignore ID Conflicts		
Drive 1:	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="Auto Selection"/>	<input type="text" value="Auto Selection"/>
Drive 2:	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="Auto Selection"/>	<input type="text" value="Auto Selection"/>

Email Registry

Enter the email server address as a name (xyz.com) or as an IP address (www.xxx.yyy.zzz)

Enter email addresses as ASCII strings
example: myname@mydomain.com

email server address:

email name 1:

email name 2:

email name 3:

email name 4:

図 3-38 Web TLC の[Setup]の構成

4.3.6 [Functions]

[Functions]ボタンをクリックすると、図 3-12 に示す画面からクリーニング、ライブラリ診断機能、ファームウェアアップデートを実施することができます。

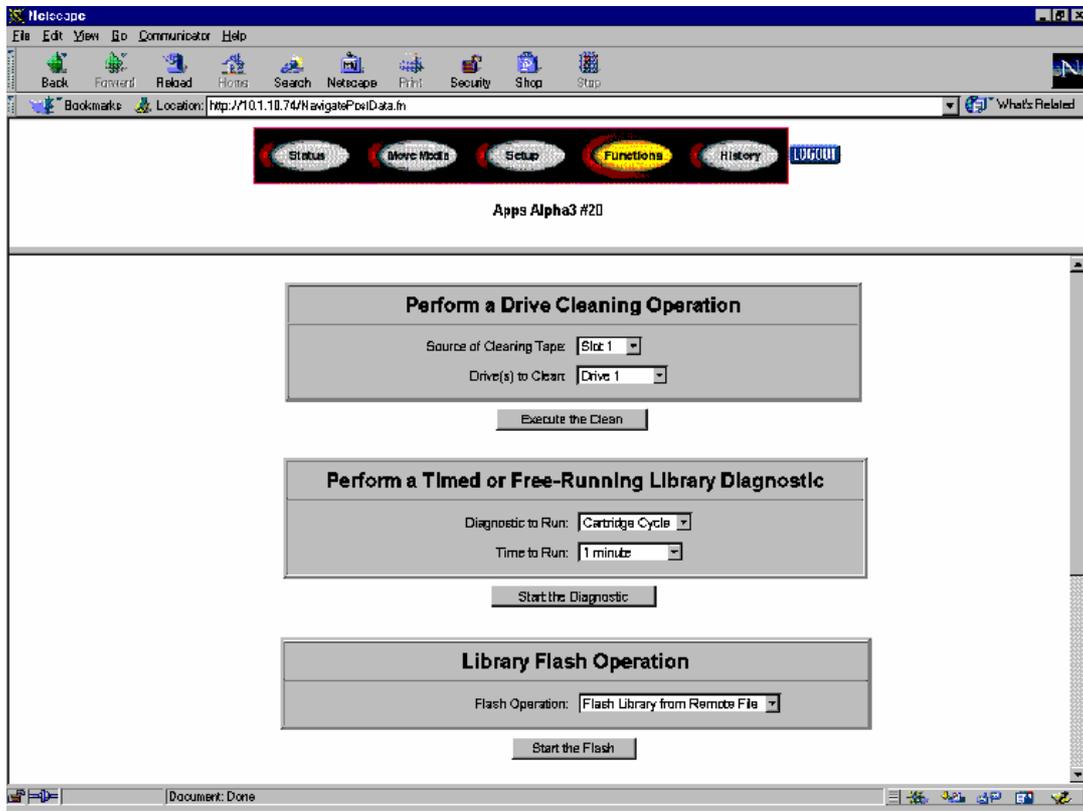


図 3-39 Web TLC の[Setup]の構成

4.3.7 [History]

[History]ボタンをクリックすると、図 3-13 に示す画面からトレースファイルの表示、保存を行うことができます。

[Display Trace]ボタンをクリックするとブラウザ上でトレースログを表示することができます。

下のファイルを選択すると[Save As]ウィンドが表示され、ダウンロード先を指定することによりトレースログを保存することができます。

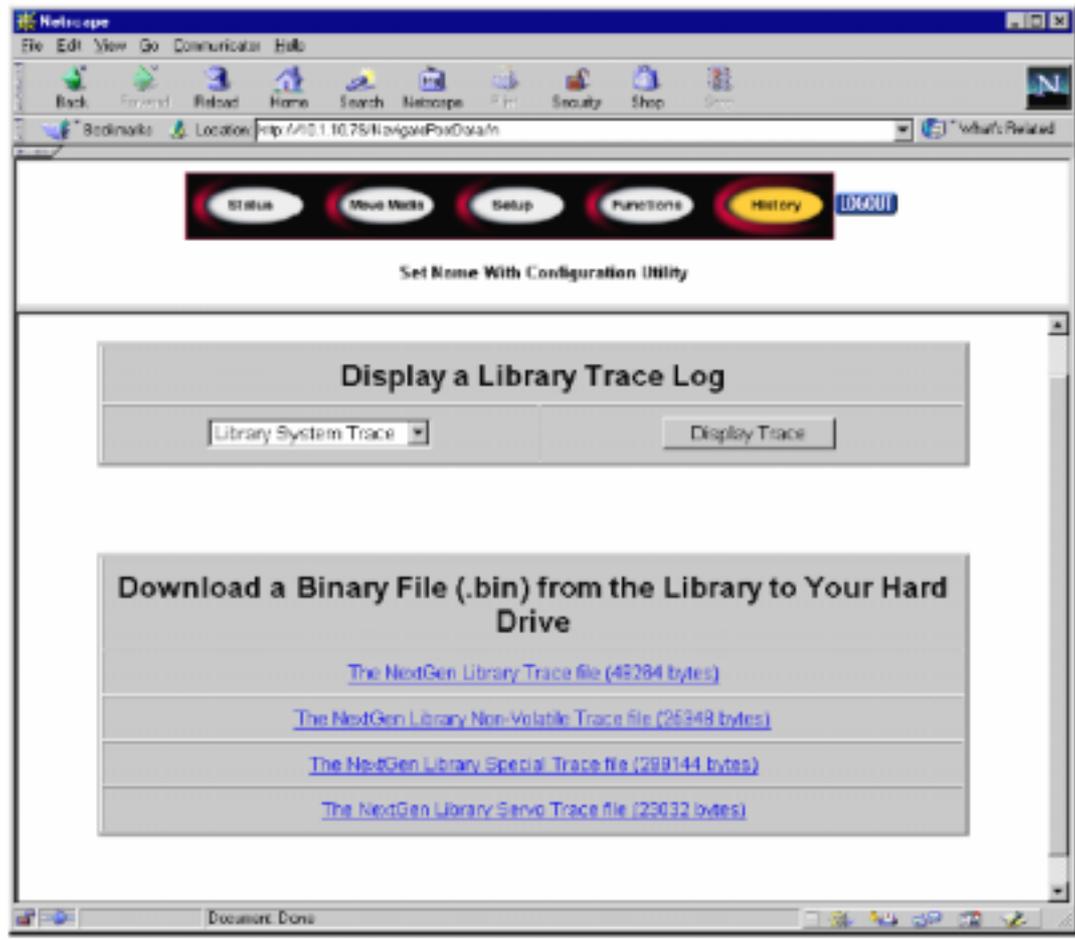


図 3-40 Web TLC の[History]の構成

A. 付録

1 トラブルシューティング

ここでは、問題が生じたときに表示されるエラーメッセージ、エラー復旧手順について解説します。

1.1 主な障害の原因

設置、取り付けや構成が正しくないと、問題が発生することがあります。ライブラリは正常に動作しているように見えますが、データのやりとりができていないことがあり、タッチスクリーンにエラーコードが表示される場合があります。もう一度、設置および構成をチェックしてください。ライブラリの正しい取り付けおよび構成の方法については第 1 章を参照してください。

ドライブ部のエラーは通常、ライブラリとドライブの間の通信エラーや、ライブラリ内部の故障により生じます。これらの問題は、エラーメッセージと FSC (障害診断コード) という形でタッチスクリーンに表示されます。この FSC を使用して回復手順を決定します。

1.2 エラー復旧手順 (ERP)

表 A-1 はライブラリのタッチスクリーンに報告されるエラーの ERP コード (障害復旧手順コード) の一覧です。

表 A-1 エラー復旧手順 コード表

ERP コード	手順説明
C	GUI タッチスクリーンの[Power]オプションを使用してライブラリの電源をオフオンします。30秒待ってから再度電源を投入します。
D	ライブラリの電源をオフにし、コネクタおよびケーブルを検査します。
F	無効な操作。パラメータを正しく選択して再度実行してください。
G	販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

1.3 障害診断コード (FSCs)

表 A-3 はタッチスクリーンに表示される FSC (障害診断コード) の一覧です。表中に障害を解消する説明メッセージおよび手順を示します。表 A-2 で該当する FSC を見つけて、エラー復旧手順を実行するか、または保守サービス会社に連絡してください。

表 A-2 エラー復旧手順 コード表

メッセージ	FSC	ERP	
Novram Update Error	0306	G	フラッシュメモリ内の不揮発性構成が更新できませんでした (プログラムエラー)。
Barcode Not Active Error	0501	D,G	LTO ライブラリがバーコードリーダーを検出できませんでした。
OS Catastrophic Error	0901	G	復旧不可能なオペレーティングシステムエラー - タスク生成エラー、予期しないエラー。
OS Task Exit Error	0902	G	SmxNet (Ethernet, Web TLC)タスクエラー - サーバー生成エラー、TCP/IP の致命的エラー。
Invalid Ethernet (MAC) Address	0A01	F	不揮発性構成メモリに格納されているライブラリのイーサネット (MAC) アドレスが有効ではありません。
Invalid IP Subnet Mask (255.255.255.255)	0A02	F	不揮発性構成メモリ格納されているイーサネットサブネットマスクが有効ではありません。
SCSI Firmware Error	1001	D,G	内部 SCSI タスク処理エラー - 予期しない状態またはハードウェアステータス。
SCSI FIFO Empty	1002	D,G	SCSI コントローラのデータ FIFO が空です。データバイトが含まれている必要があります。
SCSI FIFO Error	1003	D,G	SCSI コントローラのデータ FIFO が空でなければなりません、まだデータバイトが含まれています。
SCSI Gross Error	1004	C,D,G	SCSI コントローラがエラー条件を検出しました - 無効な SCSI バスフェーズまたは DMA エラー。
Illegal SCSI Cnt Cmd	1005	C,D,G	無効なコマンドが SCSI コントローラに送信されたか、またはコントローラが正しいモードに入っていません。
SCSI Invalid Element	1007	D,G	内部 SCSI タスク処理エラー - 無効なタイプが検出されました
SCSI Invalid Int.	1009	D,G	SCSI コントローラが無効な割り込みステータスを通知しました。
Loader Not Ready	2004	C,G	マガジンからの取り出し、マガジンへの格納、スキャン、移動、パススルーができません。または、ローダーが無効なコマンドを検出し、コマンドを中止しました
Door Open (status only)	2009	F	ドアが強制的に開かれているか、またはドアセンサーが故障しています。
Cart Unaccessible	200C	F	LTO ドライブでテープが排出されていないことを示します。ドライブ内のカートリッジがチェンジャからアクセスできません。

Drive In Error	200D	C,G	一般的なドライブエラーが制御タスクにより検出されました。
No Magazine	200E	F	マガジンが取り付けられていないためチェンジャからエレメントを移動できません。
Removal Prevented	200F	F	マガジンからの取り出し時、ドライブからメディア取り出し防止を受け付けました。
Ctl. Firmware Error	2010	C,G	内部タスク間処理エラー。予期しないイベント。SMX送信または受信エラー。
Drive Timeout Error	2030	C,G	LTO ドライブと通信できません。
Drive Code Update Command Error	2080	C,G	SCSI からまたは故障したテープからの更新コード。
Move Command Failure	2081	C,G	ドライブスロット間の Move コマンドが失敗しました。制御タスクによって検出されました。
Open Mail Slot Fault	2090	C,G	ドアを開くときにドア開放センサーのタイムアウトが検出されました。
Open Left Door Fault	2091	C,G	ドアを開くときにドア開放センサーのタイムアウトが検出されました。
Open Right Door Fault	2092	C,G	ドアを開くときにドア開放センサーのタイムアウトが検出されました。
Open Doors Fault	2093	C,G	ドアを開くときにドア開放センサーのタイムアウトが検出されました。
No IP Address Found	20a0	C,G	SMC ルーターが IP アドレスを取得できませんでした。
No IP Address Mode Fault	20a1	C,G	SMC ルーターが静的または IP アドレスモードを検出できませんでした。
Unknown exchange for the async message	20b0	C,G	メッセージを処理するときに予期しない交換が検出されました。
Drive In Error	20c0	C,G	コントロールで SCSI ID を設定できませんでした。
Drive In Error	20c1	C,G	コントロールでドライブを取り付けられませんでした。
Drive In Error	20c0	C,G	コントロールで SCSI ID を設定できませんでした。
Drive In Error	20c1	C,G	コントロールでドライブ取り付けられませんでした。
Motor Fault Condition	3000	C,G	モーターのいずれかに障害が発生しています。再度有効にできませんでした。
Picker Tach Errors	3002	C,G	Picker Tach エラーがスロットチェック時に検出されました。
Bin Fetch Failure	3011	C,G	ローダーで、マガジンからカートリッジをマガジンからの取り出しできませんでした。
Drive Fetch Failure	3013	C,G	ローダーで、ドライブからカートリッジをマガジンからの取り出しできませんでした。
Drive Timeout Failure	3015	C,D,G	ローダーがアンロードコマンドのタイムアウトを検出しました。
Drive Status Failure	3016	C,D,G	マガジンからの取り出し / 格納時にドライブエラーが検出されました。ドライブの動作可能を待ちます。
Drive In Flux Timeout	3017	C,D,G	ドライブでフラックスステータスのクリアを待っている間にタイムアウトになりました。
Drive Load Retry Failed	3018	C,G	ドライブがロードできません。ドライブタスクで検出されました。
Drive Open Door Failed	3019	C,G	ライブドアを開けませんでした。
Drive Close Door Failed	301A	C,G	ライブドアを閉じられませんでした。
Drive Communication Error	301B	C,D,G	タスク間送信、受信失敗。
Drive Get General Status Fail	301C	C,D,G	ドライブ通信が失敗しました。
Drive Get Status 3 Fail	301D	C,D,G	ドライブ通信が失敗しました。
Undefined Config	3020	C,G	ローダーで、予期しない構成。Thunder または Lightning
Orphan Cartridge not flowed	3030	C,G	ローダーが、戻し先が不明なカートリッジをマガジンに正常に詰め込むことができませんでした。
Chassis S/N Mismatch. Previous S/N retained	3031	G	バーコードラベルからスキャンしたシリアル番号が、不揮発性メモリ内に格納されている値と一致しません。
Chassis S/N Character count is not correct	3032	G	有効なシリアル番号バーコードラベルを読み取れませんでした。
Chassis S/N did not scan	3033	G	有効なシリアル番号バーコードラベルを読み取れませんでした。
Chassis S/N save operation failed	3034	G	バーコードラベルからスキャンしたシリアル番号が、不揮発性メモリ内に保存できませんでした。

Motor Firmware Error	3040	C,G	ローダータスクで、予期しないステータスが検出されました (内部ターゲットエラー)。
Loader Received Invalid Command	3041	C,G	ローダータスクで、予期しないコマンドを受け取りました (内部ターゲットエラー)。
Motor Firmware Error	3042	C,G	ローダータスクで、予期しないステータスが検出されました (内部ターゲットエラー)。
Missing Magazine	3050	F	診断で、診断を実行するためにマガジンが取り付けられていません。
No Cartridges In Library	3051	F	診断実行に使用できるカートリッジがありません。
Too Many Cartridges	3052	F	カートまたはドライブのサイクルを実行できません。ローダーはカートリッジが満杯です。
Need 1 Drive Minimum	3054	F	診断実行に使用できるドライブがありません。
Invalid Magazine Type	3057	F	未サポートのマガジンタイプが検出されました。
Magazine Type Change Not Handled	3058	F	未サポートのマガジンタイプが検出されました。
Drive Type Not Supported	3059	F	未サポートのドライブタイプが検出されました。
Diag Fetch, Drive not loaded	305b	F	診断：マガジンからの取り出しするカートリッジが存在していません。
Diag Timeout waiting for drive empty, ready	305d	F	マガジンからの取り出し、ドライブのアンロードを待っていてタイムアウトになりました。
Invalid bin number	305f	F	診断で無効なマガジン番号が検出されました。
Zone Sequence Error	3060	C,G	イジェクトコマンドタイムアウト。
Drive 0 Eject Failed	3074	C,G	イジェクトコマンドタイムアウト。
Drive 1 Eject Fail	3075	C,D,G	イジェクトコマンドタイムアウト。
Drive 2 Eject Fail	3076	C,D,G	イジェクトコマンドタイムアウト。
Drive 3 Eject Fail	3077	C,D,G	イジェクトコマンドタイムアウト。
Diag get drive 0 status failed	3078	C,D,G	ドライブステータスを取得できませんでした。通信エラー。
Diag get drive 1 status failed	3079	C,D,G	ドライブステータスを取得できませんでした。通信エラー。
Diag get drive 2 status failed	307a	C,D,G	ドライブステータスを取得できませんでした。通信エラー。
Diag get drive 3 status failed	307b	C,D,G	ドライブステータスを取得できませんでした。通信エラー。
UnSupported Drive For Requested Operation	3084	F	未サポートのドライブタイプ。
No Retry On Fetch/Stow	308F	F	ローダーな操作を再試行しましたが、再試行は無効でした。
Picker Jammed	3100	C,G	ローダーの初期化時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 2	3102	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 3	3103	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 4	3104	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 5	3105	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 6	3106	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 7	3107	C,G	パススルーマガジンからの取り出し操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 8	3108	C,G	パススルーマガジンからの取り出し操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed 11	310B	C,G	ドライブマガジンからの取り出し操作時にピッカーが詰まりました。
Picker Jammed on Stow	310F	C,G	マガジンへの格納操作後ピッカーが詰まりました。
Picker Retries Exceeded 1	3111	C,G	パススルーマガジンからの取り出し操作時にピッカー再試行回数を超えました。
Picker Retries Exceeded 3	3113	C,G	マガジンマガジンへの格納操作時にピッカー再試行回数を超えました。
Picker Retraction Error	3115	C,G	マガジン検査操作時にピッカーが引っ込みませんでした。

Shuttle Jammed	3200	C,G	シャトルがターゲット位置に到達できませんでした。
Rotary Jammed	3300	C,G	ロータリートラックがターゲット位置に到達できませんでした。
Shuttle on Wrong Side Of The Rotary	3301	C,G	ゾーンインジケータが、電源投入初期化時にロータリートラック上でシャトルが逆方向であることを示しています。
Passthrough Elevator Jammed	3400	C,G	パススルーシャトルがターゲット位置に到達できませんでした。
Vertical Elevator Jammed	3500	C,G	垂直エレベーターがターゲット位置に到達できませんでした。
All Slots Empty	5011	F	予約されているクリーニングスロット内に取り付けられているカートリッジがありません。
Expired Clean'g Cart	5015	F	クリーニングカートリッジの期限が切れているため、クリーニング操作が失敗しました。
Not a Clean'g Cart	5016	F	装てんされたカートリッジがクリーニングカートリッジでないため、クリーニング操作が失敗しました。
Move Command Fail	503B	F	フロントパネルの移動操作が失敗しました。
Clean Operation Timeout	503C	F	ドライブがタイムアウトになったため、クリーニング操作が失敗しました。
Drive Status Fail	503D	F	ライブラリでドライブステータスを取得できなかったため、クリーニング操作が失敗しました。
Command response from unexpected source	7001	D,G	コマンドが送られていないタスクからコマンドを応答を受信しました。
Control command execution failed	7002	D,G	制御タスクからのコマンド応答 OP コードが予想されたものでないか、または識別不可能です。
Control response not matched to a known command	7003	D,G	制御タスクからコマンド応答を受信したが、元のコマンド OP コードを決定することができませんでした。
Loader response not matched to a known command	7004	D,G	ローダータスクからコマンド応答を受信したが、元のコマンド OP コードを決定することができませんでした。
Drive response not matched to a known command	7005	D,G	ドライブタスクからコマンド応答を受信したが、元のコマンド OP コードを決定することができませんでした。
Flash response not matched to a known command	7006	D,G	フラッシュタスクからコマンド応答を受信したが、元のコマンド OP コードを決定することができませんでした。
Drive index on Update Status message was invalid	7007	C,D,G	モジュールから「ドライブ更新ステータス」メッセージを受信しましたが、ドライブのインデックスが範囲外でした。
The Drive response was not expected	7008	C,D,G	送っていないコマンドのコマンド応答をドライブタスクから受信しました。
The opcode for a WORD message was unknown	7009	C,D,G	WORD サイズのメッセージを受信しましたが、メッセージの OP コードを識別できませんでした。
The opcode for a DWORD message was unknown	700A	C,D,G	DWORD サイズのメッセージを受信しましたが、メッセージの OP コードを識別できませんでした。
The button causing library to go offline was unknown	700B	C,D,G	ライブラリをオフラインにするコマンドが正常に完了しましたが、アクションを開始した GUI ボタンを識別できませんでした。
Destination Xchg was Null	700C	C,G	タスクにコマンドを送信しようとしたが、引数交換ポインタは NULL でした。
Sending of a cmd failed	700D	C,G	タスクを交換に関するコマンドを出そうとしたが失敗しました。
Deactivating a drive that is not attached	700E	C,G	制御タスクが、ドライブが接続されていないためドライブを停止する要求が失敗したことを示しています。
Deactivation of a drive failed	700F	C,G	制御タスクが、ドライブを停止する要求が失敗したことを示しています。理由は不明です。
Drive removal failed	7010	C,G	ドライブタスクが、ドライブをパワーダウンする要求が失敗したことを示しています。理由は不明です。
Drive is Active failed	7012	C,G	ドライブタスクが、ドライブがホストコマンドを実行しているかどうかを判別する要求が失敗したことを示しています。理由は不明です。
Control Com Unidentified	7013	C,G	ホットスワップ時に、制御タスクからのコマンド応答を未解決のコマンドと関連付けることができませんでした。

Drive status update failed	7014	C,G	ドライブタスクが、ドライブの現在状態を判別する要求が失敗したことを示しています。理由は不明です。
Loader command execution failed	7015	C,G	ローダータスクが、コマンドが正常に完了していないことを示しています。
Sequential command execution failed	7016	C,G	シーケンシャルタスクが、コマンドが正常に完了していないことを示しています。
Destination Xchg for msg. was Null	7017	C,G	タスクにメッセージを送信しようとしたが、引数交換ポインタはNULLでした。
Bad src mod in peg msg	7018	C,G	リモートモジュールからメッセージを受信しましたが、モジュール番号が範囲外でした。
A Peg message has a pointer to NULL.	7019	C,G	メッセージに NULL メッセージポインタが含まれています。
Xchg conversion failed	701A	C,G	コマンド応答を返すタスクを含むモジュールの番号を決定しようとして失敗しました。
Invalid L-drive number to convert	701B	C,G	ドライブにコマンドを送信しようとしたが、論理ドライブ番号が範囲外です。
Invalid P-drive number to convert	701C	C,G	ドライブにコマンドを送信しようとしたが、物理ドライブ番号が範囲外です。
Invalid mod number to convert	701D	C,G	リモートモジュール内のドライブにコマンドを送信しようとしたが、モジュール番号が範囲外です。
Unknown drive type	701E	C,G	タイプが不明なドライブの詳細ドライブステータスを表示しようとした。
The Scsi response was not expected	701F	C,G	リモートモジュール内の SCSI タスクからのコマンド応答が予期しないものでした。
The Flash response was not expected	7020	C,G	リモートモジュール内のフラッシュタスクからのコマンド応答が予期しないものでした。
Scsi response not matched to a known command	7021	C,G	SCSI タスクからコマンド応答を受信したが、元のコマンド OP コードを決定することができませんでした。
Unexpected state after NonVolConfig cmd	7022	C,G	NonVolConfigPut コマンドを正常に完了した後、保存操作の現在状態が不明でした。
Unexpected state after SCSI mode cmd	7023	C,G	SCSIUpdateModeParameters コマンドを正常に完了した後、保存操作の現在状態が不明でした。
Unexpected state after SCSI init cmd	7024	C,G	SCSIInitCommand を正常に完了した後、保存操作の現在状態が不明でした。
Cartridge reject recovery failed	8001	C,D,G	再試行の後もドライブでテープを正常に装填できませんでした。
Drive Fan stalled	8002	C,D,G	ドライブのホットスワップシュー内のファンが取り付けられていないか、または動かなくなっています。
Drive load did not complete	8003	C,D,G	ドライブにテープを正常に装填できませんでした。
Invalid drive was installed	8004	F	1 つまたは複数のドライブが不明なタイプであるか、本装置ではサポートされていません。
LTO unmask drive failed	8005	F	LTO ドライブのマスク解除操作が失敗しました。
LTO mask drive failed	8006	F	LTO ドライブのマスク操作が失敗しました。
LTO unload drive(in load retry) failed	8007	F	ロード再試行操作時に LTO ドライブでカートリッジをアンロードできませんでした。
Is Drive Unloaded Failed	8008	F	アンロード状態のポーリング中に LTO ドライブがステータスを返せませんでした。
Orphan cartridge recovery failed	9001	C,D,G	マスターモジュールが戻し先が不明なカートリッジをスロット位置に正しく戻すことができませんでした。
Master pass-thru opto failed.	9003	C,D,G	電源投入パススルーモジュールインベントリでマスターモジュールの光センサーが検出されませんでした。
SMX send error	A001	C,G	タスクの交換に関するメッセージを出そうとしてカーネルエラーが発生しました。
SMX receive error	A002	C,G	タスクの交換からメッセージを受信しようとしてカーネルエラーが発生しました。
Comm free list empty	A003	C,G	プールが空であるため、空きプールからメッセージを取得しようとして失敗しました。
Invalid comm. put attempt	A004	C,G	引数メッセージポインタが NULL であるか、または引数交換ポインタが NULL であったため、タスクの交換にメッセージを出そうとして失敗しました。
Invalid comm. get attempt	A005	C,G	引数交換ポインタが NULL であったため、タスクの交換からメッセージを受信できませんでした。

Comm initialization error	A006	C,G	システムのメモリ不足のため電源投入時に通信マネージャを初期化できませんでした。
Put of a NULL comm.	A007	C,G	引数通信ブロックポインタが NULL であったため、タスクの交換に通信ブロックを出せませんでした。
Msg contains no comm.	A008	C,G	空きプールから取得したメッセージに通信ブロックが含まれていませんでした。
Comm return address is unknown	A009	C,G	発信者を特定できなかったためコマンド応答を発信タスクに返そうとして失敗しました。
Bad Image CRC	F001	F	アップロードされたファームウェアイメージに含まれるCRCが不正であり、破損していると思われます。
Flash erase sector failed	F002	F	フラッシュメモリセクタの1つをプログラムできませんでした。
Flash program sector failed	F003	C,G	フラッシュメモリセクタの1つを消去できませんでした。
Bad flash CRC	F004	C,G	フラッシュメモリにプログラムされたファームウェアイメージに含まれるCRCが不正であり、破損していると思われます。
Flash exit error	F005	C,G	内部ラッシュタスクエラー。
Incompatible image	F006	F	アップロードされたファームウェアイメージがライブラリのハードウェアと互換性がありません。たぶん、ファームウェアのバージョンが古いと思われます。
Buffer allocation failed	F402	F	フラッシュタスクで、アップロードするファームウェアイメージを保持するためのバッファ領域を割り当てることができませんでした。

 チェック	* 表 A-2 に載っていないエラーメッセージが表示された場合、FSC を書き留めて、保守サービス会社に連絡してください。
--	---

N8160-50
Upgrade 型 LTO ライブラリ (ラックマウント用)

取扱説明書
2003 年 6 月 初版
2003 年 7 月 第二版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7 番1 号
TEL(03)3454-1111 (大代表)

このマニュアルは再生紙を使用しています。